休眠預金助成事業

# I♡新小校区福祉プロジェクト

# 事後評価報告書

# 1.基本情報

（1）実　行　団　体：　一般社団法人富田林市人権協議会
（2）実行団体事業名：　I♡新小校区福祉プロジェクト
（3）資 金 分 配 団 体：　一般財団法人大阪府地域支援人権金融公社
（4）資金分配団体事業名：ひと・まち・げんき助成事業
（5）事 業 の 種 類　：　草の根活動支援事業
（6）実　施　期　間：　2020年4月1日～2023年3月31日
（7）事 業 対 象 地 域:　富田林市立新堂小学校校区

# ２.事業概要

## （１）事業によって解決をめざす社会課題

富田林市新堂小学校区は、市のほぼ中心に位置し、農家の多い古くから集落、同和対策として建設された市営住宅、新たにできた大規模府営住宅、中小企業団地、田園地帯に開発された商業地域とマンション群で構成されており、それぞれの歴史を持った多様な地域で成り立っている。しかし、これまで古い町を中心に強い絆で結ばれていた この地域が、新しい住民の流入、経済格差の拡大、高齢者世帯等の孤立等により絆がほころびつつあり、この状況を新しい福祉のネットワークで紡ぎなおそうとするのがこのプロジェクトの課題である。

## （２）想定される直接対象グループ

直接的には、校区内の高齢者、生活困窮者、障がい者、ひきこもりの人、外国人、支援の必要な子どもであるが、多くの人が支援に加わり、また、支援される側にもなれるという相互作用的な関係、包摂的なまちづくりをめざす。

# ３．解決すべき課題の確認のための
# データによる分析

- **データ①**新堂小学校区のの人口は市全体（16小学校区）の約9.4％を占め比較的人口密度が高い。人口減少率は市全体より高いが地域差がある。市内で外国人の比率が最も高い校区の一つである。
- **データ②**生活保護率は市全体の2倍以上で、生活困窮状態の世帯が多い。しかし、それは、清水町、若松町1丁目、緑ヶ丘町の公営住宅を中心とした地域で突出している。
- **データ③**高齢化率は市全体よりやや高い。特に75歳以上の高齢者の割合が高い。高齢化率も公営住宅地域が高い傾向にある。
- **データ④**データが限られるが、小中学生の要保護・準要保護率も市全体より高く、やはり公営住宅地域に集中している。これは、この地域の生活困窮状態が子どもの生活にも反映していることがうかがえる

# 校区の現状を知るためのデータの確認①
## 新堂小学校区の人口分布と富田林市での位置

**プロジェクト実施期間中の新堂小学校区内各町人口分布の変化**（富田林市人口統計より）

| 町名 | 2019年12月31日現在 | | | | 2022年12月31日現在 | | | | 人口増加率（%） | 世帯増加率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 人口 | うち外国人 | 外国人比率 | 世帯数 | 人口 | うち外国人 | 外国人比率 | 世帯数 | | |
| 清水町 | 2,148 | 63 | 2.9% | 1,202 | 1,915 | 62 | 3.2% | 1,134 | -10.8 | -5.7 |
| 若松町1丁目 | 981 | 21 | 2.1% | 560 | 918 | 12 | 1.3% | 537 | -6.4 | -4.1 |
| 若松町2～5丁目 | 2,868 | | | 1,454 | 2,987 | | | 1,559 | 4.1 | 7.2 |
| 若松町東1～3丁目 | 247 | 143 | 3.3% | 161 | 233 | 170 | 3.8% | 156 | -5.7 | -3.1 |
| 若松町西1～3丁目 | 1,228 | | | 676 | 1,295 | | | 735 | 5.5 | 8.7 |
| 緑ヶ丘町 | 541 | 3 | 0.6% | 253 | 479 | 1 | 0.2% | 232 | -11.5 | -8.3 |
| 中野町1～3丁目 | 1,837 | | | 835 | 1,774 | | | 861 | -3.4 | 3.1 |
| 中野町東1丁目 | 18 | 50 | 2.6% | 12 | 16 | 63 | 3.5% | 10 | -11.1 | -16.7 |
| 中野町西1～2丁目 | 32 | | | 17 | 36 | | | 20 | 12.5 | 17.6 |
| 大字新堂 | 535 | ― | ― | 311 | 453 | 17 | ― | 263 | -15.3 | -15.4 |
| 大字中野 | 3 | ― | ― | 2 | 7 | 4 | ― | 6 | 133.3 | 200.0 |
| 計 | 10,438 | 280 | 2.7% | 5,483 | 10,113 | 329 | 3.3% | 5,513 | -3.1 | 0.5 |
| 富田林市全体との比率 | 9.4% | 23.1% | (+1.6%) | 10.7% | 9.4% | 16.6% | (+1.5%) | 10.6% | ― | ― |
| 富田林市全体 | 111,033 | 1213 | 1.1% | 51,382 | 108,105 | 1,980 | 1.8% | 52,074 | -2.6 | 1.3 |

# 校区の現状を知るためのデータの確認②
## 新堂小学校区内生活保護世帯・保護率

**プロジェクト実施期間中の新堂小学校区内地区別生活保護世帯数・保護率**（富田林市福祉事務所実績報告より）

| 地区名 | 2019年2月末現在 | | | 2022年3月末現在 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 被保護世帯（世帯） | 被保護者数（人） | 地区保護率（‰） | 被保護世帯（世帯） | 被保護者数（人） | 地区保護率（‰） |
| 清水町（主に府営住宅） | 186 | 286 | 130.5 | 176 | 265 | 132.6 |
| 若松町1丁目（主に市営住宅） | 93 | 121 | 123.5 | 84 | 110 | 114.5 |
| 新堂（主に若松町1丁目以外の若松町） | 60 | 139 | 28.0 | 116 | 146 | 29.5 |
| 緑ヶ丘（主に府営住宅） | 13 | 17 | 30.1 | 15 | 22 | 45.2 |
| 中野（主に中野町1～3丁目） | 27 | 39 | 20.8 | 25 | 34 | 18.5 |
| 新堂小学校区合計 | 379 | 602 | 57.67 | 416 | 577 | 57.06 |
| 富田林市全体 | 1,720 | 2,379 | 21.31 | 1,747 | 2,292 | 21.12 |

# 校区の現状を知るためのデータの確認③
## 新堂小学校区内高齢者数・高齢化率

プロジェクト実施期間中の新堂小学校区内地区別高齢者数・高齢化率（富田林市高齢介護課より）

| | 2019年12月31日現在 | | | | | 2022年12月31日現在 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新堂地区　高齢者数 | 計（65歳以上） | 計（75歳以上） | 人口総数 | 高齢化率 | 75歳以上割合 | 計（65歳以上） | 計（75歳以上） | 人口総数 | 高齢化率 | 75歳以上割合 |
| 清水町 | 834 | 527 | 2148 | 38.8% | 24.5% | 790 | 512 | 1915 | 41.3% | 26.7% |
| 若松町１丁目 | 364 | 195 | 981 | 37.1% | 19.9% | 355 | 209 | 918 | 38.7% | 22.8% |
| 若松町２～５丁目 | 876 | 430 | 2868 | 30.5% | 15.0% | 873 | 480 | 2987 | 29.2% | 16.1% |
| 若松町東 | 42 | 18 | 247 | 17.0% | 7.3% | 42 | 22 | 233 | 18.0% | 9.4% |
| 若松町西 | 326 | 165 | 1228 | 26.5% | 13.4% | 347 | 186 | 1295 | 26.8% | 14.4% |
| 緑ヶ丘町 | 184 | 100 | 541 | 34.0% | 18.5% | 185 | 104 | 479 | 38.6% | 21.7% |
| 中野町（中野町東、中野町西、大字中野を含む） | 483 | 237 | 1890 | 25.6% | 12.5% | 491 | 254 | 1833 | 26.8% | 13.9% |
| 大字新堂 | 185 | 118 | 535 | 34.6% | 22.1% | 159 | 101 | 453 | 35.1% | 22.3% |
| 新堂小学校区計 | 3294 | 1790 | 10438 | 31.6% | 17.1% | 3242 | 1868 | 10113 | 32.1% | 18.5% |
| 市全体 | | | | 29.9% | | | | | 31.0% | |

# 校区の現状を知るためのデータの確認④

## 新堂小学校区内小学生地区別準要保護・保護人数

プロジェクト実施期間中の新堂小学校区内小学生地区別準要保護・要保護人数（富田林市教育委員会より）

| 地区名 | 2020年1月21日現在 | | | | 2022年3月末現在 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 準要保護人数（人） | 要保護人数（人） | 認定率（%）（保護＋準要保護） | 認定率（%）（準要保護のみ） | 準要保護人数（人） | 要保護人数（人） | 認定率（%）（保護＋準要保護） | 認定率（%）（準要保護のみ） |
| 清水町（主に府営住宅） | 72 | 14 | 83.5 | 69.9 | 46 | 5 | 89.5 | 80.7 |
| 若松町1丁目（主に市営住宅） | 28 | 1 | 70.7 | 68.3 | 13 | 3 | 50 | 40.6 |
| 新堂（主に若松町1丁目以外の若松町） | 43 | 7 | 42.7 | 42.7 | 66 | 2 | 46.9 | 45.5 |
| 緑ヶ丘（主に府営住宅） | 9 | 0 | 27.3 | 27.3 | 3 | 0 | 13.6 | 13.6 |
| 中野（主に中野町1～3丁目） | 16 | 1 | 27.4 | 25.8 | 14 | 2 | 31.4 | 27.5 |
| 新堂小学校区合計 | 168 | 23 | ー | ー | 142 | 12 | ー | ー |
| 富田林市全体 | 1,174 | 79 | 24.4 | 22.8 | ー | ー | ー | ー |

プロジェクト実施期間中の新堂小学校区内中学生地区別準要保護・要保護人数（富田林市教育委員会より）

| 地区名 | 2020年1月21日現在 | | | | 2022年3月末現在 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 準要保護人数（人） | 要保護人数（人） | 認定率（%）（保護＋準要保護） | 認定率（%）（準要保護のみ） | 準要保護人数（人） | 要保護人数（人） | 認定率（%）（保護＋準要保護） | 認定率（%）（準要保護のみ） |
| 清水町（主に府営住宅） | 46 | 8 | 84.4 | 71.9 | 32 | 4 | 73.5 | 65.3 |
| 若松町1丁目（主に市営住宅） | 8 | 1 | 42.9 | 38.1 | 11 | 5 | 66.7 | 45.8 |
| 新堂（主に若松町1丁目以外の若松町） | 21 | 6 | 33.3 | 25.9 | 29 | 2 | 67.4 | 63.0 |
| 緑ヶ丘（主に府営住宅） | 4 | 0 | 33.3 | 33.3 | 3 | 0 | 21.4 | 21.4 |
| 中野（主に中野町1～3丁目） | 11 | 2 | 26.5 | 22.4 | 8 | 1 | 26.5 | 23.5 |
| 新堂小学校区合計 | 90 | 17 | ー | ー | 83 | 12 | ー | ー |
| 富田林市全体 | ー | ー | ー | ー | ー | ー | ー | ー |

# 4.課題設定の再確認とアウトカム

- このように、古いコミュにティーとしての新堂小学校区が、時代の変化の中で多様化し、困窮者世帯、高齢者世帯、単身者世帯が増加し、地域格差が拡大する中で、住民の絆がほころびつつある状況が見て取れる。
- この間、若松町1丁目では、部落解放運動の成果として、様々な公共施設の建設や新しい福祉の仕組みが近隣地域にも呼びかけられながら取り組まれてきたが、それが新堂小学校区全体に浸透しているとはいえず、まだ同和地域に対する目には見えない忌避意識が存在する。
- この間、各町会や地域で取り組まれてきた様々な取り組みを小学校区全体に広げ、お互いに交流し協力することで、小学校区全体の住民同士の壁を取り払い、住民全体で校区を盛り上げ暮らしやすい、住み続けたいまちづくりにつなげていくことが目標である。
- 現在進行する、貧困化や孤立化はこのプロジェクトでは解決することはできない。しかし、それぞれの地域の現状を正しく認識し、同じ校区内で一緒に暮らしていく住民として、お互いに持っている力を出し合い、支援し、支援される関係を作ることで、暮らしやすい、住み続けたいまちづくりを実現することは可能だと考える。
- 事業を進める中で、実行委員会の中で自然に出てきたスローガンだが、以上をまとめると「**オープンなつながりでコミュニティーを紡ぎなおす**」ということができる。

**（1）中長期アウトカム**

・年令、障がいの有無、地域、国籍等にかかわらず誰もが気軽に集まり交流でき、誰もが社会参加し活躍できるまちづくり

・家庭の経済的な条件にかかわらず子どもたちが存分に学習し、友達をつくり、自尊感情を育てることができるまちづくり

**（2）短期アウトカム**

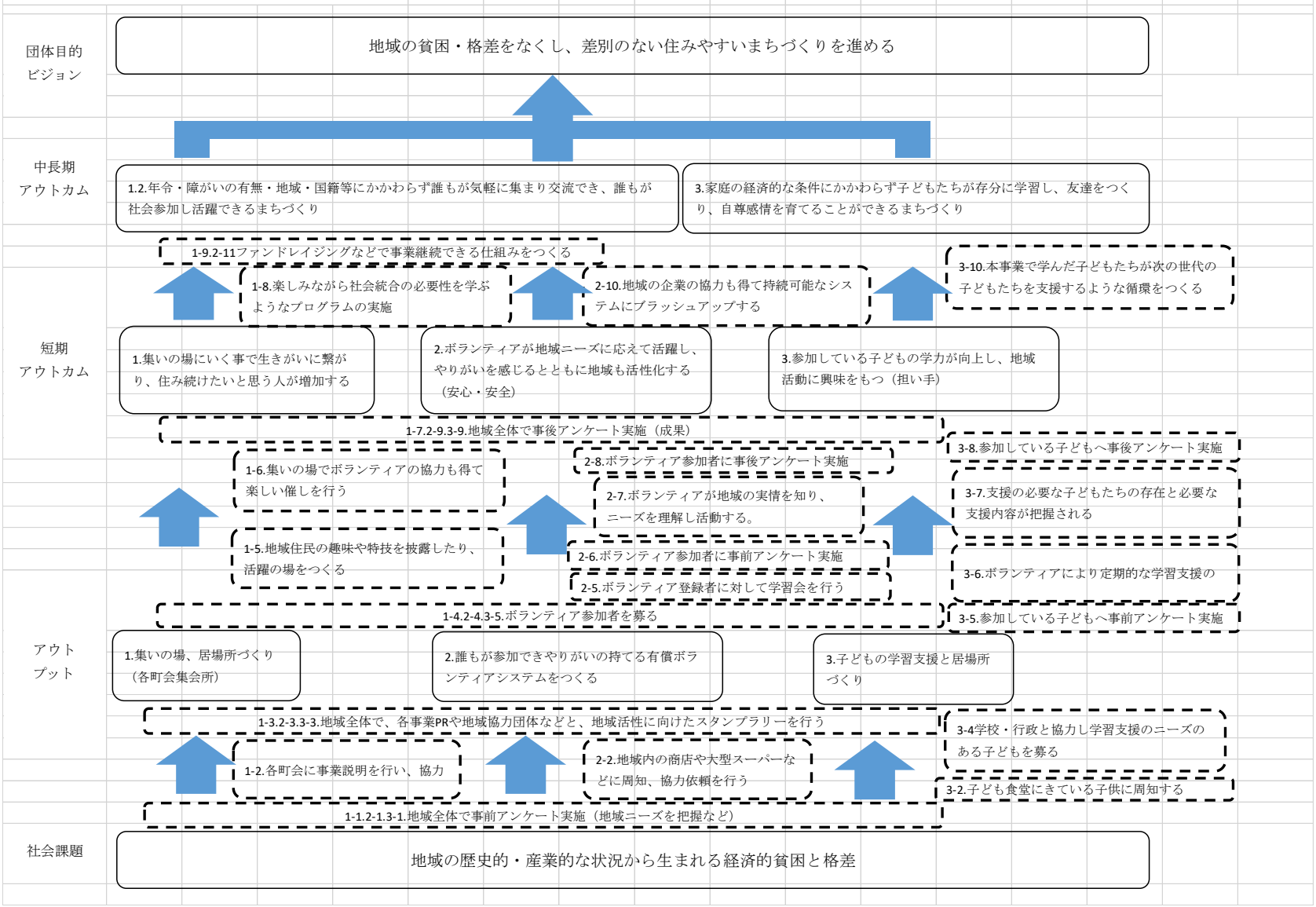
1.集いの場に行く事で生きがいに繋がり、住み続けたいと思う人が増加する

2.ボランティアが地域ニーズに応えて活躍し、やりがいを感じるとともに地域も活性化する

3.参加している子どもの学力が向上し、地域活動に興味をもつ

（次ページTOC参照）

# 本プロジェクトのTOC



# 5.プロジェクト開始にあたっての準備

～実行委員会の結成と「新堂小学校区の元気・参加・未来のためのアンケート」の実施～

- プロジェクトの実施主体として、（一社）富田林市人権協議会、（社福）富田林市社会福祉協議会、民生・児童委員会新堂地区委員会、（医法）新堂診療所により**I♡新小校区福祉プロジェクト実行委員会**を結成した。この実行委員会により、福祉、医療など広い視野と地域に根付いた活動を実践することができた。
- プロジェクト開始にあたり、新堂小学校区全世帯を対象に**「新堂小学校区の元気・参加・未来のためのアンケート」**を実施した（内容及び集計結果は添付資料参照）
- このアンケートによって、主に次の成果を得られた。

①校区内のすべての町会と地元企業・商店の協力を得て事業を展開するというプロジェクトの活動スタイルを方向付けることができた。

②アンケートの結果、その後の活動主体となる住民の地域ボランティアへの潜在的意欲を確認し、事業成功への確信を持てた。

（詳細添付資料「アンケート集計結果」参照）

# 6.インプットとアウトプット、その達成状況1

## （1）集いの場、居場所づくり

　事業開始後、すぐにコロナ感染症の蔓延となり、人が集まることができず苦戦をした。しかし、特別助成を受けて、コロナ下でも対応できるITC機器の整備や、コロナ下で「コロナ下で誰もが参加できる集まらないイベント」を実行委員会で工夫し、次のような取り組みと結果を得た。

**①コロナ下でも地域活動ができるLINEの活用**

　LINE活用研修を各地町会、老人会等で4回実施した。

この結果、プロジェクト公式LINEアカウント登録者数が119名（2023年1月現在）となった。

# インプットとアウトプット、その達成状況2

**②集まらないイベント開催「新小校区まち歩きスタンプラリー」**

　コロナ下でも多くの住民が参加できるイベントとして、校区の**まち歩きスタンプラリー**が提案され2021年6月27日、4町会（連合町会含む）、２地元企業、公共施設等の協力により、6か所のスタンプポイントが開設され、住民のべ833人の参加で開催された。

　このイベントは、非常に好評で、2022年11月27日、**第2回スタンプラリー**が５町会、3地元企業、公共施設、学校園等の協力で、スタンプポイントが8か所に拡大し、住民のべ1442人、ボランティア57人以上の参加で開催された。今後も継続してほしいという感想が多く寄せられた。

# インプットとアウトプット、その達成状況3

**③公式わなげ競技による交流・健康づくり**

　プロジェクト後半に清水町会からの提案で、誰でも参加できる公式わなげ競技による集いの場・居場所づくりを実施した。わなげセットを15セット購入し、各町会で講習会を3回実施した。結果、清水町会は、富田林市わなげ大会、大阪府わなげ大会に参加した。今後、新堂小学校区内町会対抗わなげ大会開催を予定している。

# インプットとアウトプット、その達成状況4

**（2）地域有償ボランティアシステムづくり**

- 地域の中で支え、支え合う関係を作るために、インセンティブを伴う有償ボランティアシステムを構築した。まず、2021年10月29日に校区内住民に呼びかけ、全体説明会を開催し20名が参加した。説明会では、これまで校区内で実施されてきたボランティア活動を紹介し、今後どのような活動が必要か話し合った。
- 2022年3月には、全体説明会を踏まえ、課題別のボランティアオリエンテーションを5回開催し、のべ58名が参加した。
- 2021年4月から、「わくわくボランティアカード」による有償ボランティアシステム（10回のボランティアで地元商店の500円の商品券）をスタートさせ、80人以上がボランティア登録を行った。

# インプットとアウトプット、その達成状況5

わくわくボランティアカードの活用により、地域のボランティア活動を一定可視化することができた。2023年1月末現在のボランティア活動の実績は次の表の通りである。

《ボランティア活動の実績》

| 一┌┘⓪ⓇⓆ㋡唪⊂ | 一┌┘⓪ⓇⓆ⊂<br>咱嫶凍⊂ | 佰㈥㊂凍⊂ | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 一┌┘⓪ⓇⓆ⊂<br>Ⓩ┌ ❸⊂ | 奠僞⊂<br>一┌┘⓪ⓇⓆ⊂ | 滸⊂ |
| 亡嫊倚嘩兩⊂ | ⊖⊕ ⊂写⊂ | ⊛⊘⊕ ⊂㊂⊂ | 祜⊂ | ⊛⊘⊕ ⊂㊂⊂ |
| ⑭⑯.(u)兩售⊂ | ⊕⊛ ⊂写⊂ | ⊖⊖⊕ ⊂㊂⊂ | 祜⊂ | ⊖⊖⊕ ⊂㊂⊂ |
| 吟6月觚倆Ⓒ⊂ | ⊖⊕ ⊂写⊂ | ⊖⊔⊗ ⊂㊂⊂ | 祜⊂ | ⊖⊔⊗ ⊂㊂⊂ |
| 僱6月函6月健依ホ⊂ | ⊘⊕ ⊂写⊂ | ⊕⊖ ⊂㊂⊂ | ⊖⊕⊗ ⊂㊂⊂ | ⊖⊖⊙ ⊂㊂⊂ |
| 参6月函6月健依ホ⊂ | | 祜⊂ | ⊕⊗⊘ ⊂㊂⊂ | ⊕⊗⊘ ⊂㊂⊂ |
| ┌ ⓜⓎ匝劾⊂ | 祜⊂ | ⊗⊔ ⊂㊂⊂ | 祜⊂ | ⊗⊔ ⊂㊂⊂ |
| 4.(a)匈⊂ | ⊛ ⊂写⊂ | ⊕⊗ ⊂㊂⊂ | 祜⊂ | ⊕⊗ ⊂㊂⊂ |
| 滸⊂ | ⊕⊔⊛ ⊂写⊂ | ⊕⊐⊖⊖⊔ ⊂㊂⊂ | ⊗⊘⊛ ⊂㊂⊂ | ⊕⊐⊖⊗⊛ ⊂㊂⊂ |

ă 一┌┘⓪ⓇⓆ咱嫶倚凍(b)⊖⊔⊖⊗ 嚀⊕ 絭壁繿你(a)へ(Ⅰ)咱嫶凍⊂

ă 佰㈥㊂凍(b)⊖⊔⊖⊕ 嚀⊘ 絭⊕ 喻裃銘蛻銘鉏嚀鈥絭銘紹喻繿你(a)へ(Ⅰ)佰㈥倚凍

ă む写14.垃凍(a)一┌┘⓪ⓇⓆ18.咱嫶⑱13.⑲Ⓓ充亨(u)⑰Ⓒ(q)⑳⊂

# インプットとアウトプット、その達成状況6

## （3）子どもの学習支援と居場所づくり

### ①小学生学習支援教室

　2022年3月16日のこども学習支援ボランティアオリエンテーションの参加者を中心に、4月28日から小学生学習支援教室を立ち上げた。この教室は、子ども食堂「ほっとスペースとんだばやし」参加児童から参加希望者を募り、毎週木曜日子ども食堂開催日に実施している。2022年3月現在、子どもの登録者は23人、ボランティア登録者が24人で、毎回子ども12～13人、ボランティア8～10人が参加し安定的に運営している。内容は主に宿題援助で、毎回レクレーションも実施している。ボランティアは地元住民、元教師、大学生等多様で、新堂小学校とも連携して運営している。

# インプットとアウトプット、その達成状況7

**②中学生学習支援教室「陽だまり」**

　これまで自主的に行われてきた若松町1丁目地区の中学生放課後学習教室を、新堂小学校区を校区に含む第一中学校教師の協力を得て、小中学校区全体に対象を拡大し、大学生等のボランティアも強化して毎週火曜日夜実施している。登録中学生は約20名、ボランティア登録者は22名。授業の補習と高校受験勉強を主に行い時々レクレーションを実施している。

# 7.事後評価　短期アウトカムの検討

- 短期アウトカムの評価にあたっては、最初に実施した「新堂小学校区の元気・参加・未来のためのアンケート」の集計結果との比較で検討すべきだが、前回アンケートを住民に配布した際の町会による市広報誌配布システムが市による業者委託へと大幅に変わり、アンケートの配布・回収を町会にお願いすることが不可能になったことから、大規模なアンケートを実施することができず、その代わりに実施した、課題ごとに対象を限定した小規模なアンケート、各ボランティア活動の振り返り会議、まち歩きスタンプラリー参加者の感想等を元に定量的・定性的アウトカムの達成度を検討する。

# （１）プロジェクト実行委員の受け止め
## ～全員前進と認識。しかし、やや負担も～

- 実行委員会は４名＋αで、ほぼ毎月定期的に開催されたが、アンケートでは無記名の４人が回答した。
- このプロジェクトによって、新堂小校区の交流や絆が深まり、福祉が増進したかどうかについて、２人が「大いにそう思う」、２人が「かなりそう思う」と答えている。
- その理由として「町会間の垣根が低くなり交流が進んだ。活き活きとボランティアに関わる人が増えた」「今まで無かったいろんなことができた」等を挙げている。
- 効果のあった事業として「まち歩きスタンプラリー」「ボランティア登録」が75％を占めた。
- このプロジェクトは実行委員として楽しかったか問うたところ、３人は「大いに楽しかった」と答えたが、１人は「何とか成功させたいと思ったので、あまり楽しむ感覚にはなれなかった」と答えている。

# （２）校区内町会長の受け止め
## ～概ね肯定的評価。今後の継続も展望できる～

- 校区内町会は12町会あるが、プロジェクト期間中に町会長の一部町会長の交代があったため前町会長も含め15名にアンケートを送付し、7名から回収できた。（回収率46.7％）
- プロジェクト事業に参加したことのある町会長（前町会長）は3人（42.9％）であった。
- 参加した事業で最も多いのは「まち歩きスタンプラリー」であった。（28.6％）
- 「プロジェクトで地域の助け合いや交流の輪が広がったと思うか」の質問に対し、6人（85.7％）が「そう思う」と答えた。
- 助成終了後の今後の協力については、5人（71.4％）が「協力したい」と答えた。
- 「協力は難しい」と答えた2人の理由は「役員の変更があるので」「助成金のが使えない」であった。

# （3）地区民生・児童委員の受け止め
## ～積極的な協力姿勢～

- 校区内の民生児童委員は14名であるが、プロジェクト期間中に一部の交代があったため前委員も含め20名にアンケートを送付し、12名から回収できた。（回収率60.0％）
- 回答者は全員プロジェクトの事業に参加している。特に「スタンプラリー」に11人（91.7％）、通学路の見守りに7人(58.3％)参加している。（複数回答有）
- 回答者のうち8人（66.7％）が「プロジェクトによって地域の助け合いや交流の輪が広がった」と答え、助成金終了後も続けてほしいという意見が多かった。
- 今後の協力については11人（91.7％）が「協力したい」と答え、「わからない」と答えた人は高齢を理由に挙げた。

# （4）校区交流会議参加者の受け止め
## ～連携の可能性が広がる～

- プロジェクト実行委員会は、富田林市内の各小学校区に組織されている「校区交流会議」とも連携して事業を進めてきた。「校区交流会議」は校区内の住民、関係機関で構成されている。
- 2022年12月20日に校区交流会議が開催され、19名が参加した。そこで、第2回スタンプラリーの感想、事業への評価に関するアンケートを実施し、8通を回収した。（回収率42.1％）
- 7人（87.5％）がプロジェクトの事業に参加したことがあった。
- 回答者全員がプロジェクトで「地域の助け合いや交流の輪が広がった」と回答した。
- 校区交流会議がプロジェクトの事業を引き継ぐことについて7人（87.5％）が「よいと思う」と答えた。

# （5）子ども食堂ボランティア参加者の受け止め
# ～世代を超えた参加とボランティアの楽しさの実感～

- ボランティアシステムを構築する中で、地域の子ども食堂「ほとスペースとんだばやし」へのボランティアを増やすことができた（調理2名、受付2名）登録ボランティア17名
- このボランティアでは、中学生から80歳まで幅広い世代が参加しているのが特徴である。
- 2022年12月15日、ボランティアによる振り返りワークショップを行い8名が参加し、アンケートも実施した。
- 参加者のうち6人（75％）がほぼ毎週ボランティアに参加している。また、全員が「このボランティアを今後も継続してみたい」と回答している。
- ワークショップでは、大人からは「やりがいになっている」「子供の笑顔を見るのが楽しい」という意見が、中学生からは「地域の人と関わるのが楽しい」「自分の居場所ができたという感じ」といった意見が出た。
- わくわくボランティアカードは「励みになる」「達成感があってすごく楽しい」「努力が認められ報われた気がする」と肯定的であった。
- 参加者全員が「プロジェクトによって地域の助け合いや交流の輪が広がった」と答えた。

# （6）高齢者配食ボランティア参加者の受け止め

## ～ボランティアで元気になった！～

- ボランティアシステムを構築する中で、校区の高齢者配食サービス「たんぽぽ」（月～金昼食で実施）へのボランティアを3名増やすことができた（登録ボランティア21名）
- 2022年12月15日、ボランティアによる振り返りワークショップを行い8名が参加し、アンケートも実施した。
- 参加者のうち5人（62.5％）が月1回くらいの参加で、できる範囲で参加しているボランティアが多い。
- 7人（87.5％）がこのボランティアを今後も継続しようと思っている。
- ワークショップでは、「病気で体が不自由な中で、できる範囲でボランティアに参加し、だんだんやりがいを持ち、体も元気になってきて、さらに活動の幅を広げ、2023年度から地域の民生委員に就任した」というエピソードが披露された。他のボランティアも配食による地域の人との交流、知らなかった地域の様子がわかるようになったなどの、やりがいを感じる意見が多く出た。
- わくわくボランティアカードは「うれしい、楽しみで続けられる」「積み上げを実感する」といった意見が出された。
- 参加者のうち7人（87.5％）「プロジェクトによって地域の助け合いや交流の輪が広がった」と答えた。

# （7）小学生子ども学習支援に参加している子どもたちの受け止め1

- 2022年4月28日の開始から、最初は月1回、6月から月2回、9月から毎週と、徐々に開催回数を増やしてきた。
- 子ども食堂「ほっとスペースとんだばやし」と連携しているが、コロナ下では、お弁当は各自持ち帰って食べてもらっている。
- 宿題を中心に支援しているが、後半はレクレーションも実施している。外国人の子どもの母親も一緒に勉強している。
- 2022年3月までで子どもの登録者は23名、ボランティア登録者は24名で、毎回子どもは平均12人、ボランティアは平均10人参加している。

# （7）小学生子ども学習支援に参加している子どもたちの受け止め2
## ～けっこう役に立っていると実感～

- 2023年3月16日に参加者にアンケートを実施し、12人の回答を得た。
- 学習支援に参加した理由は、「家の人に言われたから」からが最も多く7人（58.3％）、続いて「家では勉強できないから」「その他」が3人あ（25％）となっている。
- 回答者のうち10人（83.3％）がほぼ毎週参加している。
- 内容については、「時間が長すぎる」が5人（41.6％）、「多すぎる」が4人（33.3％）となっているが、一方、「少ない（物足りない）」「もっと時間が欲しい」「宿題以外の勉強もしたい」という意見もある。
- 学習支援が役に立っているかについては、「とても役に立っている」「役に立っている」を合わせて8人（66.7％）になる。
- ボランティアの教え方については、10人（83.3％）が「とてもよくわかる」「よくわかる」と答えている。
- 「これからも学習支援に参加したいか」という問いについては、10人（83.3％）が参加したいと答えている。

## （8）小学生子ども学習支援に子どもを参加させている

### 保護者の受け止め

### ～肯定的受け止めだが子どもとはちょっと認識のずれ～

- 対象13世帯のうち7世帯回収（回収率53.8％）
- 子どもを学習支援に参加させた理由は、「本人が行きたいと言ったから」が4人（57.1％）、次に「もっと勉強をさせたいと思ったから」2人（28.6％）、「家では勉強できないと思ったから」「知人や友人から聞いて」各1人（14.2％）と続く。「家の人に言われたから」がもっとっも多い子どもの回答と少し認識のずれがあるようだ。
- 学習の時間は「ちょうどよい」が4人（57.1％）で最も多く、内容も「今のままでよい」が5人（71.4％）で最も多い。保護者は現在の学習支援を肯定的に受け止めていると考えられる。
- 子どもの勉強に役立っているかという質問に対しても6人（85.7％）「とても役に立っている」と答えている。

# （9）小学生子ども学習支援に参加している　ボランティアの受け止め
## ～安定的な運営と学校との連携の成果～

- このボランティアの特徴は、それまで地域活動に参加していなかったがプロジェクトをきっかけに新たに始めたという人がほとんどである。
- その構成は、大学生が半数で、地域の住民、元教師と多様で、地域外からも多く参加している。2022年9月29日、2023年3月30日に2回ボランティア会議を開催している。
- ボランティアは毎回約10人が参加しているが、アンケートでは6人の回答を得た。
- 回答者のうち、8割がほぼ毎週ボランティアに参加している。
- このボランティアには8割がやりがいを感じているが、子どもの成績アップにつながっているかについて、「そう思う」と回答しているのは5割である。
- このボランティアを継続したいと考えているのは約7割で、「わからない」と答えた人の理由は、仕事や学業の都合を挙げている。
- 約2時間の支援に2000円の謝礼を出しているが、その金額については約8割が「ちょうどよい」と答え、約2割が「わからない」と答えている。
- 3月30日のボランティア会議には地元の小学校教諭も参加し、この学習支援には必要と思われるこどもが多く参加していること、支援活動との連携が学校運営にも役立っているっことが報告された。また、中学校教師からは、小学校から中学校への継ぎ目のない支援を目指したいと発言があった。

# （10）校区まち歩きスタンプラリー参加者の受け止め
## ～盛り上がったイベント。新しい発見の連続～

- プロジェクトの事業として最も多くの人が参加し、かかわった2回の校区まち歩きスタンプラリーについて振り返る。
- アンケートは取っていないので、多数寄せられた感想から抜粋して紹介する。
- 「楽しかった。たくさんの出会いがあった」
- 「コロナで外に出る機会が減ったが、ラリーは良い運動になった」
- 「校区がこんなに広いとは知らなかった。知らない場所がたくさんあった」
- 「各町会や団体・企業がそれぞれ工夫をしてスタンプポイントを運営していたのが良かった」
- 「企業として参加して、住民にもっと自分たちのことを知ってもらいたいと思った。」
- 「たくさん歩くと景品をもらえるのでやりがいになった」
- 「今後もぜひ続けてほしい」

# （11）I♡新小校区福祉プロジェクト事業報告会

- 最後に、事業の総括として2023年2月17日に人権文化センターで開催された「事業報告会」について振り返る。
- 報告会には、実行委員、町会役員、民生児童委員、社会福祉協議会、行政福祉関係者、保育園・小学校関係者、ボランティア参加者等32名が参加し、事業報告を聴いた。
- また、富田林市が進めている増進型地域福祉との連携を図るため、市地域福祉推進委員会委員長で桃山学院大学教授の小野達也先生の講演をお願いした。
- 報告会では、ボランティア参加者の具体的エピソード等も語られ、小野先生により増進型地域福祉との関連が説明される中で、関係者が引き続きこの事業を発展させていくという思いを共有できたと考える。
- 報告会に向けて写真やイラストを豊富に使った事業報告書を作成し、校区内各町会長、民生児童委員、行政関係者、福祉関係者、協力企業、関係団体等ひろく配布した。

# 8.中長期アウトカムに向けどれだけ前進できたか

- 以上のような、短期アウトカムの達成状況を踏まえ、本プログラムの中長期的アウトカムに向けどれだけ前進しているのかを検討したい。
- 短期アウトカムの達成状況によって、私たちは中長期アウトカムの実現に向け、その基盤として大きく次の2点が前進できたのではないかと考える

①各町会の取り組みが校区全体に広がり垣根が低くなった。特に若松町1丁目で先進的に取り組まれてきた子ども食堂や高齢者配食サービス等について、地域内にとどまらず校区内全体で取り組んでいく条件が整えられてきた。また、他の地域・町会も、事業を通じてお互いを知り、協働することによって垣根が低くなり、交流が活発になった。

②事業・ボランティア活動を通じて、いろいろな世代が事業に参加するようになった。これまでの、ボランティアはどちらかというと高齢者中心に担われてきたが、ボランティアシステムの可視化によって、中学生、大学生、健康等の理由でこれまであまり表に出れなかった人たちが参加するようになり、今後の地域の少子高齢化を見据えた地域共生社会への視野が広がったといえる。

- 以下、この2点を踏まえながら、具体的な変化（エピソード）紹介しながら、中長期アウトカムへの前進（社会的インパクト・変化）を確認したい。

# ①各町会の取り組みが校区全体に広がった

- まち歩きスタンプラリーでは、多くの住民が校区内を隅々まで歩くことによって、これまで気が付かなかった各町会の雰囲気を知り、また各町会のスタンプポイントで出される地域発見クイズなどで新しい発見をし、人々との出会いがあり、広く校区としての一体感を感じ取ることができた。
- これまで、人権文化センターは地域の人しか使えないと思い、一度も訪ねたことがないという校区内の町会役員等もいたが、（一社）富田林市人権協議会が事業の主体となることにより、人権文化センターが活動の拠点となり、多くの人が人権文化センター、人権協議会を訪ねるようになり、地域の垣根が低くなった。地区民生児童委員会、校区交流会議などは定期的に人権文化センターで開催されるようになった。
- 人権協議会では、地域交流を進めるために回和地区周辺地域町会に交流イベントの参加をお願いし、チラシ等をまいていたが、今回のプロジェクトを通じて、チラシ配布等について町会の方から積極的に撒いてくれるようになった。
- 清水町会の公式わなげ競技の取り組みについて、これまでなら清水町会内での取り組みに終わっていたと思うが、プロジェクト実行委員会に提案があり、校区全体で取り組めるよう条件を整え、校区町会対抗のスポーツイベントを企画できるようになった。
- 社会福祉協議会、民生児童委員会、校区交流会議等と連携することによって、校区内の住民、機関、公共施設などと連携して幅広い取り組みができるようになった。
- 校区内の企業が事業に協力してくれたことにより、校区全体を盛り上げるという雰囲気を作り上げることができた。

# ②いろいろな人たちがボランティアに参加した

- 校区内の全世帯にアンケートやチラシを配布したことにより、これまで、地域活動やボランティアに参加してこなかった住民に情報が伝わり、ボランティアオリエンテーションを通じて、新しいボランティアが多く生まれた。
- ボランティアを通じて、住民がエンパワメントし、それがまた新しいエネルギーを生み出し、さらに新しい活動が広がるという事例を目の当たりにした。「高齢者配食ボランティアの受け止め」で紹介した事例が典型的だが、他にもボランティアに参加する人たちが元気になり、活き活きとしてくる例を多く経験した。
- 色々な世代のボランティアが参加することにより、世代間交流の側面もあった。また、それがお互いの活動の楽しみにもなった。
- ボランティア自身が持つやりがい、楽しみもあるが、さらに「わくわくボランティアカード」を活用することによって、さらにやりがいをアップすることができた。また、協力した企業にとっても社会貢献という意義をもたらすことができた。

# プロジェクトの現段階
## ～中長期アウトカム実現に向けた種が撒かれた～

- このような基盤整備により、本プロジェクトの中長期アウトカムの実現に向けて、現在どの段階にあるのだろうか。
- これについて、このプロジェクトを通じて事業評価をお願いした桃山学院大学教授小野達也先生は、本プロジェクトの事後評価書（添付資料参照）において、富田林市の進める「増進型地域福祉」方針を踏まえながら、次のように述べている。
- 「今回（のプロジェクト）は、**いくつかの種まきをした段階と言える。**それを育てていき、地域への影響を生みだしていくのが今後の課題と言えよう。ただし、それは将来のために今を犠牲に知るという取り組みではない。いま取り組むことの楽しさ、喜びを関わりある人たちがともに享受することが重要である。いま、ここでの取り組みに価値があるのである。その楽しさ、喜びが周りに伝わっていくことで変化が生まれることを期待したい。」
- 私たちの中長期アウトカム「**年齢・障がいの有無・地域・国籍等にかかわらず誰もが気軽に集まり交流でき、誰もが社会参加し活躍できるまちづくり**」「**家庭の経済的な条件にかかわらず子どもたちが存分に学習し、友だちをつくり、自尊感情を育てることができるまちづくり**」は、今まさに種が撒かれたところである。そして、その種からまだ小さいが確実に芽が出ていることを今回のプロジェクトで確認した。ここからさらに、絶え間ない、しかし楽しい作業を通じて、多くの花を咲かせ、たわわに実る豊かな耕地を耕し続け、耕し継いでいきたい。

# 9.深堀り1～事業のITC化、特にLINEの活用

- 事業を実施する中で、想定外の発見があり、この点については将来の活動の発展のためにさらに研究を進める必要があると判断した2点について少し言及したい。
- 1点目は、事業におけるITC、特にLINEの活用についてである。
- 最初は、コロナ禍において、やむを得ず整備を進めていった事業のITC化であるが、各町会でのスマホ・LINE教室、ボランティア登録におけるLINE公式アカウント等の活用によってその有用性を認識した。
- 各町会でのスマホ・LINE教室の普及で、それぞれの町会との連絡網が整備された。
- ボランティア登録にLINE公式アカウントを活用することにより、簡単に登録ができ、継続的に連絡を取り合うことができるようになった。公式アカウントには118人が登録し、ボランティアの種類ごとに分類管理することによって、それぞれ個別に緊密な連絡を取り合うことができるようになった。

# 9.深堀り２～企業との連携の可能性

- 2点目は出口戦略と関わってくるが、企業との連携の可能性についてである。
- 今回のプロジェクトでは、地域連携、社会貢献の方針もあり地元企業（商店）4社が様々な形で協力してくれた。
- スパーについては、「わくわくボランティアカード」のインセンティブとして、10回のボランティアで500円の商品券を渡すということで、ボランティアのやりがいにもつながり大変有効であった。
- 500円の商品券を受け取ったボランティアは必ずそのスーパーで買い物をするが、その時500円しか使わないということはない。
- 一般的に、スーパーにおける1回の買い物当たりの顧客単価は2000円程度と言われているので、スーパーにとってみれば1枚の商品券発行で4倍の売り上げを得ることになる。
- つまり、地域でボランティアが盛んにおこなわれるほどに、スパーの売り上げが伸びるということが予想される。
- このことを、企業と協力して自立可能なインセンティブ付き地域ボランティアシステムとして活用できないかという問題意識である。それを地域の他のスーパー、ドラッグストアとも協力しぜひ実現したい。

# 10. 出口戦略

①自立した運営の担い手の育成

今回のプロジェクトは、既に存在し活動実績のある団体を担い手とした。助成終了後も実行委員会を継続し、校区交流会議等地域の福祉推進組織との連携をめざすこととした。

②資金を自ら調達できる環境の整備

- 課題別の各事業が順調な運営ができるようになれば、その課題に対応した新たな助成金を申請する。なお、学習支援事業については、子供の未来応援基金に応募し、採択された。2023年度については、プロジェクトの事業をさらに発展させる形で継続できることになった。
- ボランティアについては、地元企業の社会貢献事業と連携し、深堀り２で言及した「お金」「人」「思いやり」が循環するシステムを構築する。
- 本プロジェクトが地域福祉、絆づくりに貢献していることを確認する中で、町会、各団体、地元商店等の寄付金を募る。

# 11.結論

## 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

- 事業実施プロセスについては、ほぼ毎月実行委員会を開催し、事業の進展状況を確認しながら事業計画を立てたこと、コロナ下ではあったが、実行委員や町会の意見を取り入れた柔軟な対応ができたことは成果だが、事前評価で、成果確認のための事後評価を見据えながら現実的な計画を立てられなかった点は改善の余地がある。
- 達成度については、校区を対象とした増進型地域福祉活動の端緒をつかんだという意味で想定した水準に達していると考える。

| | 多くの改善の余地がある | 想定した水準までに少し改善点がある | 想定した水準にあるが一部改善点がある | 想定した水準にある | 想定した水準以上にある |
|---|---|---|---|---|---|
| (1) 事業実施プロセス | | | ○ | | |
| (2) 事業成果の達成度 | | | | ○ | |

# 12.経費実績

（３）経費実績（円）
①契約当初の計画金額
　直接経費6,208,600円　評価関連経費210,000円
②実際に投入した金額
　直接経費5,944,400円　評価関連経費210,000円
（４）自己資金（円）
①契約当初の自己資金の計画金額　882,600円
②実際に投入した自己資金の金額と種類
　管理的経費　463,583円
③資金調達で工夫した点
　2020年度、21年度で自己資金を調達できなかった。2022年度のみ自己資金を調達した。

# 13.波及効果と事業の効率性

①波及効果

・富田林市高齢介護課が発行する「ほんわか新聞」（市内全世帯配布：資料参照）でプロジェクトの活動が紹介され、市内での地域活動のモデルとして認識された。

②事業の効率性

・実行委員会で役割を分担したが、それでも事務局の人権協議会に事務・作業が集中し、工夫の余地があった。

# 14. 事業実施の妥当性

・事後において、各課題にかかわった人々のアンケートでは、どの分野でも半数以上の人が、「プロジェクトで地域の助け合いや交流の輪が広がった」と回答しており、おおむねこの事業の実施は妥当であったと判断できる。

・まだ始まったばかりだが、今回の事業実施で様々な取り組みを試行することができ、今後展開される重層的支援体制整備事業等地域福祉活動を活発化させるうえで、一つのモデルを提示できたのではないかと考える。

# 15. 提言

- まず地域に呼びかけ、住民の意見を聴き、住民が参加する活動の種を撒くことがいかに重要かを再認識した。種を撒けば必ず芽が出るというという確信を持って取り組むことが重要である。
- 地域企業は地域連携、社会貢献を常に模索している。これに対し適切な働きかけを行うことで、地域と企業とのWinWinな関係が生まれる
- 高齢者も含めICT、スマホは急速に普及している。それを活用することでこれまで地域活動に参加してこなかった人々とつながり、参加者を増やすことができる。

# 16.知見・教訓

- ボランティア等に参加した人たちが、元気になり、笑顔が増え、目が輝いてくるのを目のあたりにしたのは驚きであり、事業を進めているものとして喜びでもあった。活動に関われば必ず元気になるということを改めて認識した。

# 資料（別添）

- 新堂小学校区の元気・参加・未来のためのアンケート集計結果（概要版）
- 校区内全戸配布チラシ「I♡新小校区福祉プロジェクトってなに？」
- 校区内全戸配布チラシ「第１回新小校区まち歩きスタンプラリー」
- 校区内全戸配布チラシ「I♡新小校区福祉プロジェクト中間報告・地域ボランティアオリエンテーション参加者募集」
- I♡新小校区福祉プロジェクト「わくわくボランティアカード」
- 校区内全戸配布チラシ「第２回新小校区まち歩きスタンプラリー」
- 校区内全戸配布チラシ「I♡新小校区福祉プロジェクト事業報告会」
- I♡新小校区福祉プロジェクト事業報告書
  写真資料はこの報告書の中に含まれています。
- 富田林市高齢介護課発行「ほんわか新聞」令和４年３月号
- I♡新小校区福祉プロジェクトの振り返り　桃山学院大学教授小野達也

# 新堂小学校区の
# 元気・参加・未来のためのアンケート
# 集計結果（概要版）

2021 年３月

I♡新小校区福祉プロジェクト

# 新堂小学校区の元気・参加・未来のためのアンケート

# (概要版)

## 目次


調査の概要 ..... 1
新堂小学校区の概要について ..... 1
調査結果 ..... 1
1.　回答者の属性について ..... 1
①　回答者が居住している地区 ..... 1
②　地区別・回答者の年齢構成 ..... 2
③　地区別・回答者の世帯類型 ..... 3
2.　お住まいについて ..... 4
2－2. あなたのご家族はどこの町会に入っていますか？ ..... 4
2－3. あなたのご家族は府営住宅または市営住宅に住んでいますか？ ..... 4
3.　地域活動について ..... 5
3－1. 町会・老人会・福祉委員会・青年団などの地域活動への参加経験 ..... 5
3－2. 地域活動に参加した理由（MA） ..... 6
3－3. 地域活動に参加しない理由（MA） ..... 7
3－4. あなたが「参加したい」と思う取り組みはどんな取り組みですか？（MA） ..... 7
3－5. あなたが新堂小学校区内でよく使う施設はどこですか？（MA） ..... 9
3－6. 施設に整っていれば利用したいと思う設備 ..... 12
4.　ボランティアについて ..... 13
4－1. ボランティア活動をしていますか ..... 13
4－2. どんなボランティア活動をしていますか（MA） ..... 13
4－3. ボランティア活動をおこなっていない理由（MA） ..... 15
4－4. 今後やってみたいボランティア活動（MA） ..... 16
4－5. 買物割引券など何か特典があればボランティア活動に参加しますか ..... 17
4－6. 住民と一緒に楽しんだり、教えてあげたりできる特技や知識を持っていますか ..... 18
4－7. 特技や知識を活かしてプロジェクトの活動に協力できますか ..... 18
4－8. 特技などはなくても、実行委員会が行う取り組みに協力していただけますか ..... 19
4－9. 今後どんなボランティア活動があればよいと思いますか（MA） ..... 20
5.　ご近所づきあいについて ..... 22
5－1. 近所づきあいの程度 ..... 22
5－2. もしもの時にかけつけてくれる人はいますか？ ..... 24
5－3. 普段、さみしいと感じる時がありますか ..... 26
5－4. 孤独死を身近な問題だと感じますか？ ..... 27
5－5. 現在、なやみや困りごとがありますか？（MA） ..... 28
6.　子どもの未来について ..... 33
6－1. こども食堂「ほっとスペースとんだばやし」を知っていますか ..... 33

６－２. 子ども食堂など、新堂小学校区内に子どもの集いの場への参加意向 ..... 34
６－３. 家庭での子どもの学習環境 ..... 34
６－４. 子どもの集いの場として必要だと思うもの（MA） ..... 35
６－５. 新堂小学校区で、子どもに残していきたいもの （MA） ..... 36
７． これからの新堂小学校区について ..... 37
７－１. 新堂小学校区のいいところ・好きなところ （MA） ..... 37
７－２. これからも新堂小学校区に住み続けたいですか ..... 39

## 調査の概要

① 調査目的

このアンケートは、住民みんなで地域の福祉を向上させ子ども達に明るい未来を残していくための「I❤新小校区福祉プロジェクト」の基礎資料とすることを目的とする。

② 調査期間　　2020 年 11 月 1 日～11 月 30 日

③ 調査対象　　新堂小学校区住民

④ 有効回答数　588

## 新堂小学校区の概要について

新堂小学校区の高齢化率は 31.5%だが、府営のある清水町が 38.9%、緑ケ丘町が 35.0%、市営住宅のある若松町が 32.4%と、高齢化率が高くなっている。また、中小企業団地のある中野町東、若松町東に居住する住民は少なく、若松町東の高齢化率は 17.1%と低い。

新堂小学校区の町別人口と高齢化率（2020 年 9 月 30 日現在）

| | 世帯数 | 人口 | | | 65 歳以上 | | | 高齢化率 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 |
| 清水町 | 1,180 | 875 | 1,238 | 2,113 | 304 | 518 | 822 | 34.7% | 41.8% | 38.9% |
| 緑ケ丘町 | 243 | 227 | 293 | 520 | 76 | 106 | 182 | 33.5% | 36.2% | 35.0% |
| 若松町 | 2,026 | 1,860 | 1,974 | 3,834 | 531 | 710 | 1,241 | 28.5% | 36.0% | 32.4% |
| 若松町東 | 172 | 160 | 103 | 263 | 28 | 17 | 45 | 17.5% | 16.5% | 17.1% |
| 若松町西 | 712 | 618 | 678 | 1,296 | 138 | 203 | 341 | 22.3% | 29.9% | 26.3% |
| 中野町 | 861 | 897 | 948 | 1,845 | 206 | 269 | 475 | 23.0% | 28.4% | 25.7% |
| 中野町東 | 13 | 13 | 6 | 19 | 6 | 2 | 8 | 46.2% | 33.3% | 42.1% |
| 中野町西 | 17 | 14 | 17 | 31 | 4 | 4 | 8 | 28.6% | 23.5% | 25.8% |
| 校区全体 | 5,224 | 4,664 | 5,257 | 9,921 | 1,293 | 1,829 | 3,122 | 27.7% | 34.8% | 31.5% |

## 調査結果

### 1. 回答者の属性について

① 回答者が居住している地区

回答者 588 名の地区別内訳は清水町が 33.8%、若松町が 32.5%、中野町が 19.2%となっており、この 3 地区で 85.5%を占めている。また、世帯数に占める回答者の割合では清水町 16.9%、緑ヶ丘町 3.2%、中野町 13.1%、若松町 9.4%の順になっている。

| | 回答数 | 構成比 | 配布数 | 回答数／配布数 | 世帯数 | 回答数／世帯数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 清水町 | 199 | 33.8% | | | 1,180 | 16.9% |
| 緑ヶ丘町 | 32 | 5.4% | | | 243 | 13.2% |
| 若松町 | 191 | 32.5% | | | 2,026 | 9.4% |
| 若松町東 | 7 | 1.2% | | | 172 | 4.1% |
| 若松町西 | 43 | 7.3% | | | 712 | 3.9% |
| 中野町 | 113 | 19.2% | | | 861 | 13.1% |
| 中野町東 | 0 | 0.0% | | | 13 | |
| 中野町西 | 0 | 0.0% | | | 17 | |
| わからない | 0 | 0.0% | | | | |
| 無回答 | 3 | 0.5% | | | | |
| 計 | 588 | 100.0% | | | 5,224 | 11.0% |

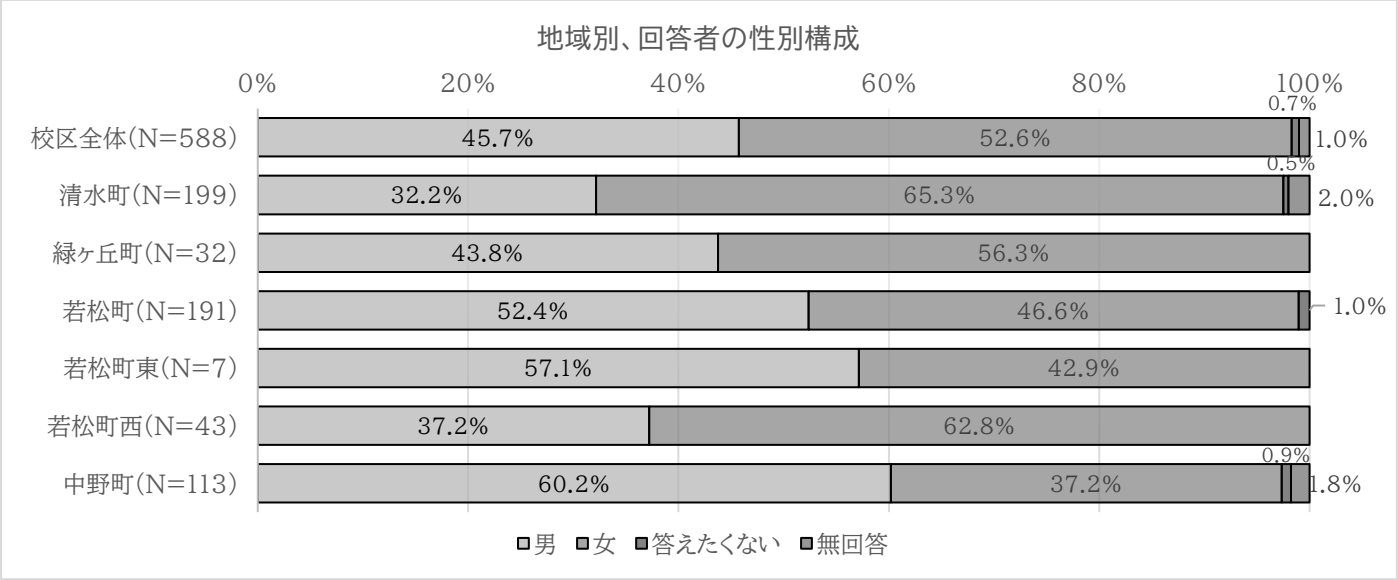
① 地区別・回答者の性別

回答者の性別は校区全体で「男」が 45.7%に対し、「女」は 52.6%になっており、地区別では清水町、緑ヶ丘町、若松町西が「女」の割合が高く、若松町、若松町東、中野町は「男」の割合が高い。

地域別、回答者の性別構成

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 269 | 64 | 14 | 100 | 4 | 16 | 68 |
| 女 | 309 | 130 | 18 | 89 | 3 | 27 | 42 |
| 答えたくない | 4 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 |
| 無回答 | 6 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 計 | 588 | 199 | 32 | 191 | 7 | 43 | 113 |

| | 校区全体（N=588） | 清水町（N=199） | 緑ヶ丘町（N=32） | 若松町（N=191） | 若松町東（N=7） | 若松町西（N=43） | 中野町（N=113） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 45.7% | 32.2% | 43.8% | 52.4% | 57.1% | 37.2% | 60.2% |
| 女 | 52.6% | 65.3% | 56.3% | 46.6% | 42.9% | 62.8% | 37.2% |
| 答えたくない | 0.7% | 0.5% | 0.0% | 1.0% | 0.0% | 0.0% | 0.9% |
| 無回答 | 1.0% | 2.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.8% |
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

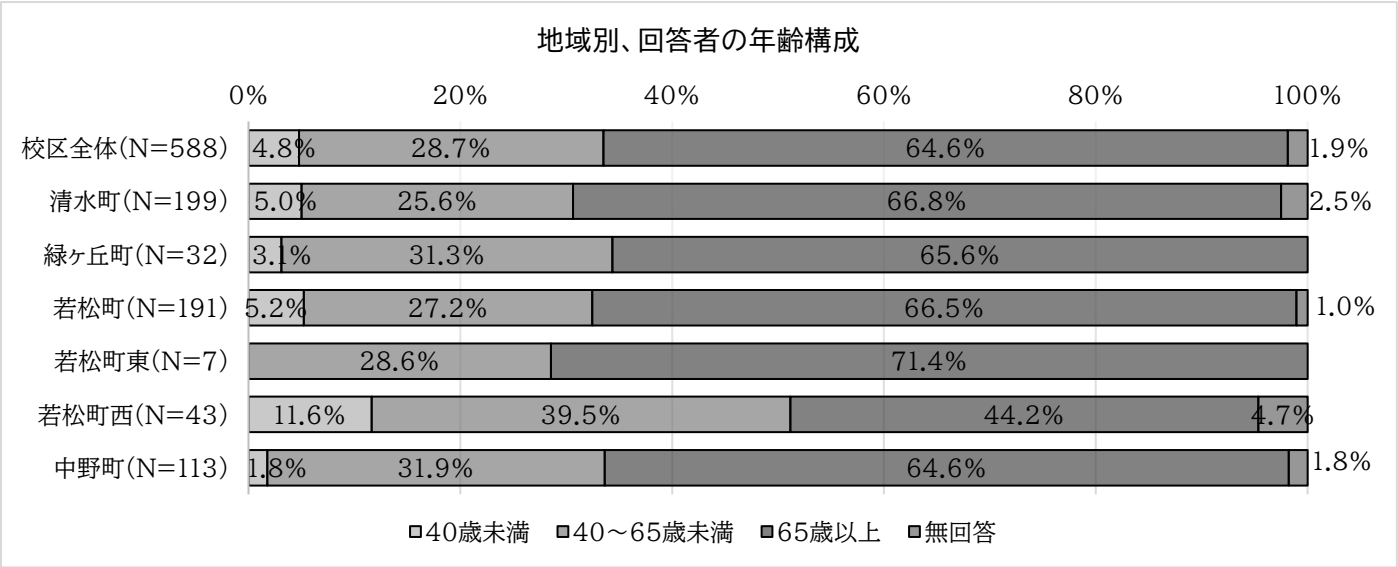



② 地区別・回答者の年齢構成

回答者の年齢構成をみると、校区全体で 65 歳以上が 64.6%を占めており、校区の高齢化率が 31.5%であることから、アンケートに協力いただいた住民は高齢者が多い結果となっている。

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 歳未満 | 28 | 10 | 1 | 10 | 0 | 5 | 2 |
| 40～64 歳 | 169 | 51 | 10 | 52 | 2 | 17 | 36 |
| 65 歳以上 | 380 | 133 | 21 | 127 | 5 | 19 | 73 |
| 無回答 | 11 | 5 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 |
| 計 | 588 | 199 | 32 | 191 | 7 | 43 | 113 |
| 18 歳未満（再掲） | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | 校区全体（N=588） | 清水町（N=199） | 緑ヶ丘町（N=32） | 若松町（N=191） | 若松町東（N=7） | 若松町西（N=43） | 中野町（N=113） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 歳未満 | 4.8% | 5.0% | 3.1% | 5.2% | 0.0% | 11.6% | 1.8% |
| 40～64 歳 | 28.7% | 25.6% | 31.3% | 27.2% | 28.6% | 39.5% | 31.9% |
| 65 歳以上 | 64.6% | 66.8% | 65.6% | 66.5% | 71.4% | 44.2% | 64.6% |
| 無回答 | 1.9% | 2.5% | 0.0% | 1.0% | 0.0% | 4.7% | 1.8% |
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |



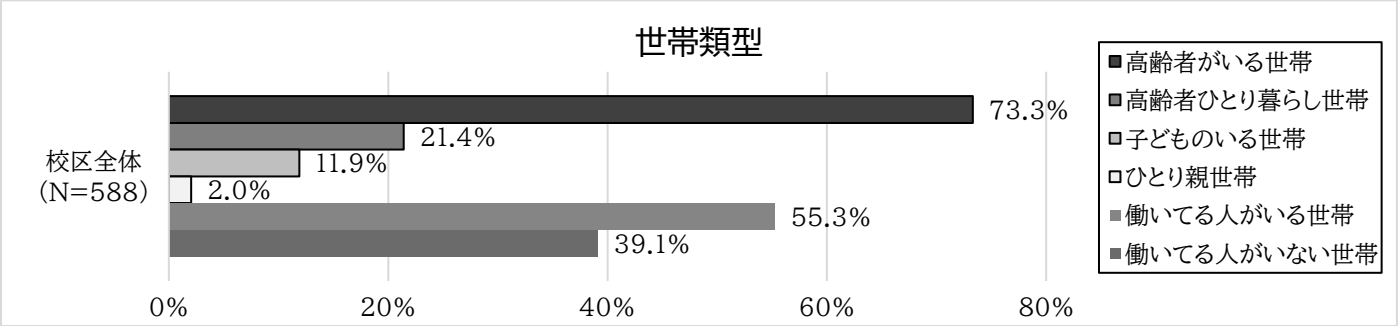

③ 地区別・回答者の世帯類型

回答者の世帯類型では「高齢者がいる世帯」が 73.3%を占め、「高齢者ひとり暮らし世帯」は 21.4%となっている。「子どものいる世帯」は 11.9%となっており、「母子世帯」は 10 と「ひとり親世帯」12 の大半を占めている。

「働いている人がいない世帯」が 39.1%となっているが、高齢者が多いことから、年金生活者が多いと考えられる。

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 高齢者がいる世帯 | 431 | 145 | 22 | 147 | 5 | 22 | 88 |
| 1 人暮らし世帯 | 157 | 85 | 7 | 43 | 2 | 8 | 12 |
| 高齢者ひとり暮らし世帯 | 126 | 69 | 7 | 36 | 2 | 5 | 7 |
| 子どものいる世帯 | 70 | 19 | 3 | 22 | 1 | 8 | 16 |
| ひとり親世帯 | 12 | 8 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 |
| 母子世帯 | 10 | 7 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 |
| 働いている人がいる世帯 | 325 | 75 | 17 | 119 | 6 | 33 | 72 |
| 働いている人がいない世帯 | 230 | 103 | 11 | 68 | 1 | 8 | 39 |

| | 校区全体 (N=588) | 清水町 (N=199) | 緑ヶ丘町 (N=32) | 若松町 (N=191) | 若松町東 (N=7) | 若松町西 (N=43) | 中野町 (N=113) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 高齢者がいる世帯 | 73.3% | 72.9% | 68.8% | 77.0% | 71.4% | 51.2% | 77.9% |
| 1 人暮らし世帯 | 26.7% | 42.7% | 21.9% | 22.5% | 28.6% | 18.6% | 10.6% |
| 高齢者ひとり暮らし世帯 | 21.4% | 34.7% | 21.9% | 18.8% | 28.6% | 11.6% | 6.2% |
| 子どものいる世帯 | 11.9% | 9.5% | 9.4% | 11.5% | 14.3% | 18.6% | 14.2% |
| ひとり親世帯 | 2.0% | 4.0% | 0.0% | 1.0% | 0.0% | 2.3% | 0.9% |
| 母子世帯 | 1.7% | 3.5% | 0.0% | 1.0% | 0.0% | 2.3% | 0.0% |
| 働いている人がいる世帯 | 55.3% | 37.7% | 53.1% | 62.3% | 85.7% | 76.7% | 63.7% |
| 働いている人がいない世帯 | 39.1% | 51.8% | 34.4% | 35.6% | 14.3% | 18.6% | 34.5% |



## 2. お住まいについて

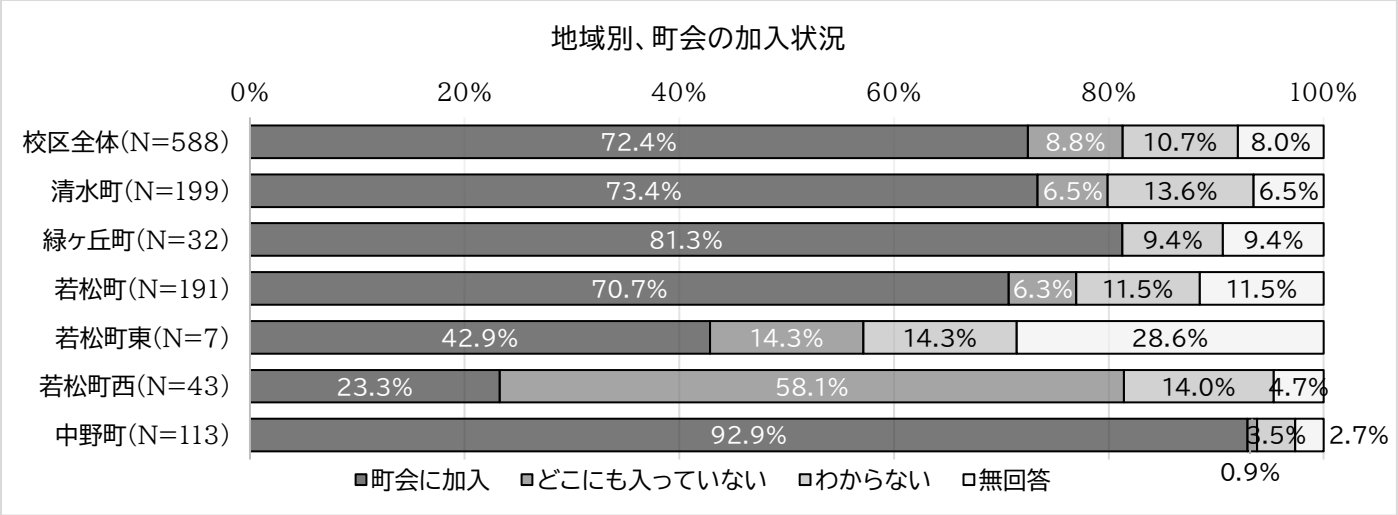
### 2－2. あなたのご家族はどこの町会に入っていますか？

どこかの町会に加入している人は 72.4%だが、地区によるばらつきが見られ、中野町、緑ヶ丘町、清水町、若松町の順に加入率が高い。

地域別、町会の加入状況

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 町会に入っている | 426 | 146 | 26 | 135 | 3 | 10 | 105 |
| どこにも入っていない | 52 | 13 | 0 | 12 | 1 | 25 | 1 |
| わからない | 63 | 27 | 3 | 22 | 1 | 6 | 4 |
| 無回答 | 47 | 13 | 3 | 22 | 2 | 2 | 3 |
| 計 | 588 | 199 | 32 | 191 | 7 | 43 | 113 |

| | 校区全体（N=588） | 清水町（N=199） | 緑ヶ丘町（N=32） | 若松町（N=191） | 若松町東（N=7） | 若松町西（N=43） | 中野町（N=113） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 町会に入っている | 72.4% | 73.4% | 81.3% | 70.7% | 42.9% | 23.3% | 92.9% |
| どこにも入っていない | 8.8% | 6.5% | 0.0% | 6.3% | 14.3% | 58.1% | 0.9% |
| わからない | 10.7% | 13.6% | 9.4% | 11.5% | 14.3% | 14.0% | 3.5% |
| 無回答 | 8.0% | 6.5% | 9.4% | 11.5% | 28.6% | 4.7% | 2.7% |
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |




### 2－3. あなたのご家族は府営住宅または市営住宅に住んでいますか？

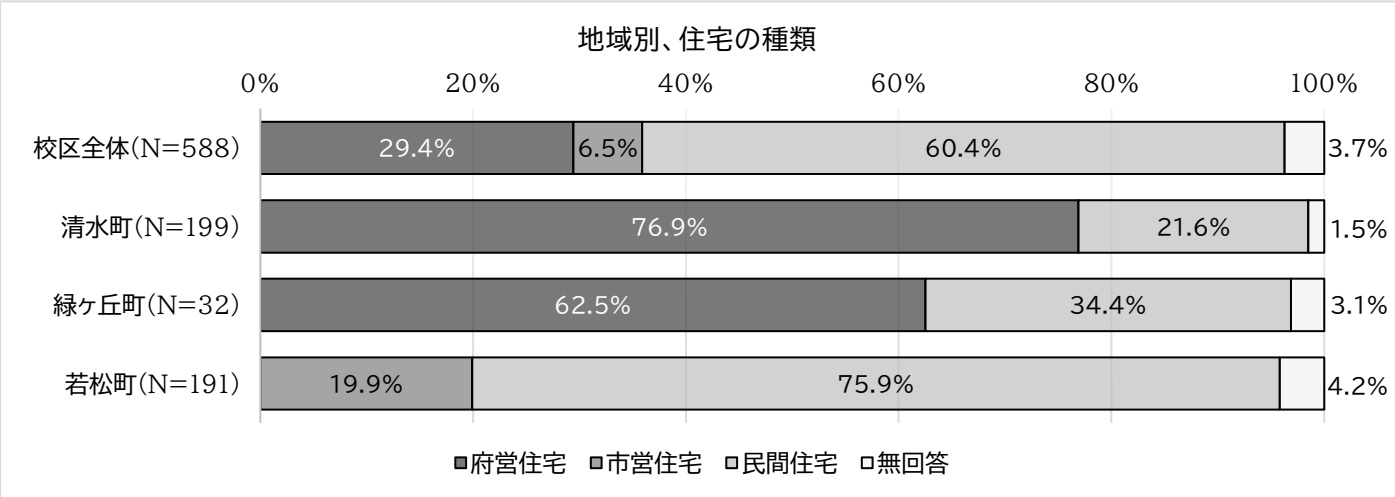
校区の公営住宅率は35.9%で、府営住宅は清水町が76.9%、緑ヶ丘町が62.5%、市営住宅は若松町が19.9%である。

地域別、住宅の種類

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 府営住宅に住んでいる | 173 | 153 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 市営住宅に住んでいる | 38 | 0 | 0 | 38 | 0 | 0 | 0 |
| どちらにも住んでいない | 355 | 43 | 11 | 145 | 6 | 40 | 108 |
| 無回答 | 22 | 3 | 1 | 8 | 1 | 3 | 5 |
| 計 | 588 | 199 | 32 | 191 | 7 | 43 | 113 |

| | 校区全体（N=588） | 清水町（N=199） | 緑ヶ丘町（N=32） | 若松町（N=191） | 若松町東（N=7） | 若松町西（N=43） | 中野町（N=113） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 府営住宅に住んでいる | 29.4% | 76.9% | 62.5% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 市営住宅に住んでいる | 6.5% | 0.0% | 0.0% | 19.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| どちらにも住んでいない | 60.4% | 21.6% | 34.4% | 75.9% | 85.7% | 93.0% | 95.6% |
| 無回答 | 3.7% | 1.5% | 3.1% | 4.2% | 14.3% | 7.0% | 4.4% |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |




## 3. 地域活動について

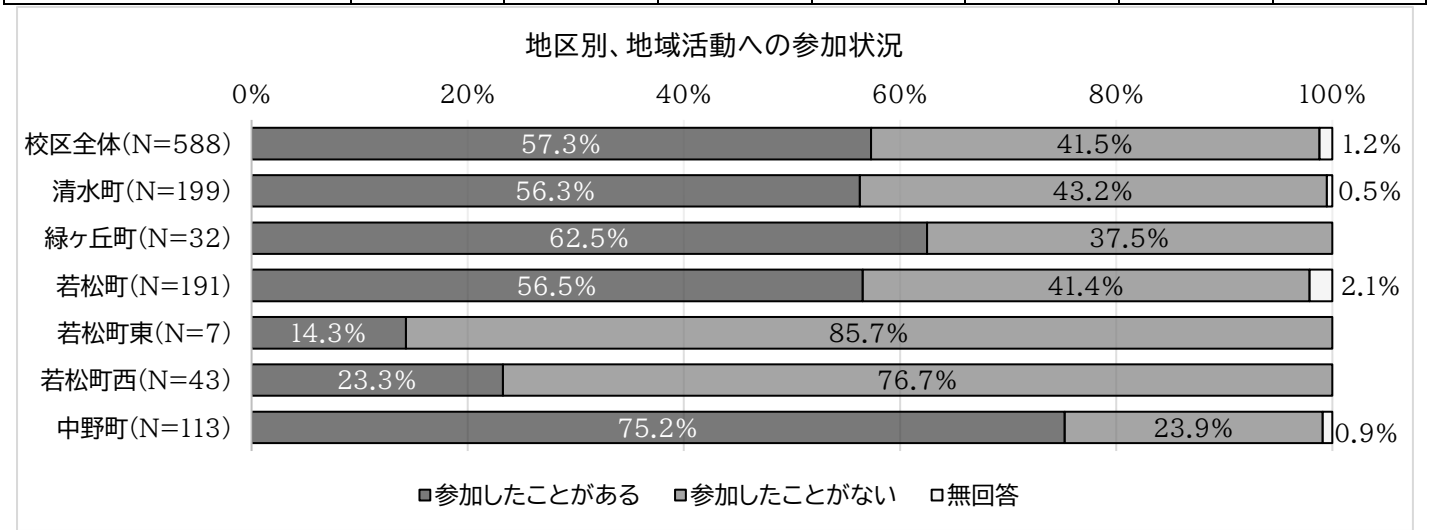
### 3－1. 町会・老人会・福祉委員会・青年団などの地域活動への参加経験

地域活動への参加状況は、校区全体で 57.3%が参加経験はあると答えており、町会加入率の高い中野町がもっとも参加経験が高くなっている。また、若松町東、若松町西の参加比率が低い。

地区別、地域活動への参加状況

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 参加したことがある | 337 | 112 | 20 | 108 | 1 | 10 | 85 |
| 参加したことがない | 244 | 86 | 12 | 79 | 6 | 33 | 27 |
| 無回答 | 7 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 | 1 |
| 計 | 588 | 199 | 32 | 191 | 7 | 43 | 113 |

| | 校区全体 (N=588) | 清水町 (N=199) | 緑ヶ丘町 (N=32) | 若松町 (N=191) | 若松町東 (N=7) | 若松町西 (N=43) | 中野町 (N=113) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 参加したことがある | 57.3% | 56.3% | 62.5% | 56.5% | 14.3% | 23.3% | 75.2% |
| 参加したことがない | 41.5% | 43.2% | 37.5% | 41.4% | 85.7% | 76.7% | 23.9% |
| 無回答 | 1.2% | 0.5% | 0.0% | 2.1% | 0.0% | 0.0% | 0.9% |
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |



## 3－2. 地域活動に参加した理由（MA）

「その他」を除いて、多い順に並べると以下のようになる。

校区全体　　楽しいから 31.2%　＞　ためになるから 23.7%　＞　友だちに会えるから 21.1%

清水町　　ためになるから 27.7%　＞　体を動かすことができるから 25.0%　＞　楽しいから 19.6%

緑ヶ丘町　　ためになるから 35.0%　＞　体を動かすことができるから 35.0%　＞　楽しいから 25.0%

若松町　　楽しいから 43.5%　＞　友だちに会えるから 25.9%　＞　ためになるから 23.1%

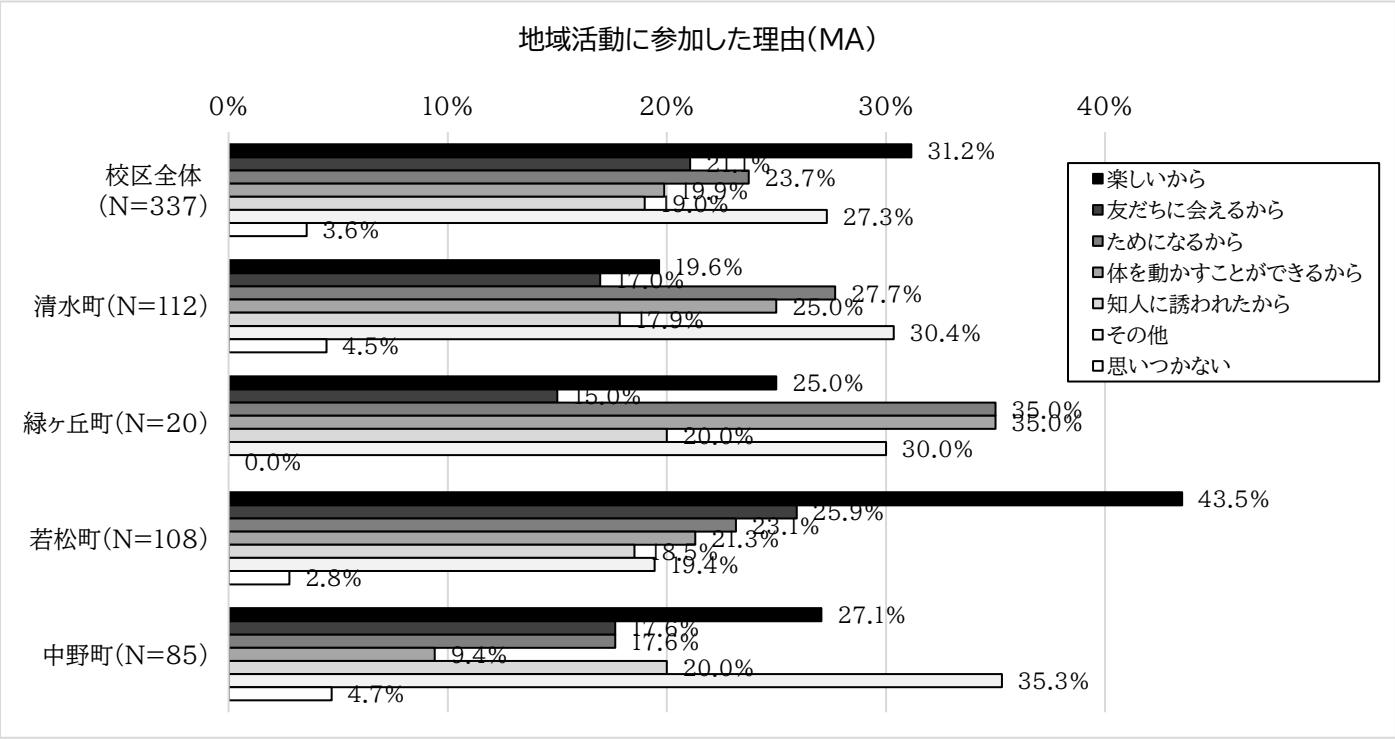
中野町　　楽しいから 27.1%　＞　友だちに会えるから 17.6%　＞　ためになるから 17.6%

特に、若松町の「楽しいから」が 43.5%と高い比率を示しているのが際立っている。

地区別、地域活動に参加した理由（MA）

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 楽しいから | 105 | 22 | 5 | 47 | 1 | 6 | 23 |
| 友だちに会えるから | 71 | 19 | 3 | 28 | 1 | 5 | 15 |
| ためになるから | 80 | 31 | 7 | 25 | 0 | 1 | 15 |
| 体を動かすことができるから | 67 | 28 | 7 | 23 | 0 | 1 | 8 |
| 知人に誘われたから | 64 | 20 | 4 | 20 | 0 | 3 | 17 |
| その他 | 92 | 34 | 6 | 21 | 0 | 1 | 30 |
| 思いつかない | 12 | 5 | 0 | 3 | 0 | 0 | 4 |

| | 校区全体（N=337） | 清水町（N=112） | 緑ヶ丘町（N=20） | 若松町（N=108） | 若松町東（N=1） | 若松町西（N=10） | 中野町（N=85） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 楽しいから | 31.2% | 19.6% | 25.0% | 43.5% | 100.0% | 60.0% | 27.1% |
| 友だちに会えるから | 21.1% | 17.0% | 15.0% | 25.9% | 100.0% | 50.0% | 17.6% |
| ためになるから | 23.7% | 27.7% | 35.0% | 23.1% | 0.0% | 10.0% | 17.6% |
| 体を動かすことができるから | 19.9% | 25.0% | 35.0% | 21.3% | 0.0% | 10.0% | 9.4% |
| 知人に誘われたから | 19.0% | 17.9% | 20.0% | 18.5% | 0.0% | 30.0% | 20.0% |
| その他 | 27.3% | 30.4% | 30.0% | 19.4% | 0.0% | 10.0% | 35.3% |
| 思いつかない | 3.6% | 4.5% | 0.0% | 2.8% | 0.0% | 0.0% | 4.7% |



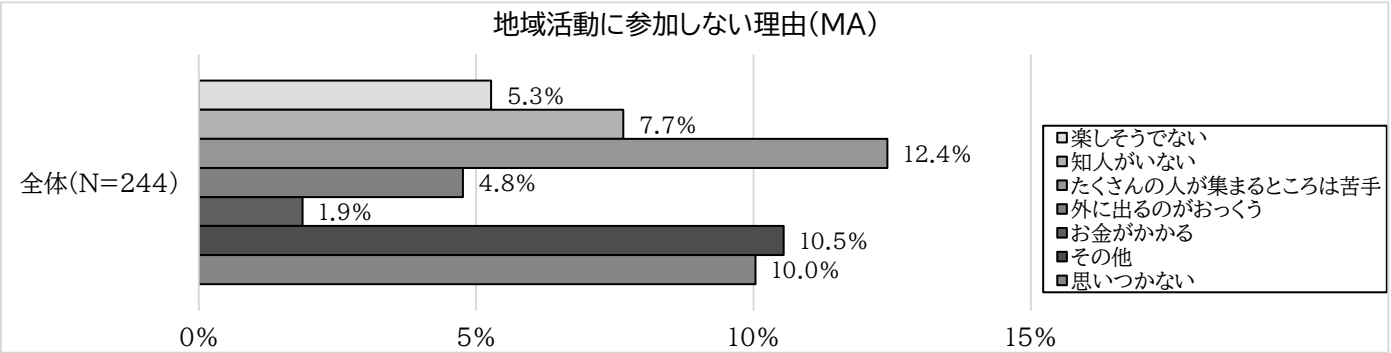
### ３－３. 地域活動に参加しない理由（MA）

「参加しない理由」は、「その他」「思いつかない」を除いて、「たくさんの人が集まるところは苦手」が 12.4%で最も多く、次いで「」知人がいない」が 7.7%、「楽しそうでない」が 5.3%の順になっている。

「参加した理由」で「楽しいから」「ためになるから」「友だちに会えるから」が多いことと考え合わせると、住民が楽しいと感じる地域活動を企画し、友人知人と誘いあって参加する環境を作っていくことが地域活動への参加促進につながると考えられる。

地域活動に参加しない理由（MA）

| （N=244） | 回答数 | 割合 |
|---|---|---|
| 楽しそうでない | 31 | 5.3% |
| 知人がいない | 45 | 7.7% |
| たくさんの人が集まるところは苦手 | 73 | 12.4% |
| 外に出るのがおっくう | 28 | 4.8% |
| お金がかかる | 11 | 1.9% |
| その他 | 62 | 10.5% |
| 思いつかない | 59 | 10.0% |



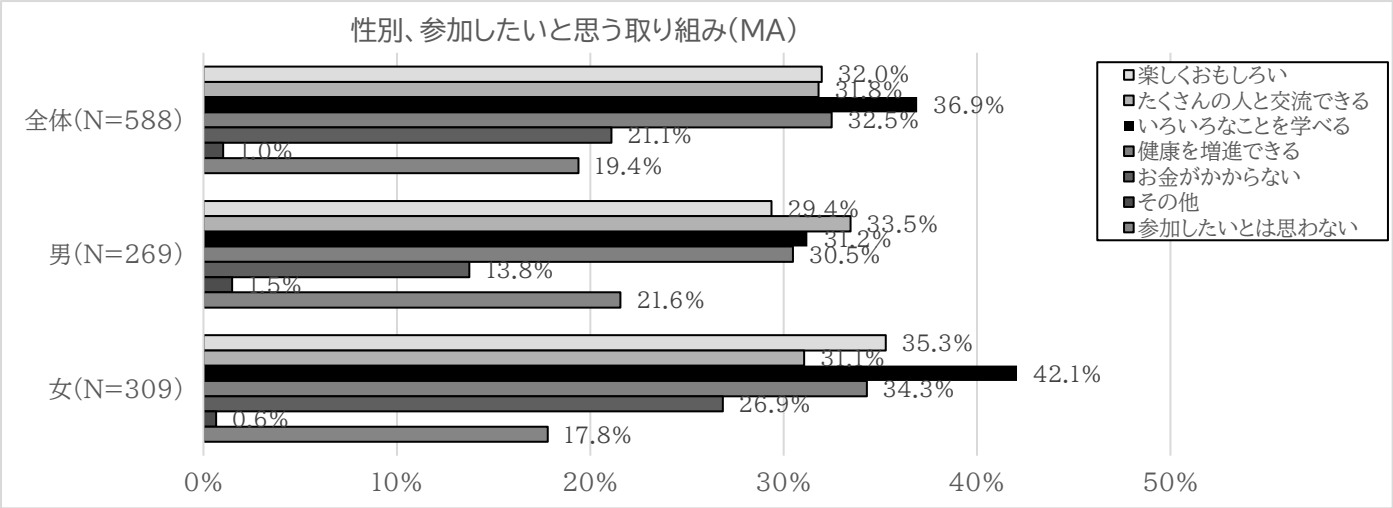

### ３－４. あなたが「参加したい」と思う取り組みはどんな取り組みですか？（MA）

参加したいと思う取組みは「いろいろなことを学べる」が 36.9%ともっとも多く、次いで「健康を増進できる」32.5%、「楽しくおもしろい」32.0%、「たくさんの人と交流できる」31.8%の順になっている。

男女別で見ると、「男」では「たくさんの人と交流できる」が 33.5%でもっとも多く、「女」では「いろいろなことを学べる」が 42.1%ともっとも多い。

性別、参加したいと思う取り組み（MA）

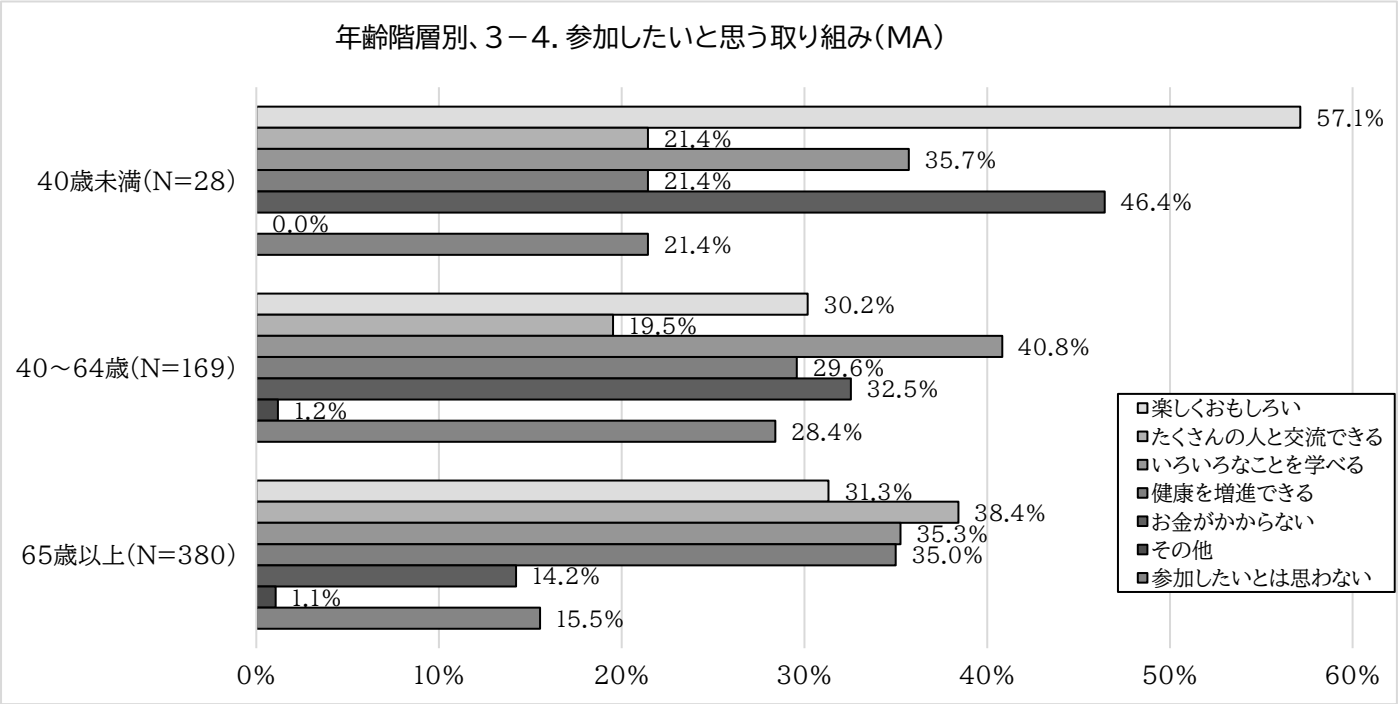
| | 全体 | 男 | 女 | 全体（N=588） | 男（N=269） | 女（N=309） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 楽しくおもしろい | 188 | 79 | 109 | 32.0% | 29.4% | 35.3% |
| たくさんの人と交流できる | 187 | 90 | 96 | 31.8% | 33.5% | 31.1% |
| いろいろなことを学べる | 217 | 84 | 130 | 36.9% | 31.2% | 42.1% |
| 健康を増進できる | 191 | 82 | 106 | 32.5% | 30.5% | 34.3% |
| お金がかからない | 124 | 37 | 83 | 21.1% | 13.8% | 26.9% |
| その他 | 6 | 4 | 2 | 1.0% | 1.5% | 0.6% |
| 参加したいとは思わない | 114 | 58 | 55 | 19.4% | 21.6% | 17.8% |




年齢別で見ると、「40 歳未満」では「楽しくおもしろい」が 57.1%で最も多く、「40～64 歳」では「いろいろなことを学べる」が 40.8%、「65 歳以上」では「たくさんの人と交流できる」が 38.4%と、最も多くなっている。

年齢別、参加したいと思う取り組み（MA）

| | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 40 歳未満（N=28） | 40～64 歳（N=169） | 65 歳以上（N=380） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 楽しくおもしろい | 16 | 51 | 119 | 57.1% | 30.2% | 31.3% |
| たくさんの人と交流できる | 6 | 33 | 146 | 21.4% | 19.5% | 38.4% |
| いろいろなことを学べる | 10 | 69 | 134 | 35.7% | 40.8% | 35.3% |
| 健康を増進できる | 6 | 50 | 133 | 21.4% | 29.6% | 35.0% |
| お金がかからない | 13 | 55 | 54 | 46.4% | 32.5% | 14.2% |
| その他 | 0 | 2 | 4 | 0.0% | 1.2% | 1.1% |
| 参加したいとは思わない | 6 | 48 | 59 | 21.4% | 28.4% | 15.5% |



## 3－5. あなたが新堂小学校区内でよく使う施設はどこですか？（MA）

新堂小学校区内でよく使う施設は「町会館（集会所）」が27.0%、「新堂診療所」21.8%、「石川河川敷とサイクルロード」20.4%が多い。

清水町では「町会館（集会所）」35.7%、「新堂診療所」21.8%、「石川河川敷とサイクルロード」18.6%

緑ヶ丘町では「町会館（集会所）」46.9%

若松町では「新堂診療所」29.8%、「石川河川敷とサイクルロード」25.7%、「老人憩の家」25.1%

中野町では「町会館（集会所）」38.9%、「石川河川敷とサイクルロード」20.4%

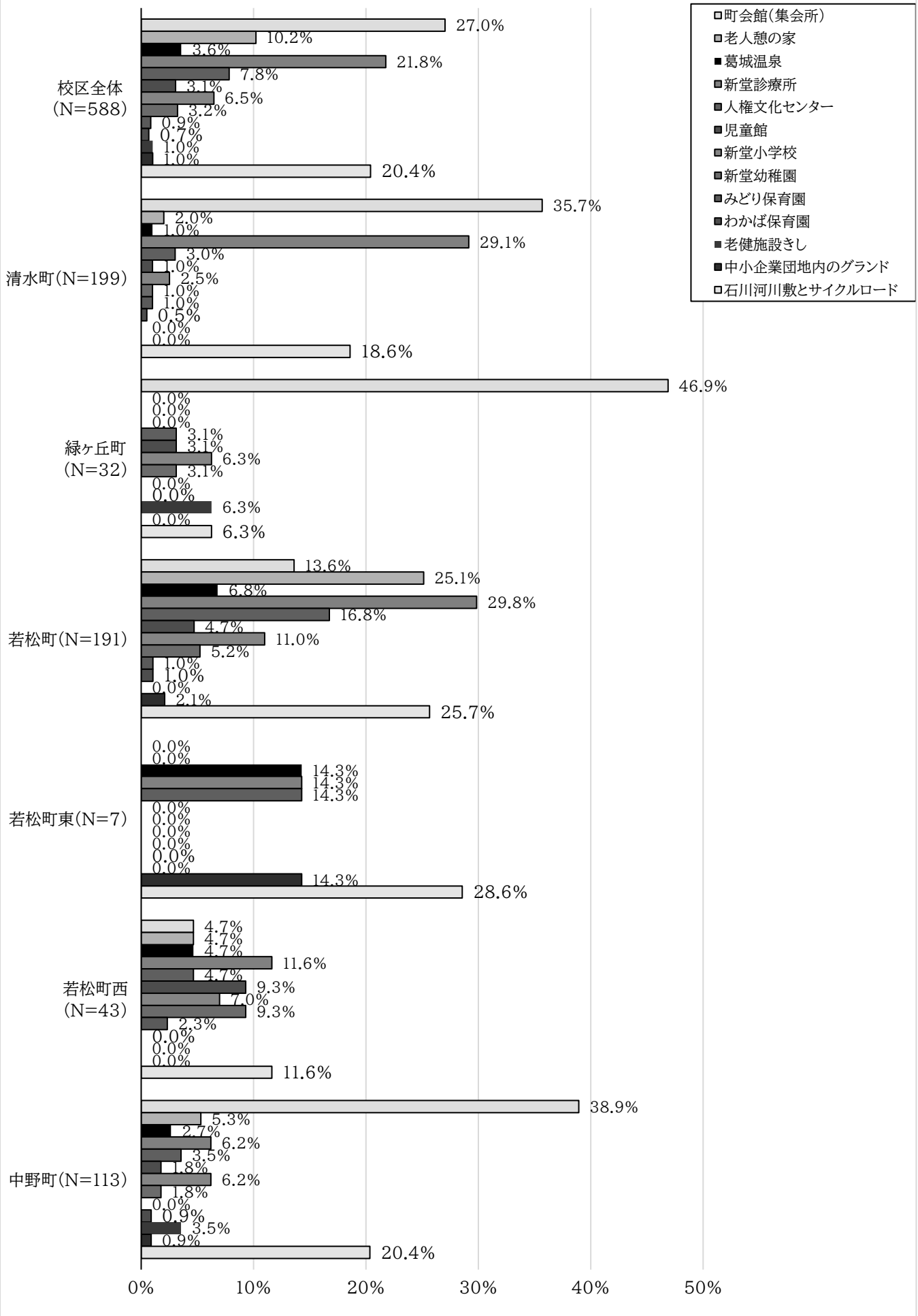
が多い。

地区別、あなたが新堂小学校区内でよく使う施設はどこですか？（MA）

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 町会館（集会所） | 159 | 71 | 15 | 26 | 0 | 2 | 44 |
| 老人憩の家 | 60 | 4 | 0 | 48 | 0 | 2 | 6 |
| 葛城温泉 | 21 | 2 | 0 | 13 | 1 | 2 | 3 |
| 新堂診療所 | 128 | 58 | 0 | 57 | 1 | 5 | 7 |
| 人権文化センター | 46 | 6 | 1 | 32 | 1 | 2 | 4 |
| 児童館 | 18 | 2 | 1 | 9 | 0 | 4 | 2 |
| 新堂小学校 | 38 | 5 | 2 | 21 | 0 | 3 | 7 |
| 新堂幼稚園 | 19 | 2 | 1 | 10 | 0 | 4 | 2 |
| みどり保育園 | 5 | 2 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 |
| わかば保育園 | 4 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 |
| 老健施設きし | 6 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 中小企業団地内のグランド | 6 | 0 | 0 | 4 | 1 | 0 | 1 |
| 石川河川敷とサイクルロード | 120 | 37 | 2 | 49 | 2 | 5 | 23 |
| その他 | 14 | 5 | 0 | 4 | 0 | 0 | 5 |
| よく利用している施設はない | 192 | 61 | 9 | 53 | 2 | 22 | 44 |

| | 校区全体（N=588） | 清水町（N=199） | 緑ヶ丘町（N=32） | 若松町（N=191） | 若松町東（N=7） | 若松町西（N=43） | 中野町（N=113） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 町会館（集会所） | 27.0% | 35.7% | 46.9% | 13.6% | 0.0% | 4.7% | 38.9% |
| 老人憩の家 | 10.2% | 2.0% | 0.0% | 25.1% | 0.0% | 4.7% | 5.3% |
| 葛城温泉 | 3.6% | 1.0% | 0.0% | 6.8% | 14.3% | 4.7% | 2.7% |
| 新堂診療所 | 21.8% | 29.1% | 0.0% | 29.8% | 14.3% | 11.6% | 6.2% |
| 人権文化センター | 7.8% | 3.0% | 3.1% | 16.8% | 14.3% | 4.7% | 3.5% |
| 児童館 | 3.1% | 1.0% | 3.1% | 4.7% | 0.0% | 9.3% | 1.8% |
| 新堂小学校 | 6.5% | 2.5% | 6.3% | 11.0% | 0.0% | 7.0% | 6.2% |
| 新堂幼稚園 | 3.2% | 1.0% | 3.1% | 5.2% | 0.0% | 9.3% | 1.8% |
| みどり保育園 | 0.9% | 1.0% | 0.0% | 1.0% | 0.0% | 2.3% | 0.0% |
| わかば保育園 | 0.7% | 0.5% | 0.0% | 1.0% | 0.0% | 0.0% | 0.9% |
| 老健施設きし | 1.0% | 0.0% | 6.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 3.5% |
| 中小企業団地内のグランド | 1.0% | 0.0% | 0.0% | 2.1% | 14.3% | 0.0% | 0.9% |
| 石川河川敷とサイクルロード | 20.4% | 18.6% | 6.3% | 25.7% | 28.6% | 11.6% | 20.4% |
| その他 | 2.4% | 2.5% | 0.0% | 2.1% | 0.0% | 0.0% | 4.4% |
| よく利用している施設はない | 32.7% | 30.7% | 28.1% | 27.7% | 28.6% | 51.2% | 38.9% |

地区別、新堂小学校区内でよく使う施設（MA）



年齢階層別で見ると、以下の順となる。

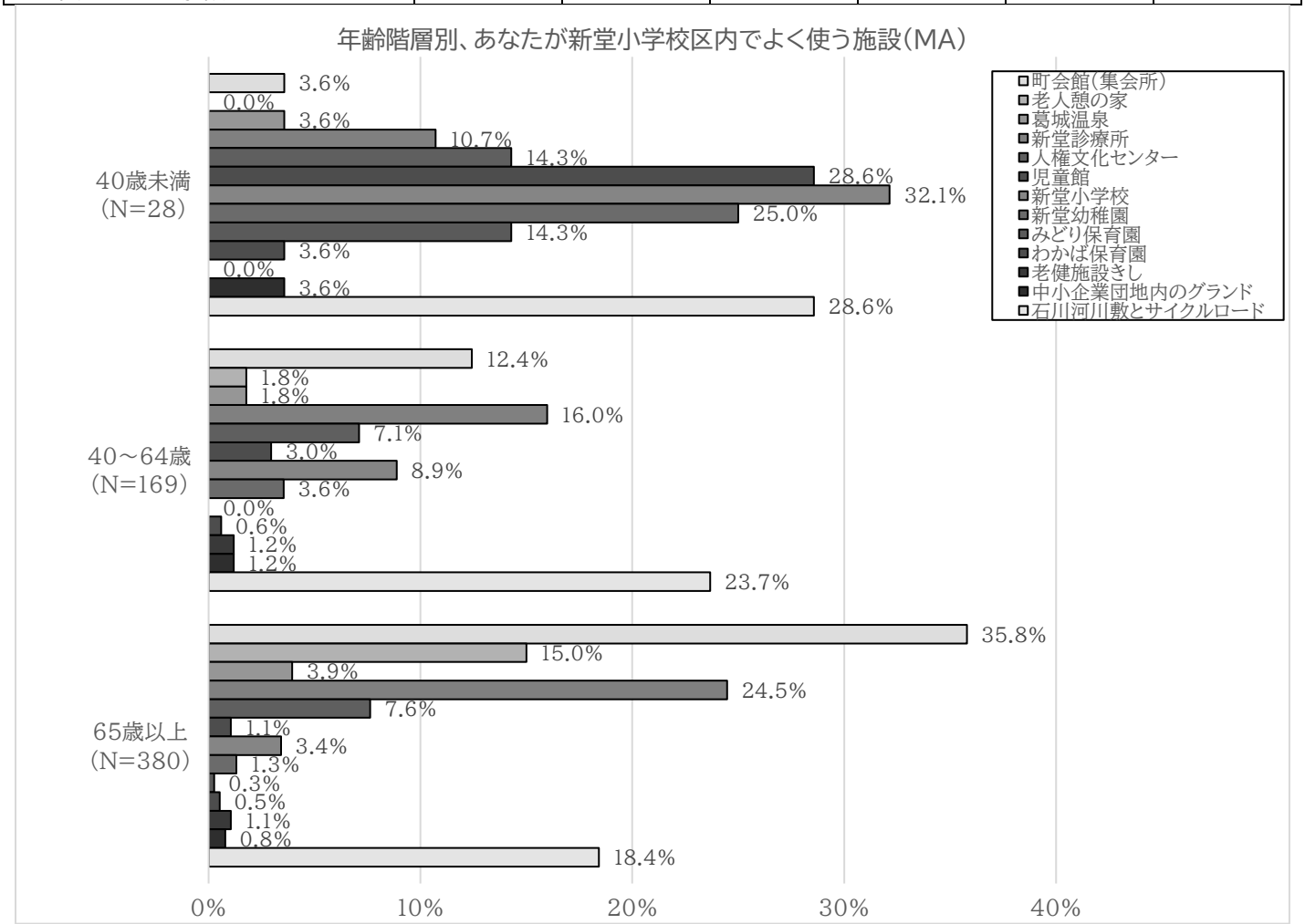
40 歳未満　新堂小学校 32.1%　＞　児童館 28.6%　＞　石川河川敷とサイクルロード 28.6%

40～64 歳　石川河川敷とサイクルロード 23.7%　＞　新堂診療所 16.0%　＞　町会館(集会所) 12.4%

65 歳以上　町会館(集会所) 35.8%　＞　新堂診療所 24.5%　＞　石川河川敷とサイクルロード 18.4%

年齢階層別、あなたが新堂小学校区内でよく使う施設（MA）

| | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 40 歳未満（N=28） | 40～64 歳（N=169） | 65 歳以上（N=380） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 町会館(集会所) | 1 | 21 | 136 | 3.6% | 12.4% | 35.8% |
| 老人憩の家 | 0 | 3 | 57 | 0.0% | 1.8% | 15.0% |
| 葛城温泉 | 1 | 3 | 15 | 3.6% | 1.8% | 3.9% |
| 新堂診療所 | 3 | 27 | 93 | 10.7% | 16.0% | 24.5% |
| 人権文化センター | 4 | 12 | 29 | 14.3% | 7.1% | 7.6% |
| 児童館 | 8 | 5 | 4 | 28.6% | 3.0% | 1.1% |
| 新堂小学校 | 9 | 15 | 13 | 32.1% | 8.9% | 3.4% |
| 新堂幼稚園 | 7 | 6 | 5 | 25.0% | 3.6% | 1.3% |
| みどり保育園 | 4 | 0 | 1 | 14.3% | 0.0% | 0.3% |
| わかば保育園 | 1 | 1 | 2 | 3.6% | 0.6% | 0.5% |
| 老健施設きし | 0 | 2 | 4 | 0.0% | 1.2% | 1.1% |
| 中小企業団地内のグランド | 1 | 2 | 3 | 3.6% | 1.2% | 0.8% |
| 石川河川敷とサイクルロード | 8 | 40 | 70 | 28.6% | 23.7% | 18.4% |
| その他 | 0 | 2 | 12 | 0.0% | 1.2% | 3.2% |
| よく利用している施設はない | 5 | 82 | 102 | 17.9% | 48.5% | 26.8% |



## 3－6. 施設に整っていれば利用したいと思う設備

施設に整っていれば利用したいと思う設備を多い順に並べると、以下のようになる。

全体　　健康器具 31.5%　＞　食堂や喫茶店 25.2%　＞　Wi-Fi 環境 13.1%

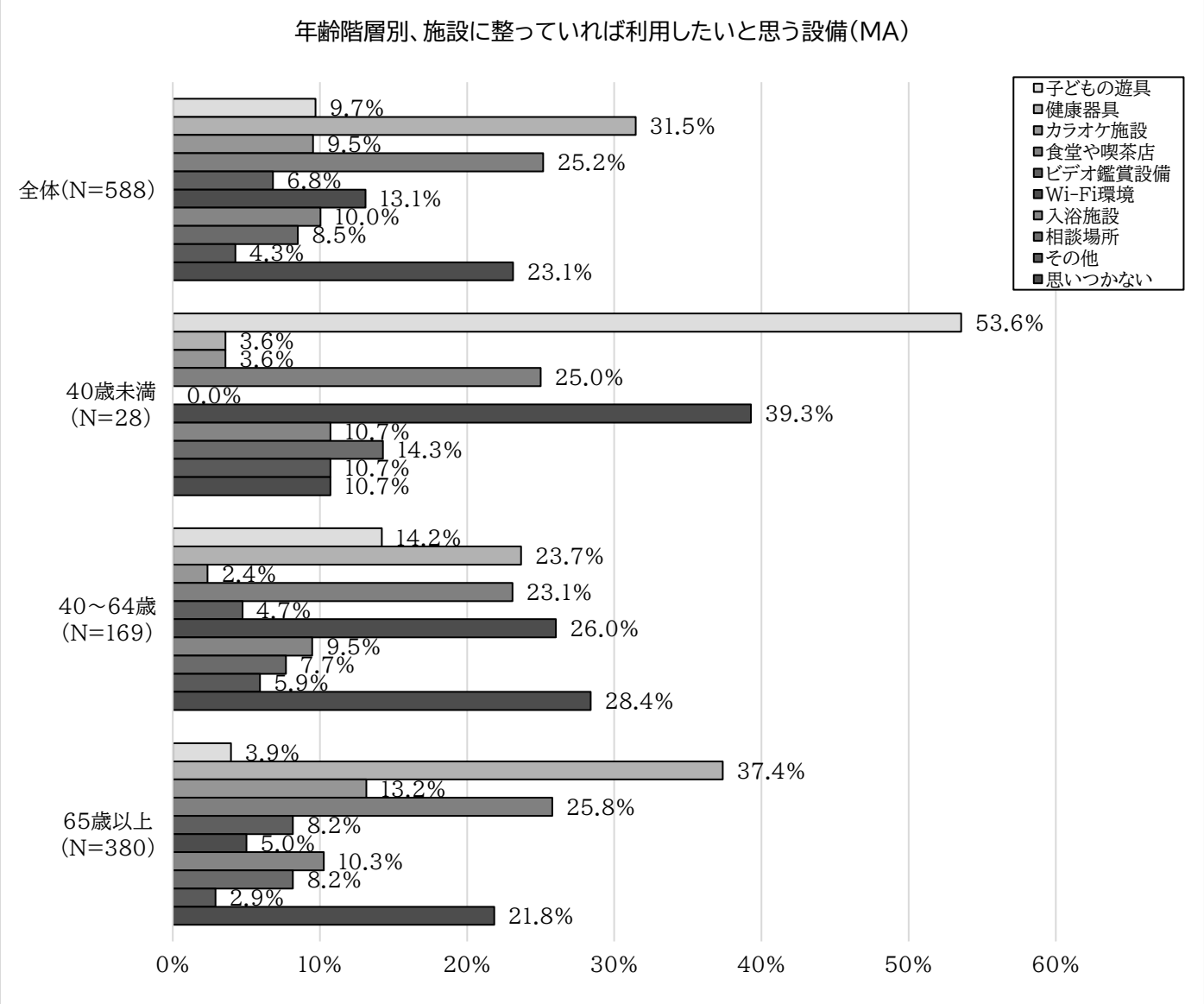
40 歳未満　子どもの遊具 53.6%　＞　Wi-Fi 環境 39.3%　＞　食堂や喫茶店 25.0%

40～64 歳　Wi-Fi 環境 26.0%　＞　健康器具 23.7%　＞　食堂や喫茶店 23.1%

65 歳以上　健康器具 37.4%　＞　食堂や喫茶店 25.8%　＞　カラオケ施設 13.2%

年齢階層別、施設に整っていれば利用したいと思う設備（MA）

| | 全体 | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 全体（N=588） | 40 歳未満（N=28） | 40～64 歳（N=169） | 65 歳以上（N=380） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 子どもの遊具 | 57 | 15 | 24 | 15 | 9.7% | 53.6% | 14.2% | 3.9% |
| 健康器具 | 185 | 1 | 40 | 142 | 31.5% | 3.6% | 23.7% | 37.4% |
| カラオケ施設 | 56 | 1 | 4 | 50 | 9.5% | 3.6% | 2.4% | 13.2% |
| 食堂や喫茶店 | 148 | 7 | 39 | 98 | 25.2% | 25.0% | 23.1% | 25.8% |
| ビデオ鑑賞設備 | 40 | 0 | 8 | 31 | 6.8% | 0.0% | 4.7% | 8.2% |
| Wi-Fi 環境 | 77 | 11 | 44 | 19 | 13.1% | 39.3% | 26.0% | 5.0% |
| 入浴施設 | 59 | 3 | 16 | 39 | 10.0% | 10.7% | 9.5% | 10.3% |
| 相談場所 | 50 | 4 | 13 | 31 | 8.5% | 14.3% | 7.7% | 8.2% |
| その他 | 25 | 3 | 10 | 11 | 4.3% | 10.7% | 5.9% | 2.9% |
| 思いつかない | 136 | 3 | 48 | 83 | 23.1% | 10.7% | 28.4% | 21.8% |



## 4. ボランティアについて

### 4－1. ボランティア活動をしていますか

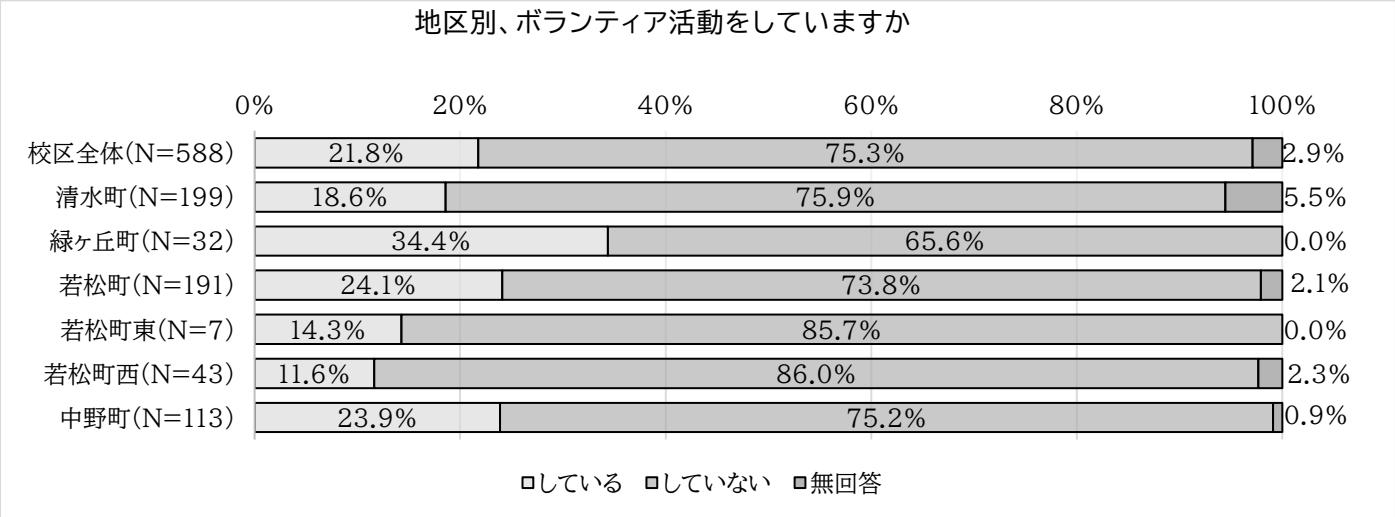
ボランティア活動については 21.8%と、約 2 割の人が「している」と答えている。

「している」と答えている人が多い地区は「緑ヶ丘町」34.4%、「若松町」24.1%、「中野町」23.9%、「清水町」21.8%の順になっている。

地区別、ボランティア活動をしていますか

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| している | 128 | 37 | 11 | 46 | 1 | 5 | 27 |
| していない | 443 | 151 | 21 | 141 | 6 | 37 | 85 |
| 無回答 | 17 | 11 | 0 | 4 | 0 | 1 | 1 |
| 計 | 588 | 199 | 32 | 191 | 7 | 43 | 113 |

| | 校区全体（N=588） | 清水町（N=199） | 緑ヶ丘町（N=32） | 若松町（N=191） | 若松町東（N=7） | 若松町西（N=43） | 中野町（N=113） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| している | 21.8% | 18.6% | 34.4% | 24.1% | 14.3% | 11.6% | 23.9% |
| していない | 75.3% | 75.9% | 65.6% | 73.8% | 85.7% | 86.0% | 75.2% |
| 無回答 | 2.9% | 5.5% | 0.0% | 2.1% | 0.0% | 2.3% | 0.9% |
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |




### 4－2. どんなボランティア活動をしていますか（MA）

行っているボランティア活動を「その他」を除いて多い順に並べると以下のようになる。

全体　「地域行事のお手伝い」53.1%　＞　「近所の清掃活動」36.7%　＞　「福祉委員会活動」19.5%

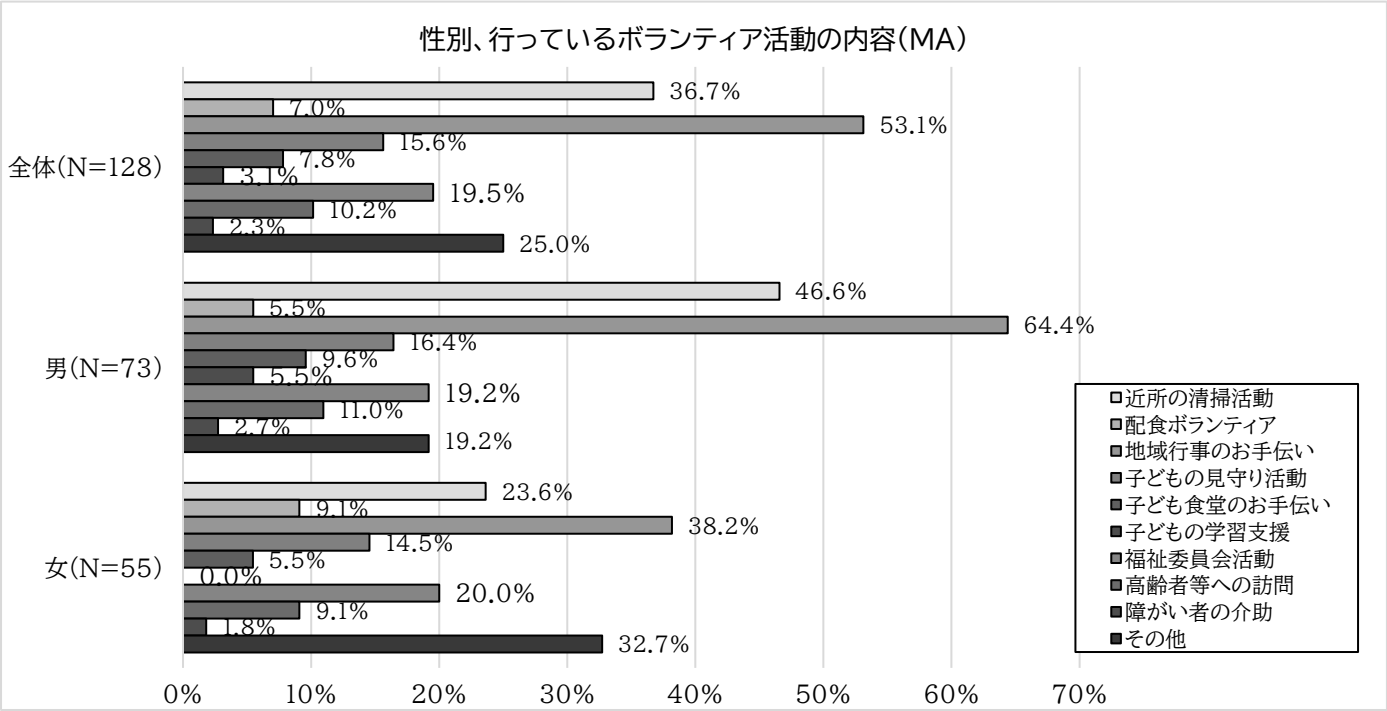
男　「地域行事のお手伝い」64.4%　＞　「近所の清掃活動」46.6%　＞　「福祉委員会活動」19.2%

女　「地域行事のお手伝い」38.2%　＞　「近所の清掃活動」23.6%　＞　福祉委員会活動」20.0%

特に「男」は「地域行事のお手伝い」、「近所の清掃活動」に集中している。

性別、行っているボランティア活動の内容（MA）

| | 全体 | 男 | 女 | 全体（N=128） | 男(N=73) | 女(N=55) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 近所の清掃活動 | 47 | 34 | 13 | 36.7% | 46.6% | 23.6% |
| 配食ボランティア | 9 | 4 | 5 | 7.0% | 5.5% | 9.1% |
| 地域行事のお手伝い | 68 | 47 | 21 | 53.1% | 64.4% | 38.2% |
| 子どもの見守り活動 | 20 | 12 | 8 | 15.6% | 16.4% | 14.5% |
| 子ども食堂のお手伝い | 10 | 7 | 3 | 7.8% | 9.6% | 5.5% |
| 子どもの学習支援 | 4 | 4 | 0 | 3.1% | 5.5% | 0.0% |
| 福祉委員会活動 | 25 | 14 | 11 | 19.5% | 19.2% | 20.0% |
| 高齢者等への訪問 | 13 | 8 | 5 | 10.2% | 11.0% | 9.1% |
| ガイドヘルパー | 0 | 0 | 0 | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 障がい者の介助 | 3 | 2 | 1 | 2.3% | 2.7% | 1.8% |
| その他 | 32 | 14 | 18 | 25.0% | 19.2% | 32.7% |




年利階層別に行っているボランティア活動の内容を「その他」を除いて多い順に並べてみると、以下のようになる。

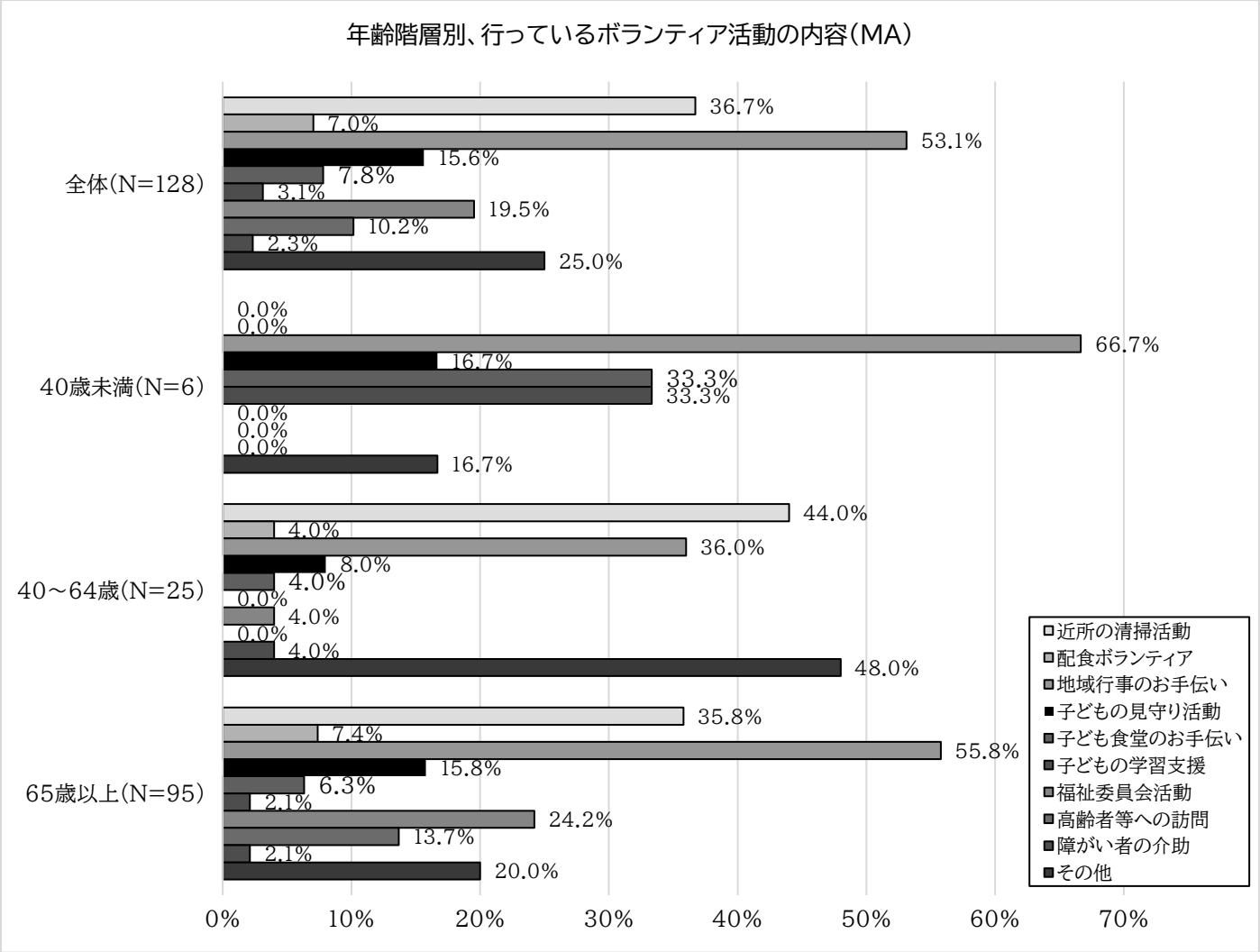
40 歳未満　「地域行事のお手伝い」66.7%　＞「子ども食堂のお手伝い」「子どもの学習支援」33.3%

40～64 歳　「近所の清掃活動」44.0%　＞「地域行事のお手伝い」36.0%　＞「子どもの見守り活動」8.0%

65 歳以上　「地域行事のお手伝い」＞「近所の清掃活動」35.8%　＞「福祉委員会活動」24.2%

年齢階層別、行っているボランティア活動の内容(MA)

| | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 40 歳未満（N=6） | 40～64 歳（N=25） | 65 歳以上（N=95） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 近所の清掃活動 | 0 | 11 | 34 | 0.0% | 44.0% | 35.8% |
| 配食ボランティア | 0 | 1 | 7 | 0.0% | 4.0% | 7.4% |
| 地域行事のお手伝い | 4 | 9 | 53 | 66.7% | 36.0% | 55.8% |
| 子どもの見守り活動 | 1 | 2 | 15 | 16.7% | 8.0% | 15.8% |
| 子ども食堂のお手伝い | 2 | 1 | 6 | 33.3% | 4.0% | 6.3% |
| 子どもの学習支援 | 2 | 0 | 2 | 33.3% | 0.0% | 2.1% |
| 福祉委員会活動 | 0 | 1 | 23 | 0.0% | 4.0% | 24.2% |
| 高齢者等への訪問 | 0 | 0 | 13 | 0.0% | 0.0% | 13.7% |
| ガイドヘルパー | 0 | 0 | 0 | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 障がい者の介助 | 0 | 1 | 2 | 0.0% | 4.0% | 2.1% |
| その他 | 1 | 12 | 19 | 16.7% | 48.0% | 20.0% |



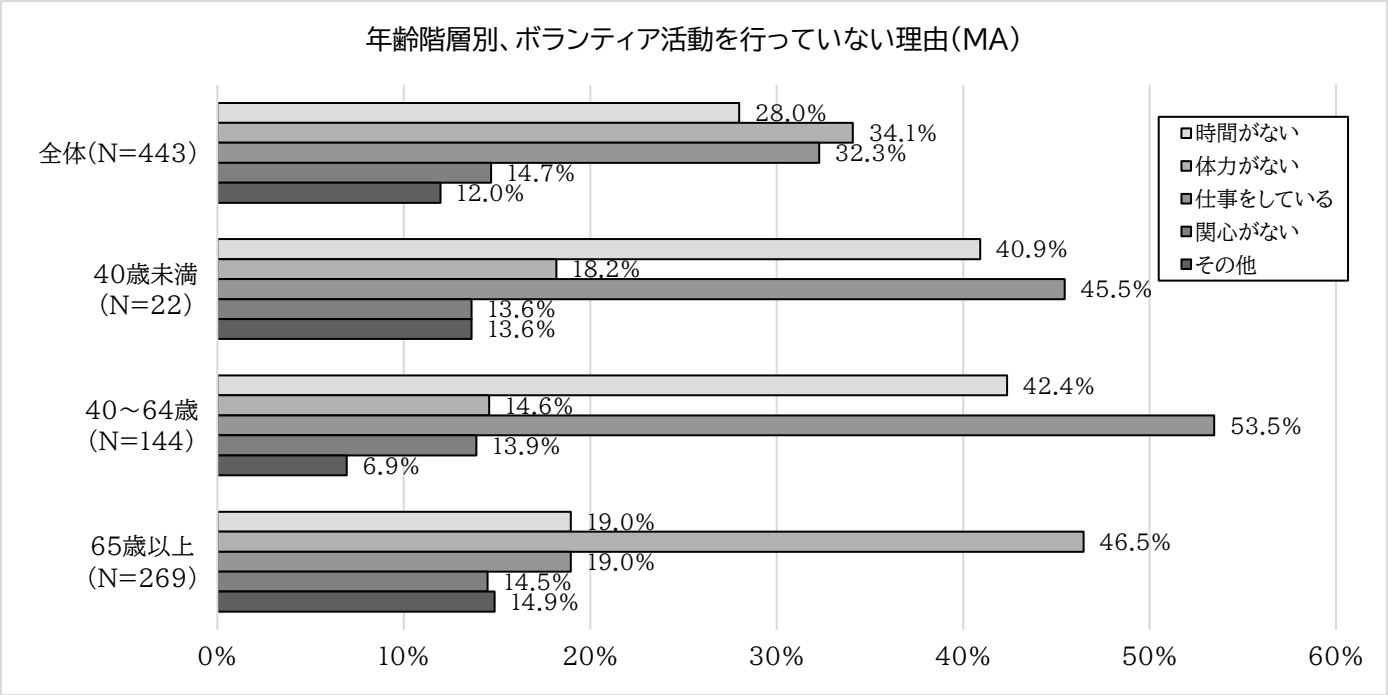

## 4－3. ボランティア活動をおこなっていない理由（MA）

ボランティア活動をしていない理由を多い順に並べると、以下のようになる。

全体　「体力がない」34.1%　＞「仕事をしている」32.3%　＞「時間がない」28.0%
40 歳未満　「仕事をしている」45.5%　＞「時間がない」40.9%　＞「体力がない」18.2%
40～64 歳　「仕事をしている」53.5%　＞「時間がない」42.4%　＞「体力がない」14.6%
65 歳以上　「体力がない」46.5%　＞「時間がない」「仕事をしている」19.0%

年齢階層別、ボランティア活動を行っていない理由（MA）

| | 全体 | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 全体（N=443） | 40 歳未満（N=22） | 40～64 歳（N=144） | 65 歳以上（N=269） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 時間がない | 124 | 9 | 61 | 51 | 28.0% | 40.9% | 42.4% | 19.0% |
| 体力がない | 151 | 4 | 21 | 125 | 34.1% | 18.2% | 14.6% | 46.5% |
| 仕事をしている | 143 | 10 | 77 | 51 | 32.3% | 45.5% | 53.5% | 19.0% |
| 関心がない | 65 | 3 | 20 | 39 | 14.7% | 13.6% | 13.9% | 14.5% |
| その他 | 53 | 3 | 10 | 40 | 12.0% | 13.6% | 6.9% | 14.9% |




## 4－4. 今後やってみたいボランティア活動(MA)

今後やってみたいボランティア活動を年齢階層別に多い順に並べると、以下のようになる。

全体　「地域活動のお手伝い」18.0%　＞「近所の清掃活動」17.3%　＞「子どもの見守り活動」9.9%

40 歳未満　「地域行事のお手伝い」17.9%　＞「子どもの見守り活動」14.3%
＞「子ども食堂のお手伝い」「子どもの学習支援」10.7%

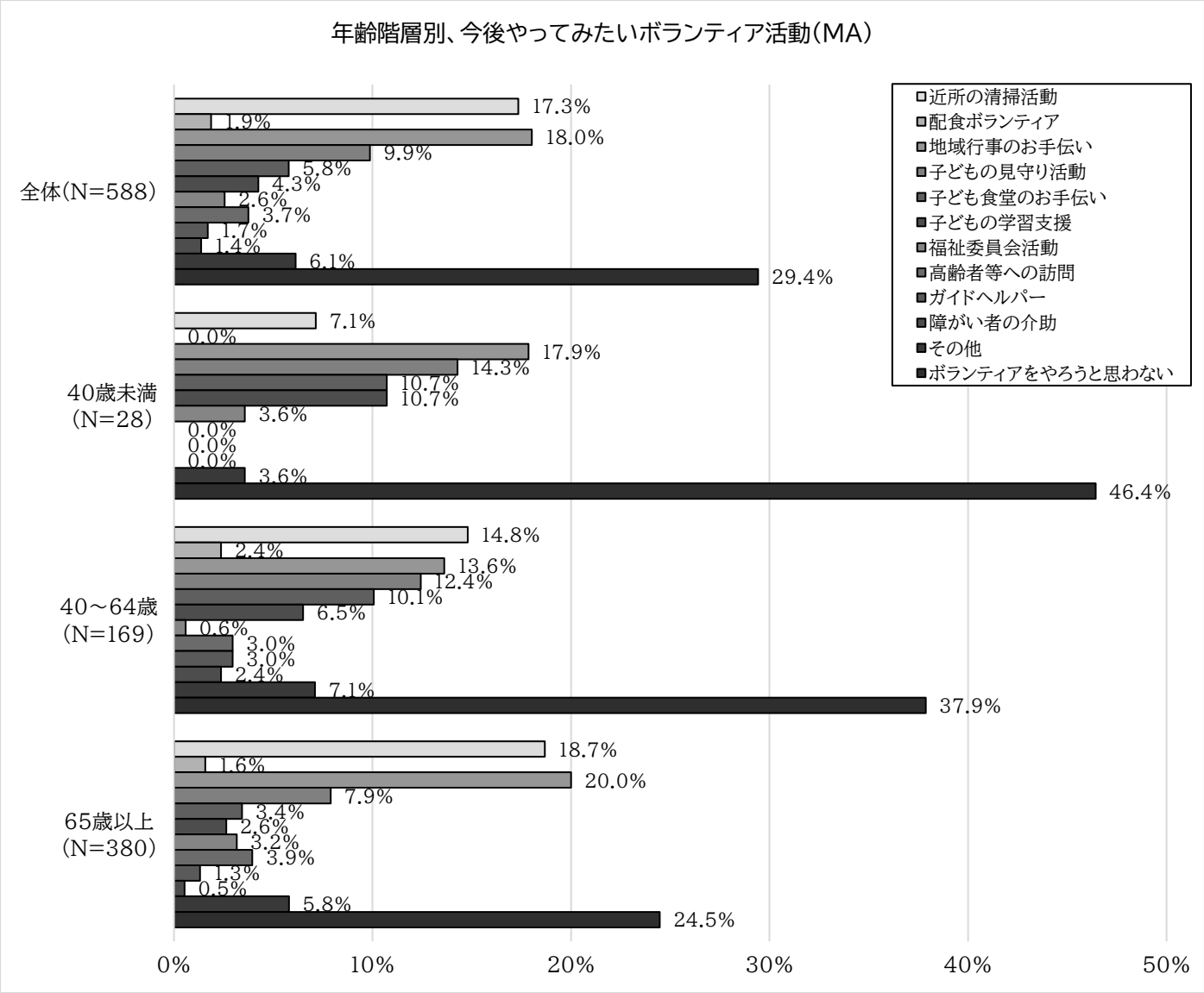
40～64 歳　「近所の清掃活動」14.8%　＞「地域行事のお手伝い」13.6%　＞「子どもの見守り活動」12.4%

65 歳以上　「地域行事のお手伝い」20.0%　＞「近所の清掃活動」18.7%　＞「子どもの見守り活動」7.9%

また、「ボランティアをやろうとは思わない」は「全体」で 29.4%、「40 歳未満」で 46.4%、「40～64 歳」で 37.9%「65 歳以上」で 24.5%となっています。

年齢階層別、今後やってみたいボランティア活動(MA)

| | 全体 | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 全体 (N=588) | 40 歳未満 (N=22) | 40～64 歳 (N=144) | 65 歳以上 (N=269) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 近所の清掃活動 | 102 | 2 | 25 | 71 | 17.3% | 7.1% | 14.8% | 18.7% |
| 配食ボランティア | 11 | 0 | 4 | 6 | 1.9% | 0.0% | 2.4% | 1.6% |
| 地域行事のお手伝い | 106 | 5 | 23 | 76 | 18.0% | 17.9% | 13.6% | 20.0% |
| 子どもの見守り活動 | 58 | 4 | 21 | 30 | 9.9% | 14.3% | 12.4% | 7.9% |
| 子ども食堂のお手伝い | 34 | 3 | 17 | 13 | 5.8% | 10.7% | 10.1% | 3.4% |
| 子どもの学習支援 | 25 | 3 | 11 | 10 | 4.3% | 10.7% | 6.5% | 2.6% |
| 福祉委員会活動 | 15 | 1 | 1 | 12 | 2.6% | 3.6% | 0.6% | 3.2% |
| 高齢者等への訪問 | 22 | 0 | 5 | 15 | 3.7% | 0.0% | 3.0% | 3.9% |
| ガイドヘルパー | 10 | 0 | 5 | 5 | 1.7% | 0.0% | 3.0% | 1.3% |
| 障がい者の介助 | 8 | 0 | 4 | 2 | 1.4% | 0.0% | 2.4% | 0.5% |
| その他 | 36 | 1 | 12 | 22 | 6.1% | 3.6% | 7.1% | 5.8% |
| ボランティアをやろうと思わない | 173 | 13 | 64 | 93 | 29.4% | 46.4% | 37.9% | 24.5% |

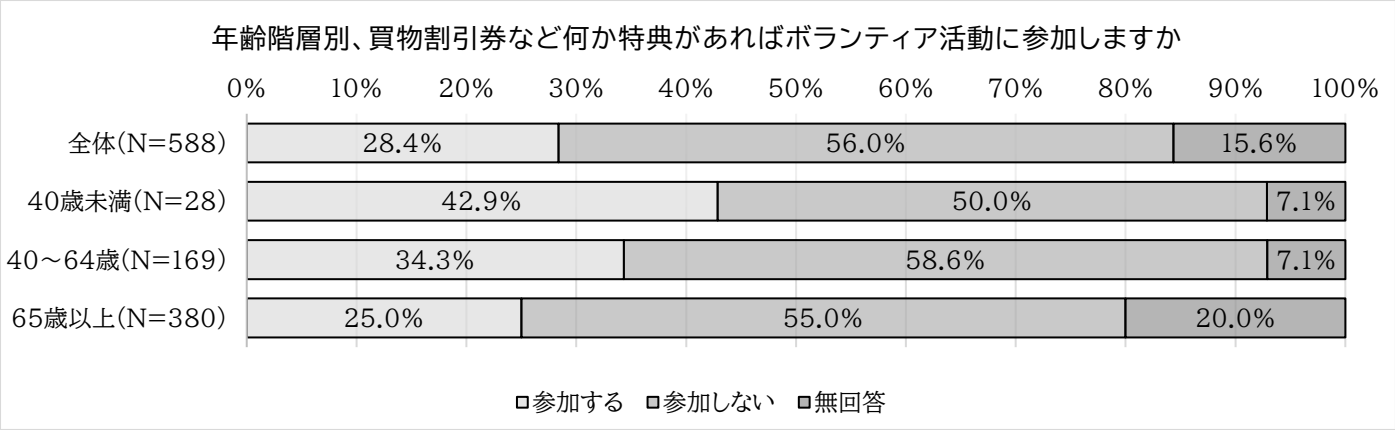



## 4－5. 買物割引券など何か特典があればボランティア活動に参加しますか

買物割引券など何か特典があればボランティア活動に参加すると回答した人の割合は、「40 歳未満」で 42.9%、「40～64 歳」で 34.3%、「65 歳以上」で 25.0%と、若い人ほど高くなっており、ボランティア活動に参加するこによる特典が若い人たちのボランティア活動への参加意欲を高める可能性があると考えられる。

年齢階層別、買物割引券など何か特典があればボランティア活動に参加しますか

| | 全体 | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 全体（N=588） | 40 歳未満（N=28） | 40～64 歳（N=169） | 65 歳以上（N=380） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 参加する | 167 | 12 | 58 | 95 | 28.4% | 42.9% | 34.3% | 25.0% |
| 参加しない | 329 | 14 | 99 | 209 | 56.0% | 50.0% | 58.6% | 55.0% |
| 無回答 | 92 | 2 | 12 | 76 | 15.6% | 7.1% | 7.1% | 20.0% |
| 計 | 588 | 28 | 169 | 380 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

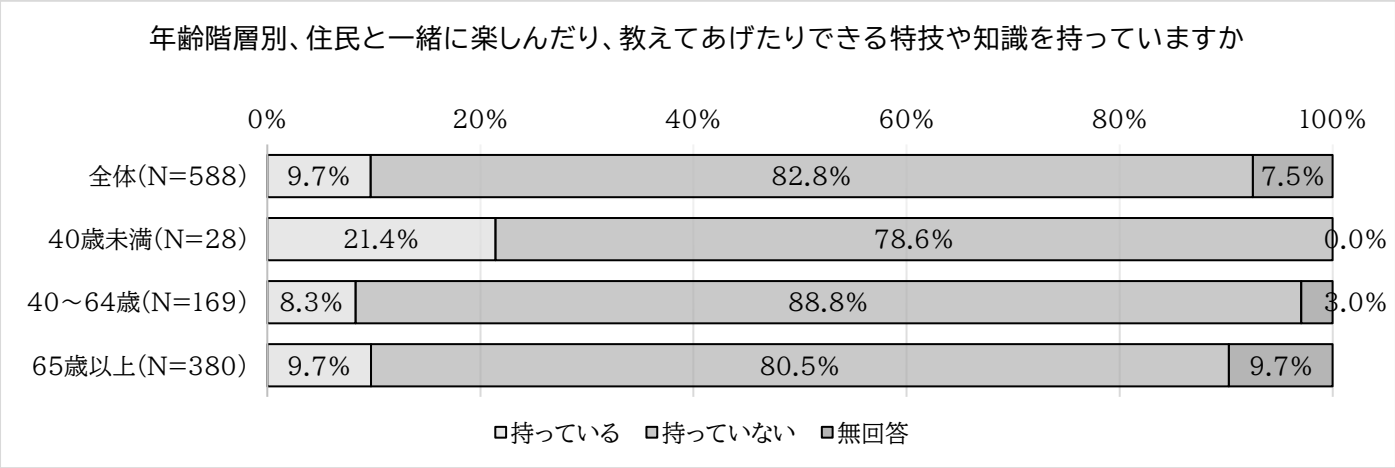



## 4－6. 住民と一緒に楽しんだり、教えてあげたりできる特技や知識を持っていますか

年齢階層別に特技や知識を持っている人の割合を見ると、「40 歳未満」は 21.4%、「40～64 歳」は 8.3%、「65 歳以上」は 9.7%となっている。

年齢階層別、住民と一緒に楽しんだり、教えてあげたりできる特技や知識を持っていますか

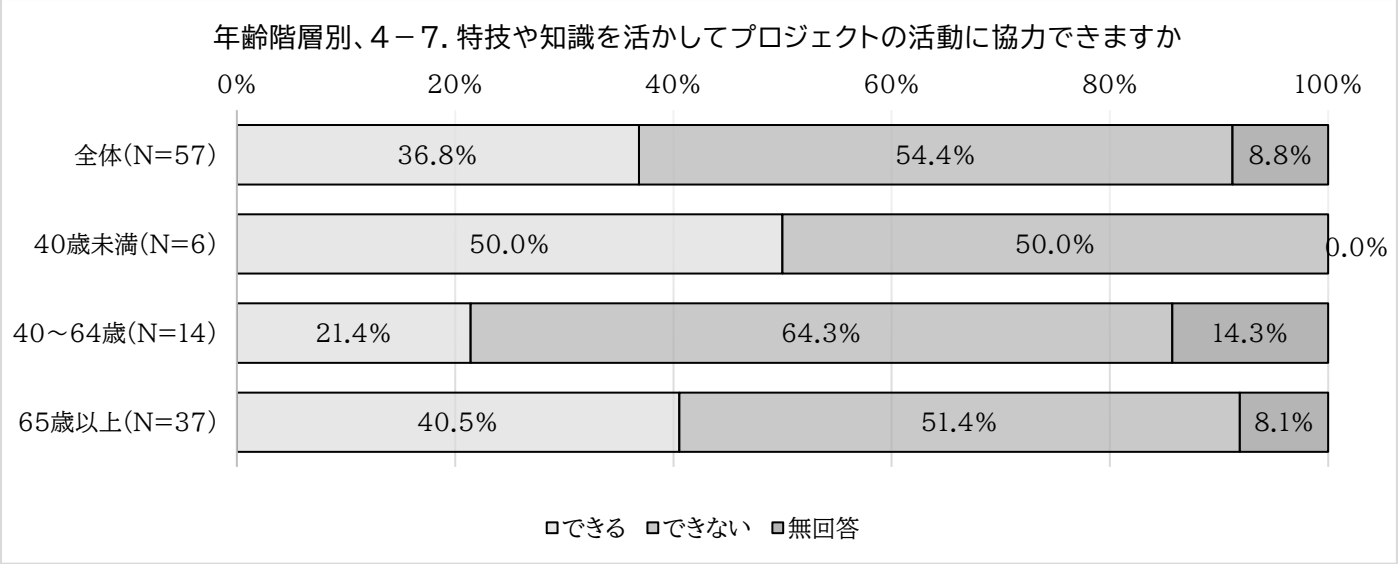
| | 全体 | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 全体（N=588） | 40 歳未満（N=28） | 40～64 歳（N=169） | 65 歳以上（N=380） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 持っている | 57 | 6 | 14 | 37 | 9.7% | 21.4% | 8.3% | 9.7% |
| 持っていない | 487 | 22 | 150 | 306 | 82.8% | 78.6% | 88.8% | 80.5% |
| 無回答 | 44 | 0 | 5 | 37 | 7.5% | 0.0% | 3.0% | 9.7% |
| 計 | 588 | 28 | 169 | 380 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |




## 4－7. 特技や知識を活かしてプロジェクトの活動に協力できますか

特技や知識を活かしてプロジェクトの活動に協力できると回答した人は、「全体」で 21 人。年齢階層別では「40 歳未満」3 人、「40～64 歳」3 人、「65 歳以上」15 人となっている。

| | 全体 | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 全体（N=57） | 40 歳未満（N=6） | 40～64 歳（N=14） | 65 歳以上（N=37） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| できる | 21 | 3 | 3 | 15 | 36.8% | 50.0% | 21.4% | 40.5% |
| できない | 31 | 3 | 9 | 19 | 54.4% | 50.0% | 64.3% | 51.4% |
| 無回答 | 5 | 0 | 2 | 3 | 8.8% | 0.0% | 14.3% | 8.1% |
| 計 | 57 | 6 | 14 | 37 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |



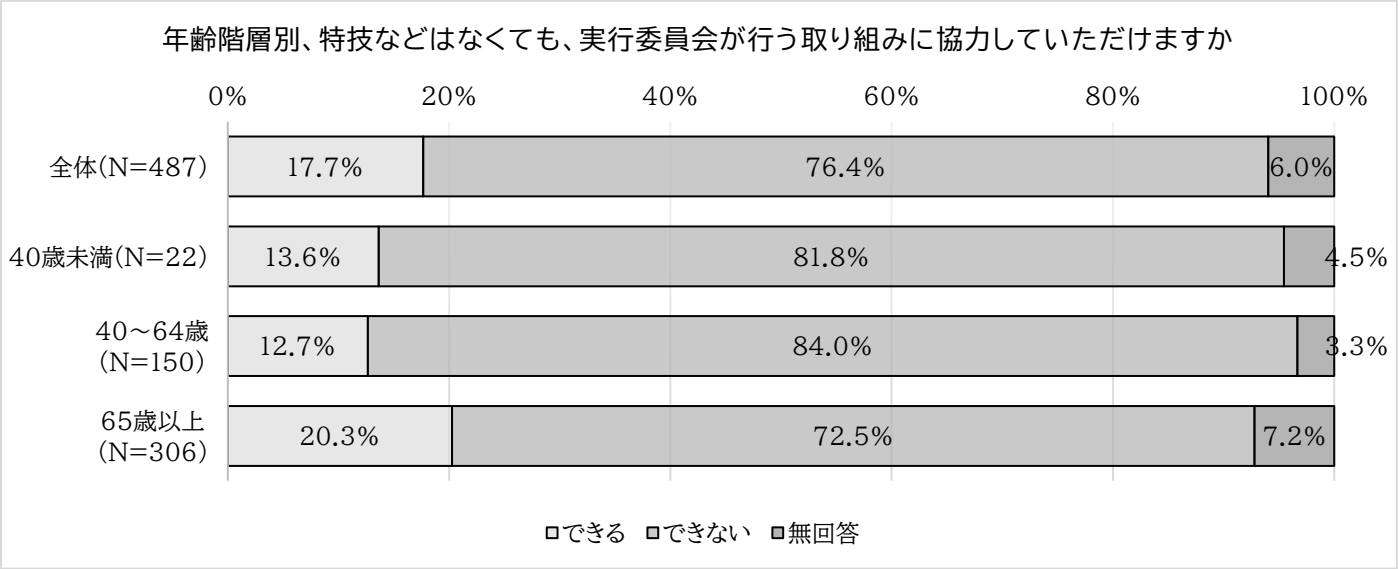

## 4－8. 特技などはなくても、実行委員会が行う取り組みに協力していただけますか

特技などはなくても、実行委員会が行う取り組みに協力できると回答した人は、全体で 17.7%でした。

年齢階層別では「40 歳未満」は 13.6%、「40～64 歳」は 12.7%、「65 歳以上」は 20.3%が協力できると回答しています。

年齢階層別、特技などはなくても、実行委員会が行う取り組みに協力していただけますか

| | 全体 | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 全体（N=487） | 40 歳未満（N=22） | 40～64 歳（N=150） | 65 歳以上（N=306） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| できる | 86 | 3 | 19 | 62 | 17.7% | 13.6% | 12.7% | 20.3% |
| できない | 372 | 18 | 126 | 222 | 76.4% | 81.8% | 84.0% | 72.5% |
| 無回答 | 29 | 1 | 5 | 22 | 6.0% | 4.5% | 3.3% | 7.2% |
| 計 | 487 | 22 | 150 | 306 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |



## 4－9. 今後どんなボランティア活動があればよいと思いますか（MA）

今後どんなボランティア活動があればよいと思うかについて、多い順に並べると、以下のようになる。

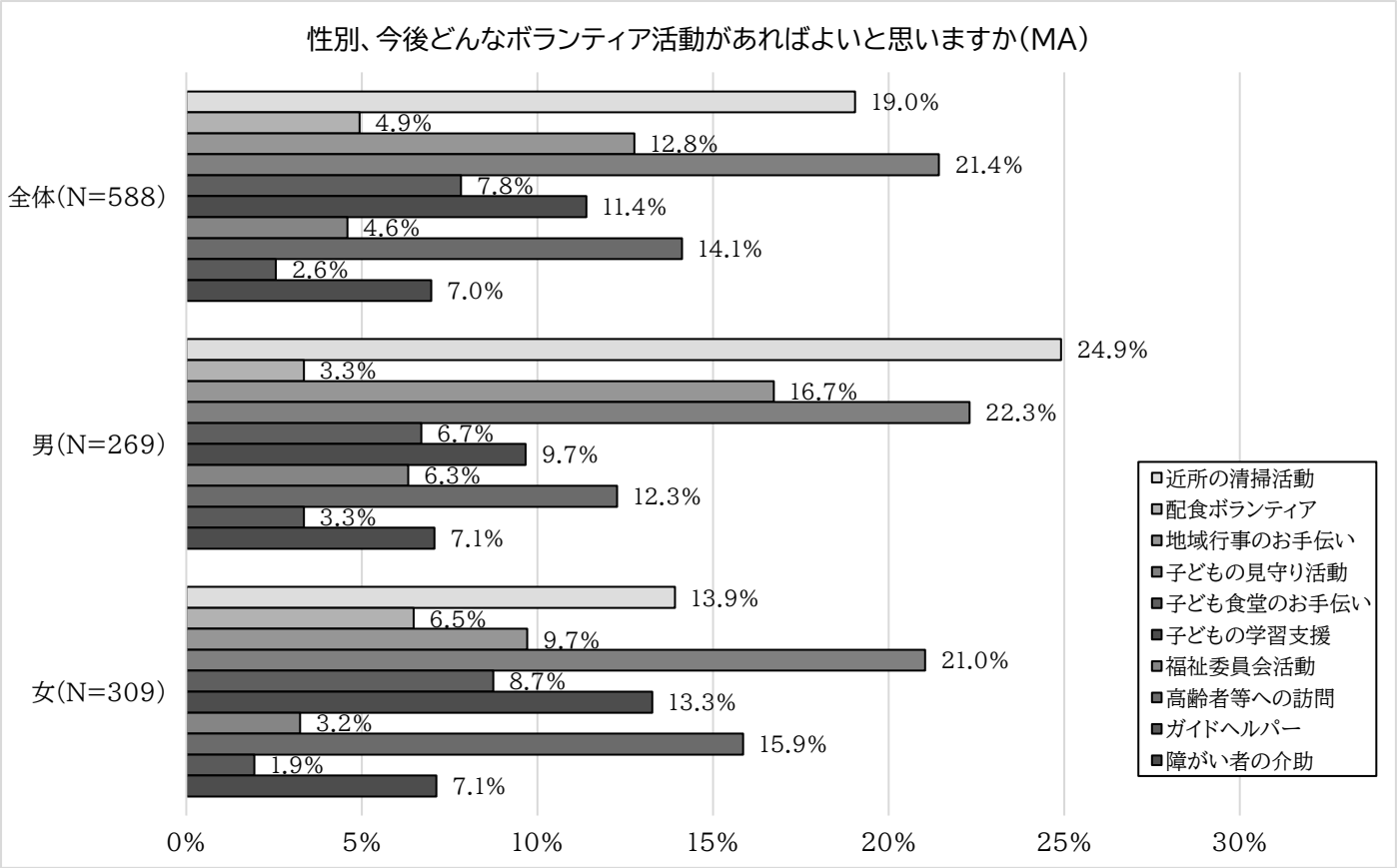
全体　「子どもの見守り活動」21.4%　＞「近所の清掃活動」19.0%　＞「高齢者等への訪問」14.1%

男　「近所の清掃活動」24.9%　＞「子どもの見守り活動」22.3%　＞「高齢者等への訪問」12.3%

女　「子どもの見守り活動」21.0%　＞「高齢者等への訪問」15.9%　＞「近所の清掃活動」13.9%

性別、今後どんなボランティア活動があればよいと思いますか（MA）

| | 全体 | 男 | 女 | 全体（N=588） | 男（N=269） | 女（N=309） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 近所の清掃活動 | 112 | 67 | 43 | 19.0% | 24.9% | 13.9% |
| 配食ボランティア | 29 | 9 | 20 | 4.9% | 3.3% | 6.5% |
| 地域行事のお手伝い | 75 | 45 | 30 | 12.8% | 16.7% | 9.7% |
| 子どもの見守り活動 | 126 | 60 | 65 | 21.4% | 22.3% | 21.0% |
| 子ども食堂のお手伝い | 46 | 18 | 27 | 7.8% | 6.7% | 8.7% |
| 子どもの学習支援 | 67 | 26 | 41 | 11.4% | 9.7% | 13.3% |
| 福祉委員会活動 | 27 | 17 | 10 | 4.6% | 6.3% | 3.2% |
| 高齢者等への訪問 | 83 | 33 | 49 | 14.1% | 12.3% | 15.9% |
| ガイドヘルパー | 15 | 9 | 6 | 2.6% | 3.3% | 1.9% |
| 障がい者の介助 | 41 | 19 | 22 | 7.0% | 7.1% | 7.1% |
| その他 | 18 | 4 | 13 | 3.1% | 1.5% | 4.2% |
| 思いつかない | 196 | 98 | 94 | 33.3% | 36.4% | 30.4% |



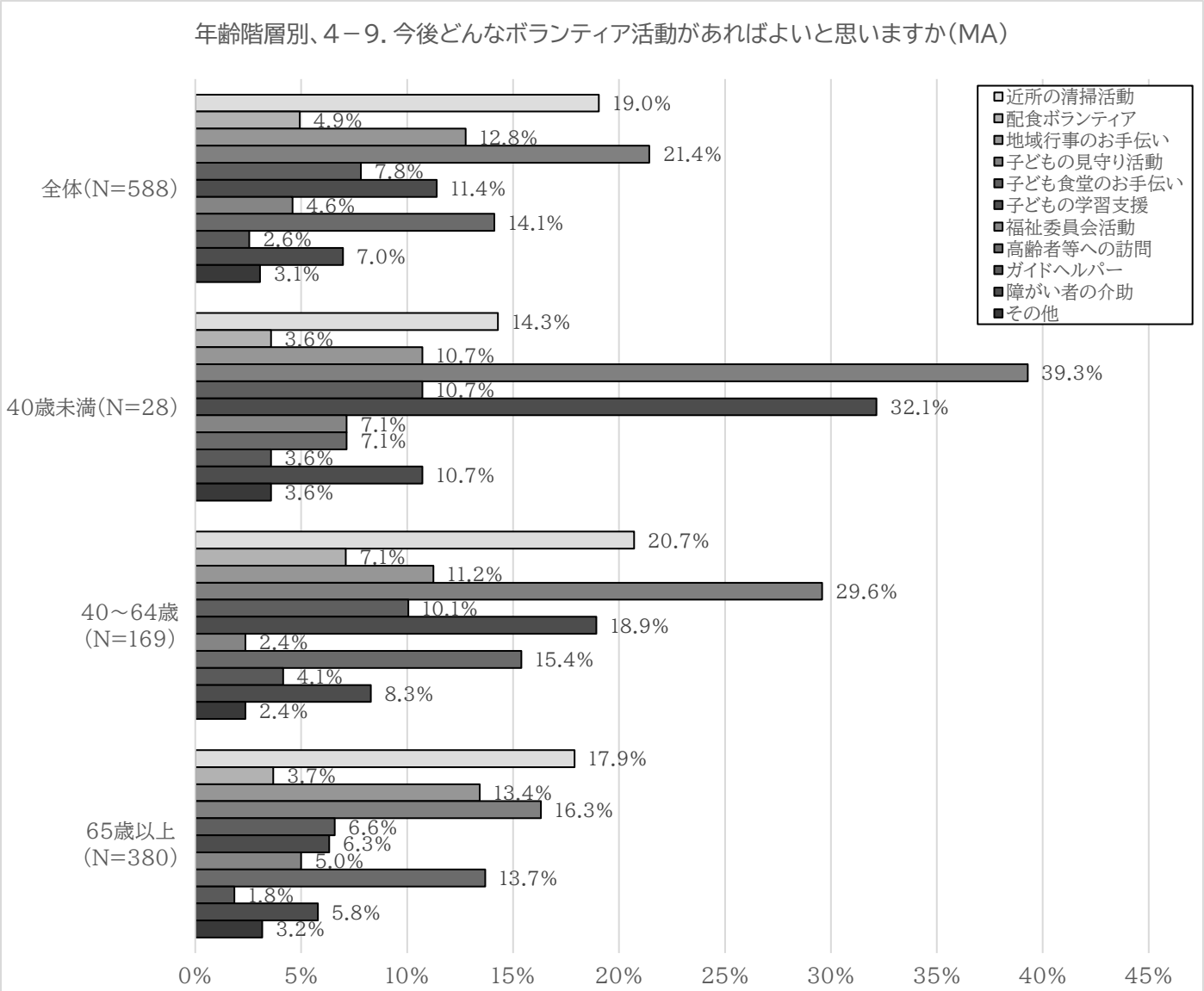

今後どんなボランティア活動があればよいと思うかについて、年齢階層別に多い順で並べると、以下のようになる。

40 歳未満　「子どもの見守り活動」39.3%　＞「子どもの学習支援」32.1%　＞「近所の清掃活動」14.3%

40～64 歳　「子どもの見守り活動」29.6%　＞「近所の清掃活動」20.7%　＞「子どもの学習支援」18.9%

65 歳以上　「近所の清掃活動」17.9%　＞「子どもの見守り活動」16.3%　＞「高齢者等への訪問」13.7%

| | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 40 歳未満（N=28） | 40～64 歳（N=169） | 65 歳以上（N=380） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 近所の清掃活動 | 4 | 35 | 68 | 14.3% | 20.7% | 17.9% |
| 配食ボランティア | 1 | 12 | 14 | 3.6% | 7.1% | 3.7% |
| 地域行事のお手伝い | 3 | 19 | 51 | 10.7% | 11.2% | 13.4% |
| 子どもの見守り活動 | 11 | 50 | 62 | 39.3% | 29.6% | 16.3% |
| 子ども食堂のお手伝い | 3 | 17 | 25 | 10.7% | 10.1% | 6.6% |
| 子どもの学習支援 | 9 | 32 | 24 | 32.1% | 18.9% | 6.3% |
| 福祉委員会活動 | 2 | 4 | 19 | 7.1% | 2.4% | 5.0% |
| 高齢者等への訪問 | 2 | 26 | 52 | 7.1% | 15.4% | 13.7% |
| ガイドヘルパー | 1 | 7 | 7 | 3.6% | 4.1% | 1.8% |
| 障がい者の介助 | 3 | 14 | 22 | 10.7% | 8.3% | 5.8% |
| その他 | 1 | 4 | 12 | 3.6% | 2.4% | 3.2% |
| 思いつかない | 10 | 56 | 126 | 35.7% | 33.1% | 33.2% |



## 5. ご近所づきあいについて

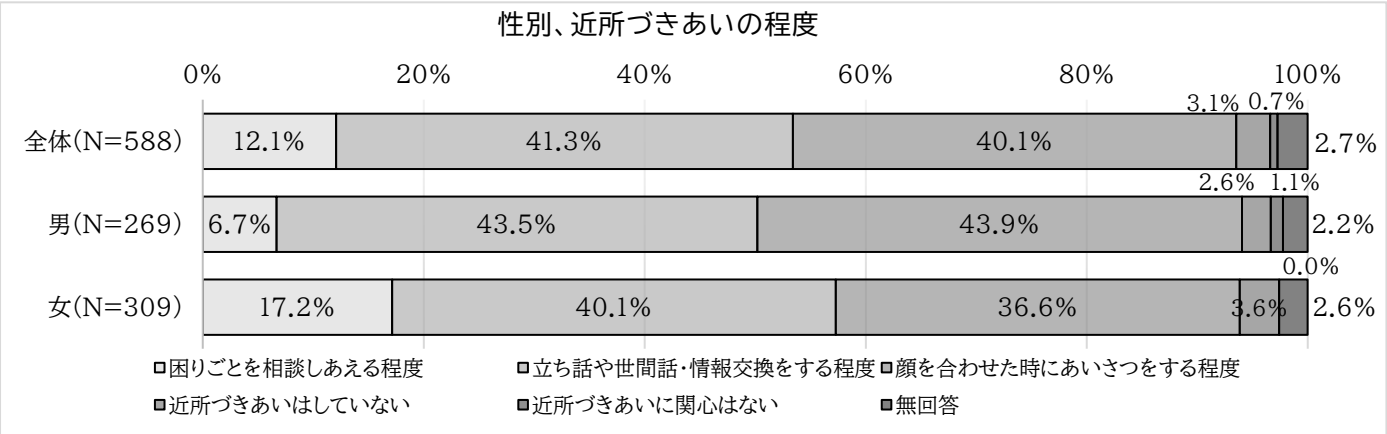
### 5－1. 近所づきあいの程度

近所づきあいでは、ほとんどが「立ち話や世間話・情報交換をする程度」「顔を合わせた時にあいさつをする程度」で、「困りごとを相談しあえる程度」は 12.1%となっている。

性別で「困りごとを相談しあえる程度」をみると「男」は 6.7%、「女」は 17.2%と、「女」に方がより親密な近所づきあいになっている。

性別、近所づきあいの程度

| | 全体 | 男 | 女 | 全体（N=588） | 男（N=269） | 女（N=309） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 困りごとを相談しあえる程度 | 71 | 18 | 53 | 12.1% | 6.7% | 17.2% |
| 立ち話や世間話・情報交換をする程度 | 243 | 117 | 124 | 41.3% | 43.5% | 40.1% |
| 顔を合わせた時にあいさつをする程度 | 236 | 118 | 113 | 40.1% | 43.9% | 36.6% |
| 近所づきあいはしていない | 18 | 7 | 11 | 3.1% | 2.6% | 3.6% |
| 近所づきあいに関心はない | 4 | 3 | 0 | 0.7% | 1.1% | 0.0% |
| 無回答 | 16 | 6 | 8 | 2.7% | 2.2% | 2.6% |
| 計 | 588 | 269 | 309 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |



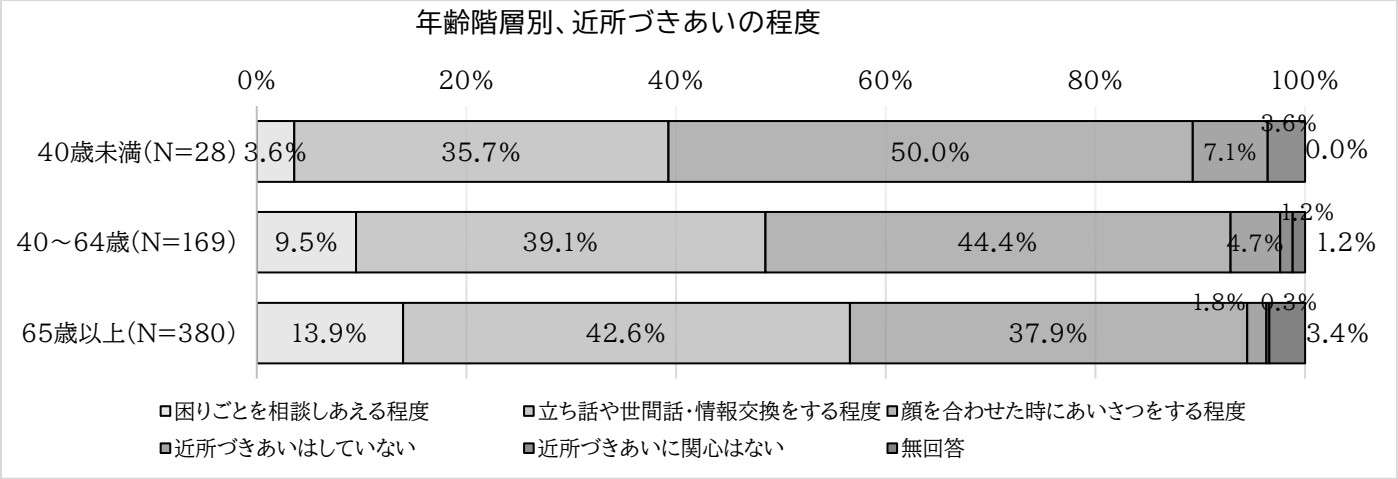

「困りごとを相談しあえる程度」の割合を年齢階層別に比較すると

「40 歳未満」3.6% ＜ 「40～64 歳」9.5% ＜ 「65 歳以上」13.9%

と、年齢が高くなるほど、親密さが増す傾向を示している。

年齢階層別、近所づきあいの程度

| | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 40 歳未満（N=28） | 40～64 歳（N=169） | 65 歳以上（N=380） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 困りごとを相談しあえる程度 | 1 | 16 | 53 | 3.6% | 9.5% | 13.9% |
| 立ち話や世間話・情報交換をする程度 | 10 | 66 | 162 | 35.7% | 39.1% | 42.6% |
| 顔を合わせた時にあいさつをする程度 | 14 | 75 | 144 | 50.0% | 44.4% | 37.9% |
| 近所づきあいはしていない | 2 | 8 | 7 | 7.1% | 4.7% | 1.8% |
| 近所づきあいに関心はない | 1 | 2 | 1 | 3.6% | 1.2% | 0.3% |
| 無回答 | 0 | 2 | 13 | 0.0% | 1.2% | 3.4% |
| 計 | 28 | 169 | 380 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

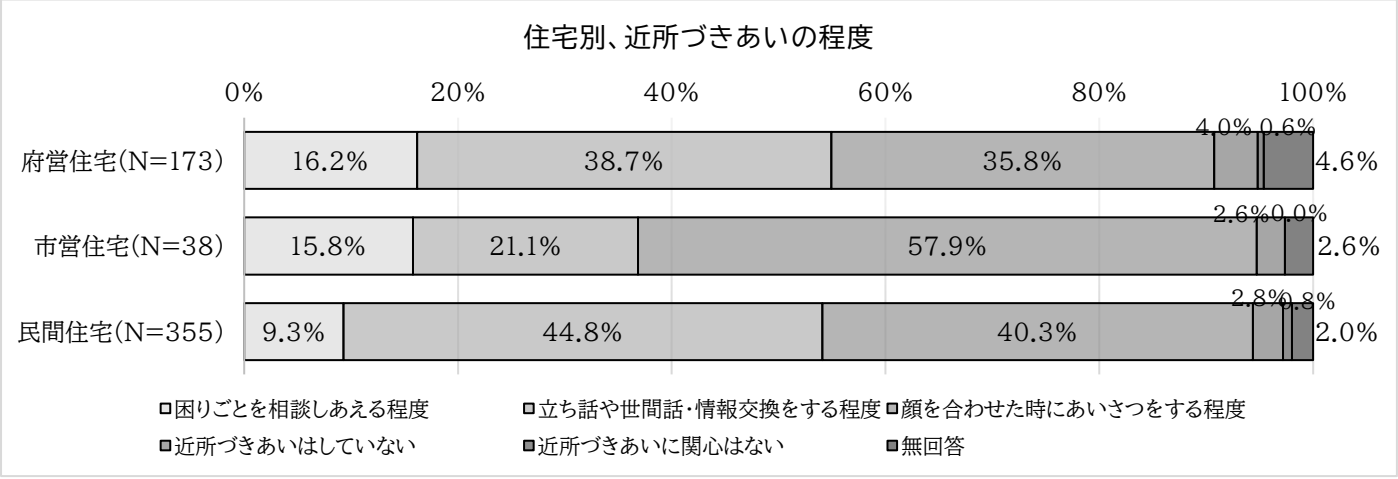



住宅別に近所づきあいの程度を見ると、「困りごとを相談しあえる程度」は「府営住宅」が 16.2%、「市営住宅」が 15.8%と、「民間住宅」9.3%より 6～7 ポイント多い。

また、「府営住宅」「民間住宅」は「立ち話や世間話・情報交換をする程度」が「顔を合わせた時にあいさつをする程度」をわずかに上回っているのに対し、「市営住宅」は「立ち話や世間話・情報交換をする程度」が 21.1%に対し、「顔を合わせた時にあいさつをする程度」が 57.9%と、36.8 ポイントの差がある。

住宅別、近所づきあいの程度

| | 府営住宅 | 市営住宅 | 民間住宅 | 府営住宅（N=173） | 市営住宅（N=38） | 民間住宅（N=355） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 困りごとを相談しあえる程度 | 28 | 6 | 33 | 16.2% | 15.8% | 9.3% |
| 立ち話や世間話・情報交換をする程度 | 67 | 8 | 159 | 38.7% | 21.1% | 44.8% |
| 顔を合わせた時にあいさつをする程度 | 62 | 22 | 143 | 35.8% | 57.9% | 40.3% |
| 近所づきあいはしていない | 7 | 1 | 10 | 4.0% | 2.6% | 2.8% |
| 近所づきあいに関心はない | 1 | 0 | 3 | 0.6% | 0.0% | 0.8% |
| 無回答 | 8 | 1 | 7 | 4.6% | 2.6% | 2.0% |
| 計 | 173 | 38 | 355 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

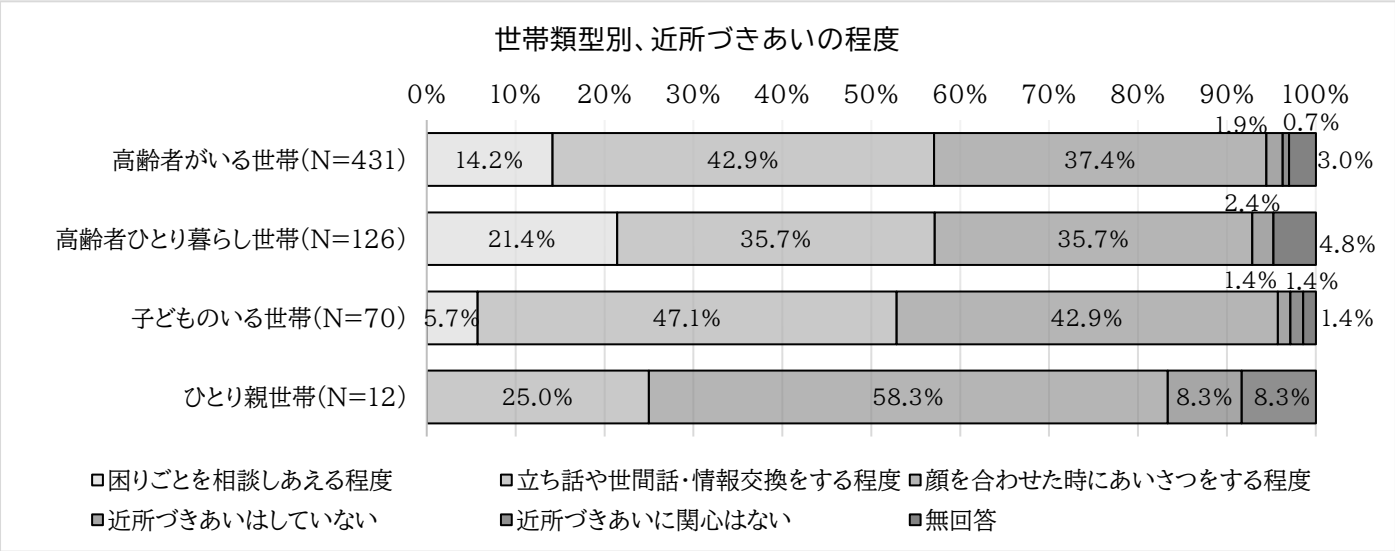



世帯類型別に近所づきあいの程度を見ると、「困りごとを相談しあえる程度」は「高齢者がいる世帯」が 14.2%、「高齢者一人暮らし世帯」が 21.4%であるのに対し、「子どものいる世帯」は 5.7%、「ひとり親世帯」は 0.0%となっている。

世帯類型別、近所づきあいの程度

| | 高齢者がいる世帯 | 高齢者一人暮らし世帯 | 子どものいる世帯 | ひとり親世帯 |
|---|---|---|---|---|
| 困りごとを相談しあえる程度 | 61 | 27 | 4 | 0 |
| 立ち話や世間話・情報交換をする程度 | 185 | 45 | 33 | 3 |
| 顔を合わせた時にあいさつをする程度 | 161 | 45 | 30 | 7 |
| 近所づきあいはしていない | 8 | 3 | 1 | 1 |
| 近所づきあいに関心はない | 3 | 0 | 1 | 1 |
| 無回答 | 13 | 6 | 1 | 0 |
| 計 | 431 | 126 | 70 | 12 |

| | 高齢者がいる世帯（N=431） | 高齢者一人暮らし世帯（N=126） | 子どものいる世帯（N=70） | ひとり親世帯(N=12) |
|---|---|---|---|---|
| 困りごとを相談しあえる程度 | 14.2% | 21.4% | 5.7% | 0.0% |
| 立ち話や世間話・情報交換をする程度 | 42.9% | 35.7% | 47.1% | 25.0% |
| 顔を合わせた時にあいさつをする程度 | 37.4% | 35.7% | 42.9% | 58.3% |
| 近所づきあいはしていない | 1.9% | 2.4% | 1.4% | 8.3% |
| 近所づきあいに関心はない | 0.7% | 0.0% | 1.4% | 8.3% |
| 無回答 | 3.0% | 4.8% | 1.4% | 0.0% |
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

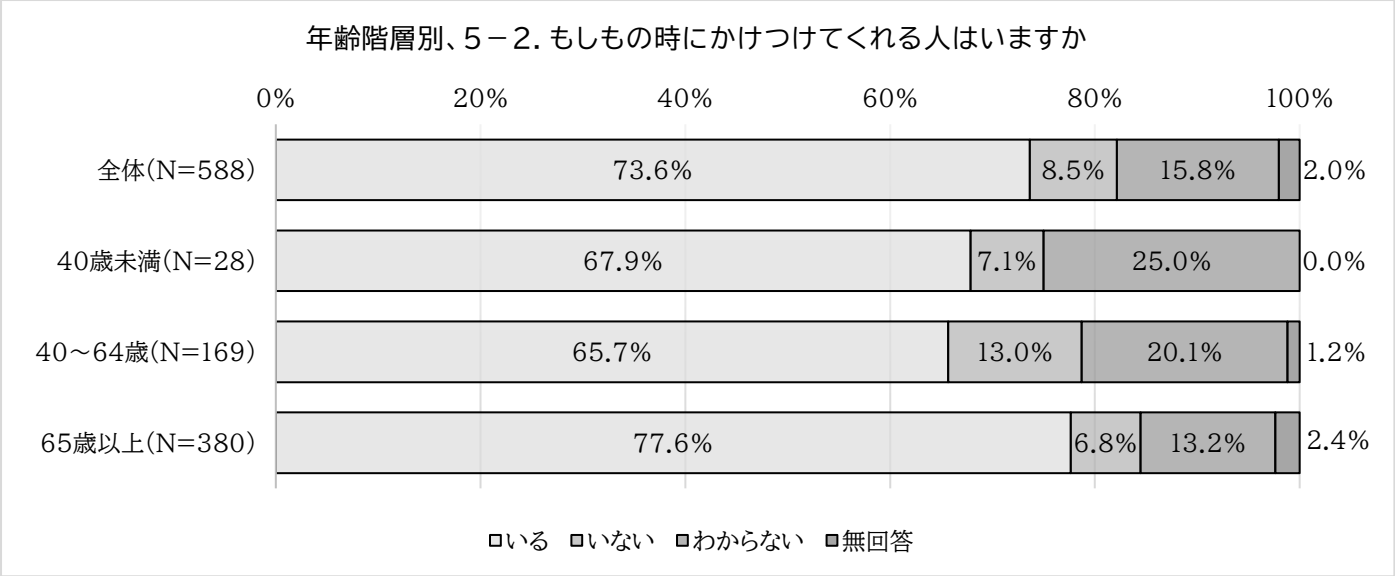



## 5－2. もしもの時にかけつけてくれる人はいますか？

全体では 73.6%がもしもの時にかけつけてくれる人は「いる」と回答しており、「40 歳未満」では 67.9%、「40～64 歳」では 65.7%、「65 歳以上」では 77.6%と、高齢になるほど、もしもの時にかけつけてくれる人は「いる」人の割合が高い傾向にある。

年齢階層別、もしもの時にかけつけてくれる人はいますか

| | 全体 | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 全体（N=588） | 40 歳未満（N=28） | 40～64 歳（N=169） | 65 歳以上（N=380） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| いる | 433 | 19 | 111 | 295 | 73.6% | 67.9% | 65.7% | 77.6% |
| いない | 50 | 2 | 22 | 26 | 8.5% | 7.1% | 13.0% | 6.8% |
| わからない | 93 | 7 | 34 | 50 | 15.8% | 25.0% | 20.1% | 13.2% |
| 無回答 | 12 | 0 | 2 | 9 | 2.0% | 0.0% | 1.2% | 2.4% |
| 計 | 588 | 28 | 169 | 380 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

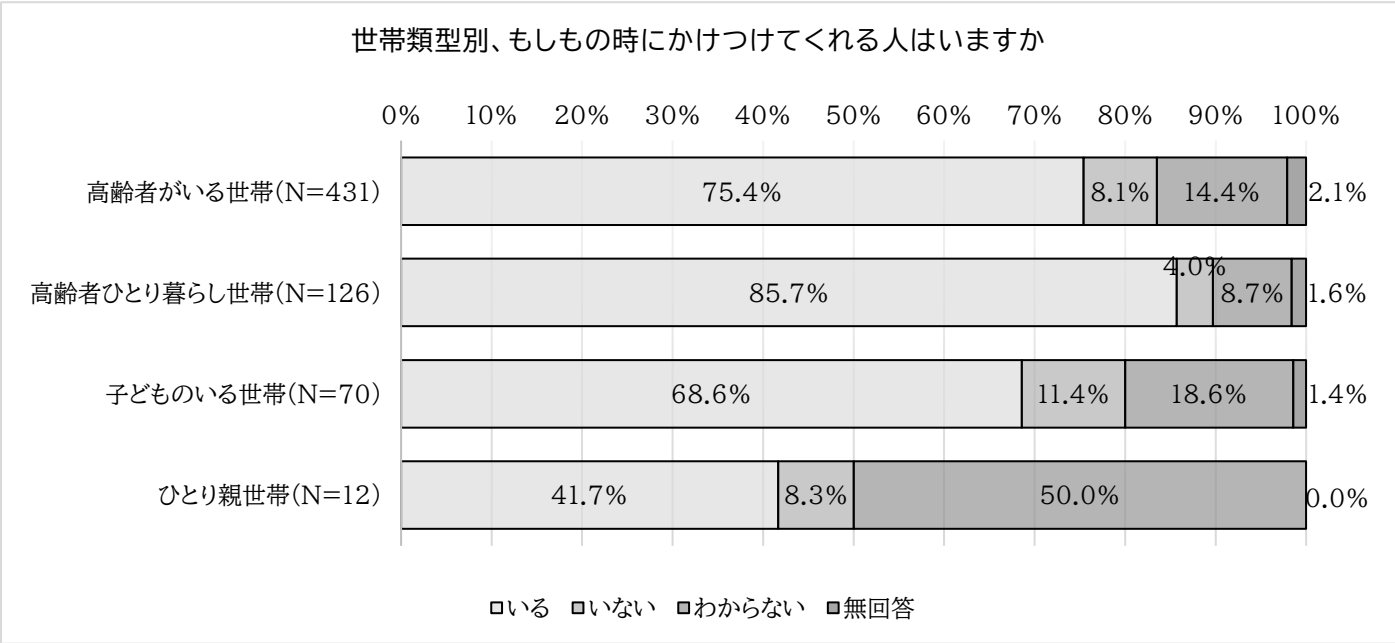



「もしもの時にかけつけてくれる人はいますか」を世帯類型別で見ると、「いる」は「高齢者がいる世帯」が 75.4%、「高齢者一人暮らし世帯」が 85.7%に対し、「子どものいる世帯」は 68.6%、「ひとり親世帯」は 41.7%となっている。

世帯類型別、もしもの時にかけつけてくれる人はいますか

| | 高齢者がいる世帯 | 高齢者ひとり暮らし世帯 | 子どものいる世帯 | ひとり親世帯 |
|---|---|---|---|---|
| いる | 325 | 108 | 48 | 5 |
| いない | 35 | 5 | 8 | 1 |
| わからない | 62 | 11 | 13 | 6 |
| 無回答 | 9 | 2 | 1 | 0 |
| 計 | 431 | 126 | 70 | 12 |

| | 高齢者がいる世帯（N=431） | 高齢者一人暮らし世帯（N=126） | 子どものいる世帯（N=70） | ひとり親世帯(N=12) |
|---|---|---|---|---|
| いる | 75.4% | 85.7% | 68.6% | 41.7% |
| いない | 8.1% | 4.0% | 11.4% | 8.3% |
| わからない | 14.4% | 8.7% | 18.6% | 50.0% |
| 無回答 | 2.1% | 1.6% | 1.4% | 0.0% |
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |



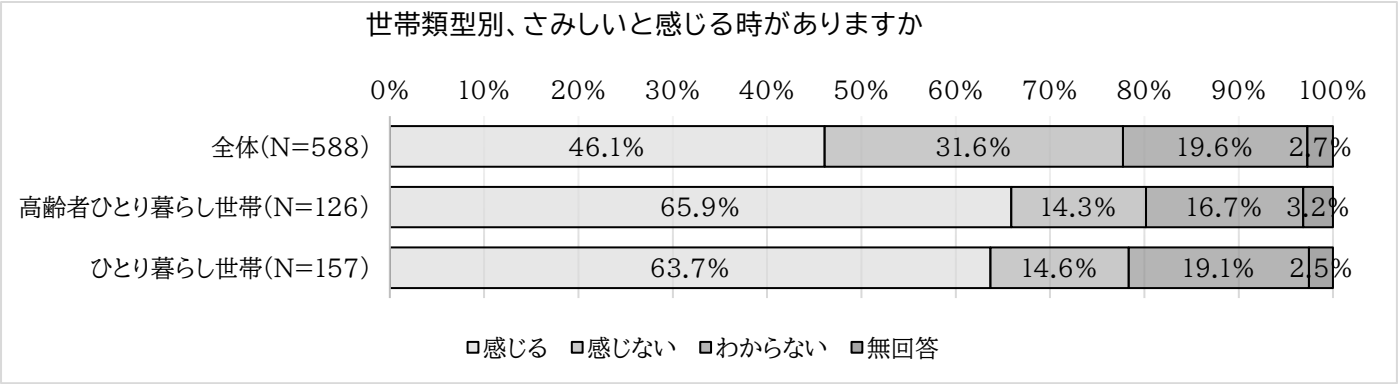
## 5－3. 普段、さみしいと感じる時がありますか

「さみしいと感じる時がありますか」を世帯類家別で見ると、全体では「感じる」が 17.9%であるのに対し、「高齢者ひとり暮らし世帯」は 38.9%、「ひとり暮らし世帯」は 38.2%になっている。

世帯類型別、さみしいと感じる時がありますか

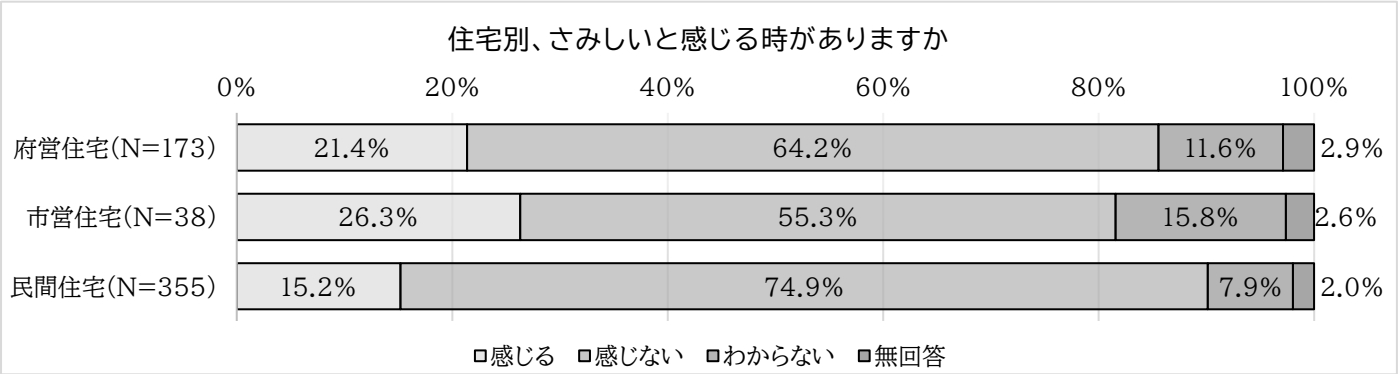
| | 全体 | 高齢者ひとり暮らし世帯 | ひとり暮らし世帯 |
|---|---|---|---|
| 感じる | 105 | 49 | 60 |
| 感じない | 411 | 62 | 78 |
| わからない | 58 | 10 | 14 |
| 無回答 | 14 | 5 | 5 |
| 計 | 588 | 126 | 157 |

| | 全体(N=588) | 高齢者ひとり暮らし世帯(N=126) | ひとり暮らし世帯(N=157) |
|---|---|---|---|
| 感じる | 17.9% | 38.9% | 38.2% |
| 感じない | 69.9% | 49.2% | 49.7% |
| わからない | 9.9% | 7.9% | 8.9% |
| 無回答 | 2.4% | 4.0% | 3.2% |
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |




住宅別でみると、さみしいと感じる時があると回答している人は、「府営住宅」が 21.4%、「市営住宅」が 26.3%と、「民間住宅」の 15.2%より多くなっている。

| | 府営住宅 | 市営住宅 | 民間住宅 | 府営住宅(N=173) | 市営住宅(N=38) | 民間住宅(N=355) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 感じる | 37 | 10 | 54 | 21.4% | 26.3% | 15.2% |
| 感じない | 111 | 21 | 266 | 64.2% | 55.3% | 74.9% |
| わからない | 20 | 6 | 28 | 11.6% | 15.8% | 7.9% |
| 無回答 | 5 | 1 | 7 | 2.9% | 2.6% | 2.0% |
| 計 | 173 | 38 | 355 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

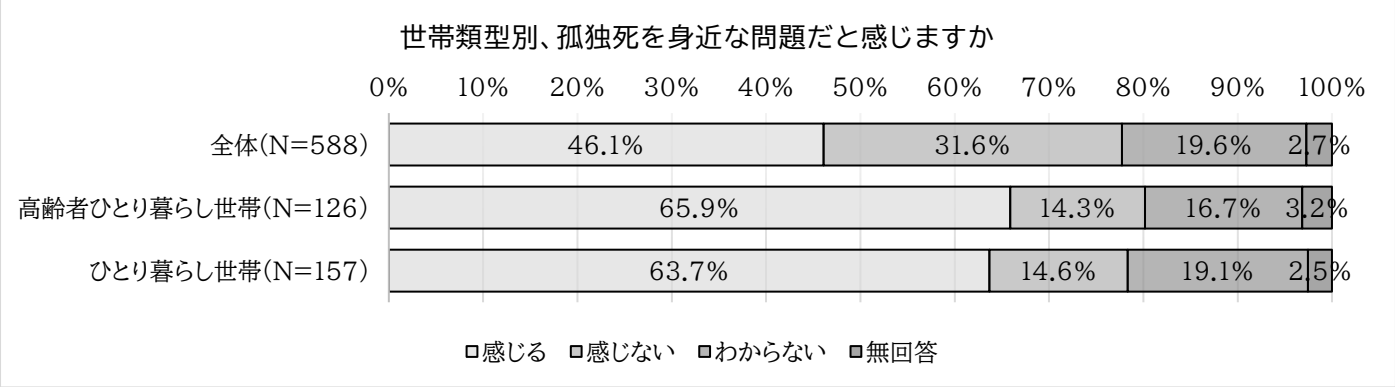


## 5－4. 孤独死を身近な問題だと感じますか？

「孤独死を身近な問題だと感じますか」について世帯類型別でみると、「全体」では 46.1%が「感じる」と回答しているのに対し、「高齢者ひとり暮らし世帯」では 65.9%、「ひとり暮らし世帯」では 63.7%が「感じる」と回答している。

| | 全体 | 高齢者ひとり暮らし世帯 | ひとり暮らし世帯 |
|---|---|---|---|
| 感じる | 271 | 83 | 100 |
| 感じない | 186 | 18 | 23 |
| わからない | 115 | 21 | 30 |
| 無回答 | 16 | 4 | 4 |
| 計 | 588 | 126 | 157 |

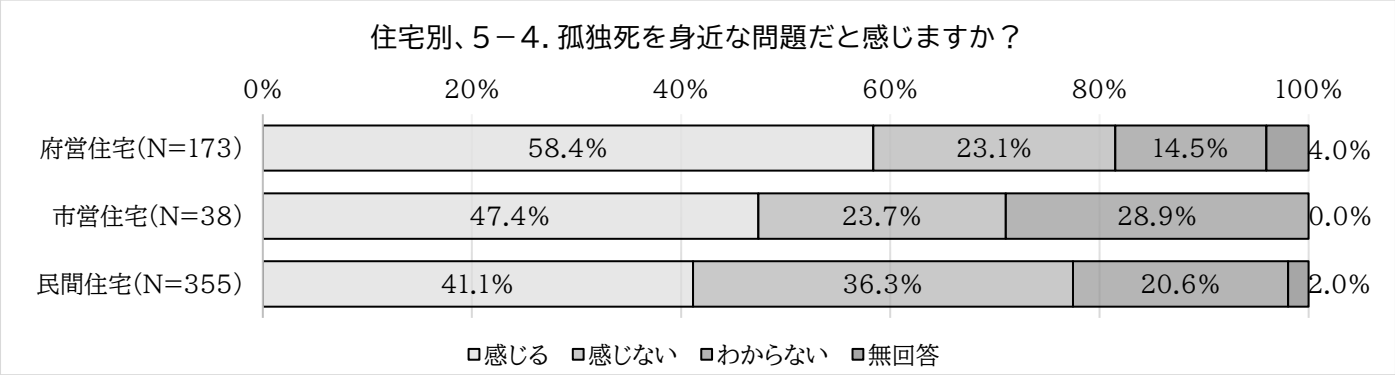
| | 全体(N=588) | 高齢者ひとり暮らし世帯(N=126) | ひとり暮らし世帯(N=157) |
|---|---|---|---|
| 感じる | 46.1% | 65.9% | 63.7% |
| 感じない | 31.6% | 14.3% | 14.6% |
| わからない | 19.6% | 16.7% | 19.1% |
| 無回答 | 2.7% | 3.2% | 2.5% |
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |




住宅別に、「孤独死を身近な問題だと感じますか」をみると、「感じる」と回答した人は「府営住宅」で 58.4%、「市営住宅」で 47.4%、「民間住宅」で 41.1%でした。

住宅別、孤独死を身近な問題だと感じますか

| | 府営住宅 | 市営住宅 | 民間住宅 | 府営住宅(N=173) | 市営住宅(N=38) | 民間住宅(N=355) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 感じる | 101 | 18 | 146 | 58.4% | 47.4% | 41.1% |
| 感じない | 40 | 9 | 129 | 23.1% | 23.7% | 36.3% |
| わからない | 25 | 11 | 73 | 14.5% | 28.9% | 20.6% |
| 無回答 | 7 | 0 | 7 | 4.0% | 0.0% | 2.0% |
| 計 | 173 | 38 | 355 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |



## 5－5. 現在、なやみや困りごとがありますか？（MA）

年齢階層別に、なやみや困りごとの多い順に並べると以下のようになる。

全体　「健康のこと」40.8%　＞　「老後の事」39.3%　＞　「介護のこと」21.8%

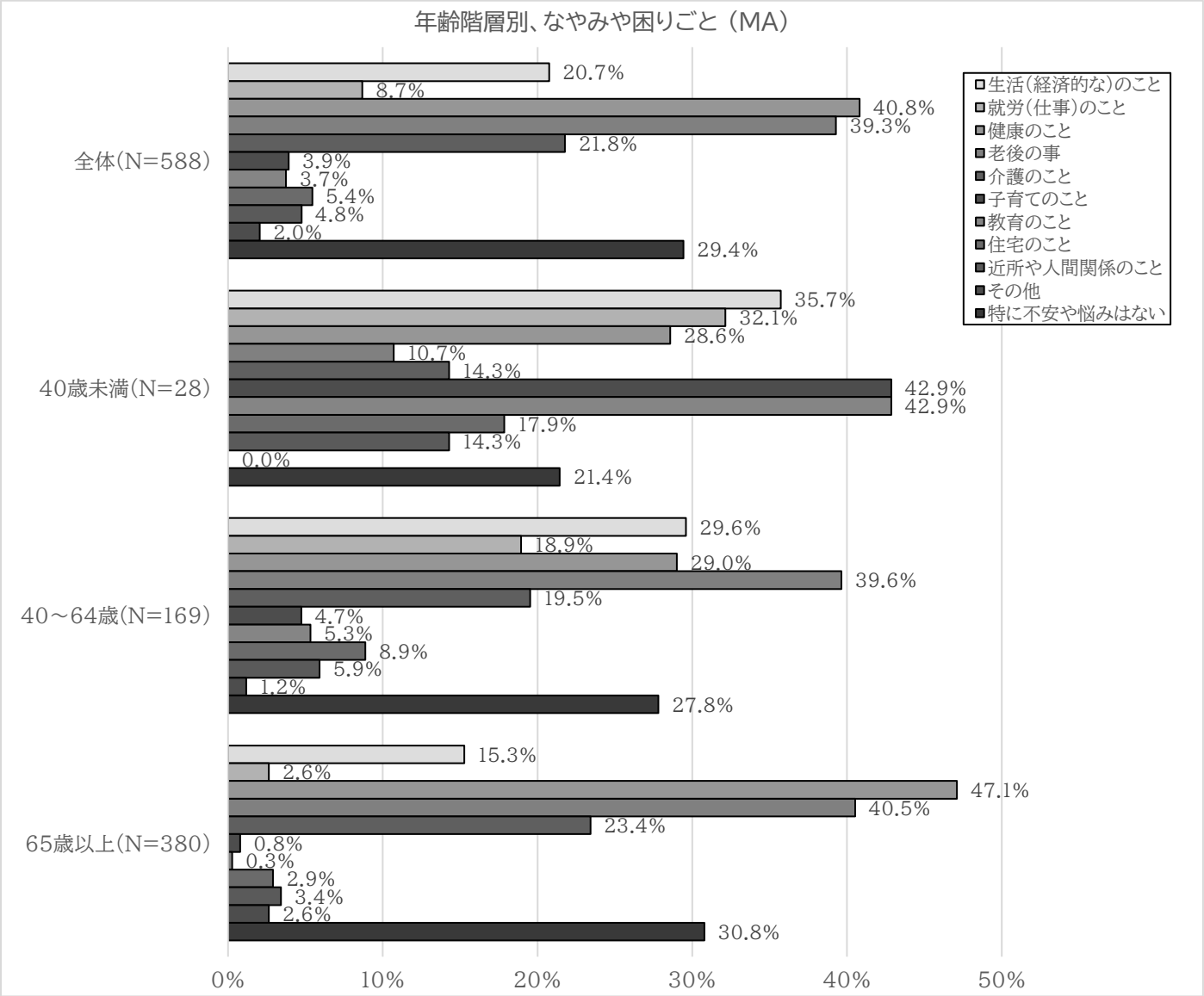
40 歳未満　「子育てのこと」42.9%　＞　「教育のこと」42.9%　＞　「生活（経済的な）のこと」35.7%

40～64 歳　「老後の事」39.6%　＞　「生活（経済的な）のこと」29.6%　＞　「健康のこと」29.0%

65 歳以上　「健康のこと」47.1%　＞　「老後の事」40.5%　＞　「介護のこと」23.4%

年齢階層別、なやみや困りごと（MA）

| | 全体 | 40 歳未満 | 40～64 歳 | 65 歳以上 | 全体（N=588） | 40 歳未満（N=28） | 40～64 歳（N=169） | 65 歳以上（N=380） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生活（経済的な）のこと | | 10 | 50 | 58 | 20.7% | 35.7% | 29.6% | 15.3% |
| 就労（仕事）のこと | 122 | 9 | 32 | 10 | 8.7% | 32.1% | 18.9% | 2.6% |
| 健康のこと | 51 | 8 | 49 | 179 | 40.8% | 28.6% | 29.0% | 47.1% |
| 老後の事 | 240 | 3 | 67 | 154 | 39.3% | 10.7% | 39.6% | 40.5% |
| 介護のこと | 231 | 4 | 33 | 89 | 21.8% | 14.3% | 19.5% | 23.4% |
| 子育てのこと | 128 | 12 | 8 | 3 | 3.9% | 42.9% | 4.7% | 0.8% |
| 教育のこと | 23 | 12 | 9 | 1 | 3.7% | 42.9% | 5.3% | 0.3% |
| 住宅のこと | 22 | 5 | 15 | 11 | 5.4% | 17.9% | 8.9% | 2.9% |
| 近所や人間関係のこと | 32 | 4 | 10 | 13 | 4.8% | 14.3% | 5.9% | 3.4% |
| その他 | 28 | 0 | 2 | 10 | 2.0% | 0.0% | 1.2% | 2.6% |
| 特に不安や悩みはない | 12 | 6 | 47 | 117 | 29.4% | 21.4% | 27.8% | 30.8% |



世帯類型別になやみや困りごとの多い順に並べると、以下のようになる。

高齢者がいる世帯　「健康のこと」44.5%　＞「老後の事」40.8%　＞「介護のこと」25.3%

高齢者ひとり暮らし世帯　「健康のこと」51.6%　＞「老後の事」43.7%　＞「介護のこと」27.8%

ひとり暮らし世帯　「健康のこと」49.7%　＞「老後の事」41.4%　＞「介護のこと」22.9%

子どものいる世帯　「教育のこと」27.1%　＞「子育てのこと」「老後の事」25.7%

ひとり親世帯　「生活（経済的な）のこと」「子育てのこと」　＞　58.3%　＞「教育のこと」50.0%

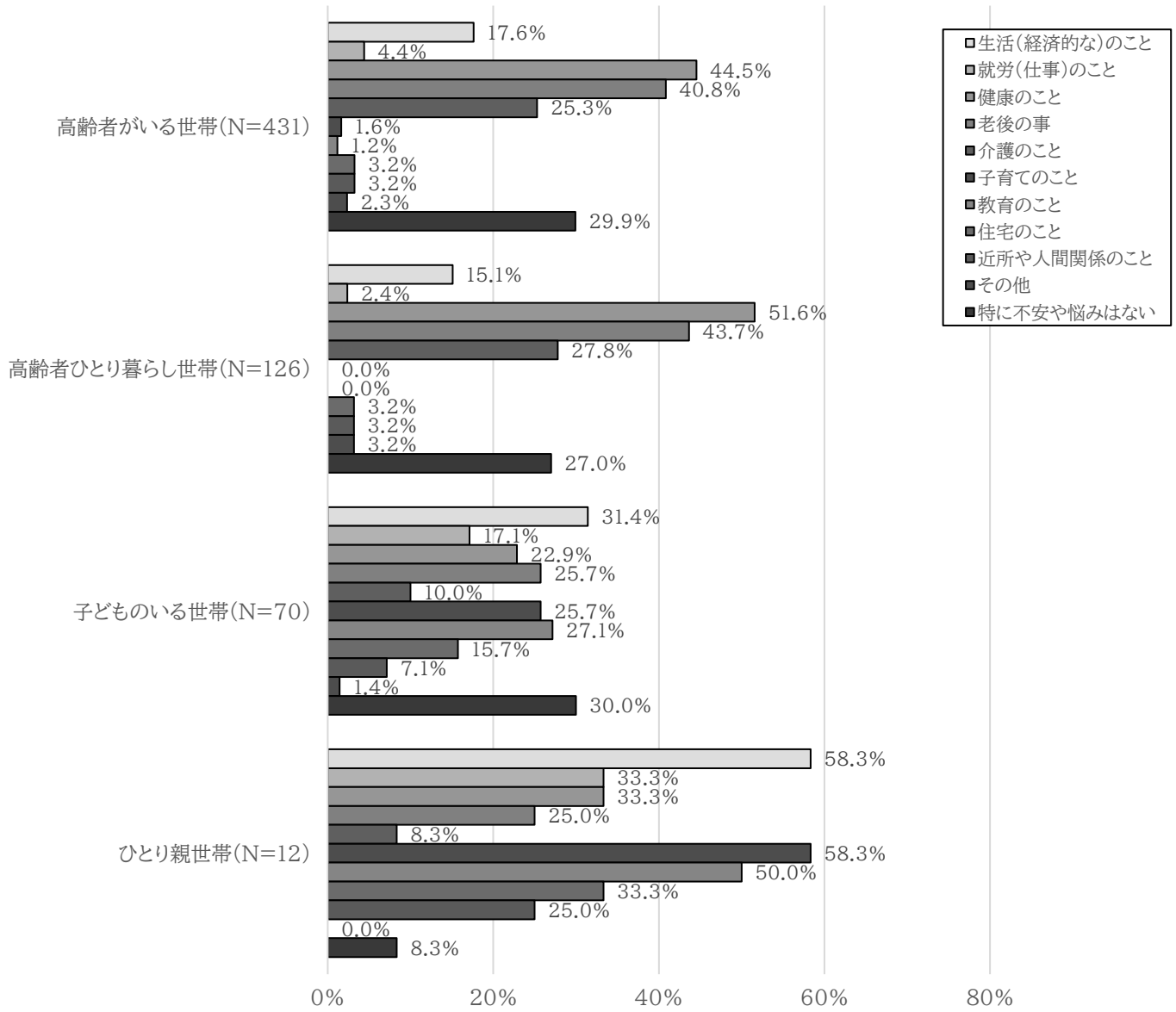
「特に不安や悩みはない」は 26.8%～29.9%であるのに対し、「ひとり親世帯」では 8.3%と他の世帯より目立って少なくなっている。

世帯類型別、なやみや困りごと（MA）

| | 高齢者がいる世帯 | 高齢者ひとり暮らし世帯 | ひとり暮らし世帯 | 子どものいる世帯 | ひとり親世帯 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活（経済的な）のこと | 76 | 19 | 86 | 22 | 7 |
| 就労（仕事）のこと | 19 | 3 | 52 | 12 | 4 |
| 健康のこと | 192 | 65 | 15 | 16 | 4 |
| 老後の事 | 176 | 55 | 13 | 18 | 3 |
| 介護のこと | 109 | 35 | 2 | 7 | 1 |
| 子育てのこと | 7 | 0 | 0 | 18 | 7 |
| 教育のこと | 5 | 0 | 18 | 19 | 6 |
| 住宅のこと | 14 | 4 | 5 | 11 | 4 |
| 近所や人間関係のこと | 14 | 4 | 17 | 5 | 3 |
| その他 | 10 | 4 | 27 | 1 | 0 |
| 特に不安や悩みはない | 129 | 34 | 9 | 21 | 1 |

| | 高齢者がいる世帯（N=431） | 高齢者ひとり暮らし世帯（N=126） | ひとり暮らし世帯（N=157） | 子どものいる世帯（N=70） | ひとり親世帯（N=12） |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活（経済的な）のこと | 17.6% | 15.1% | 18.5% | 31.4% | 58.3% |
| 就労（仕事）のこと | 4.4% | 2.4% | 7.0% | 17.1% | 33.3% |
| 健康のこと | 44.5% | 51.6% | 49.7% | 22.9% | 33.3% |
| 老後の事 | 40.8% | 43.7% | 41.4% | 25.7% | 25.0% |
| 介護のこと | 25.3% | 27.8% | 22.9% | 10.0% | 8.3% |
| 子育てのこと | 1.6% | 0.0% | 0.0% | 25.7% | 58.3% |
| 教育のこと | 1.2% | 0.0% | 0.0% | 27.1% | 50.0% |
| 住宅のこと | 3.2% | 3.2% | 3.8% | 15.7% | 33.3% |
| 近所や人間関係のこと | 3.2% | 3.2% | 4.5% | 7.1% | 25.0% |
| その他 | 2.3% | 3.2% | 3.2% | 1.4% | 0.0% |
| 特に不安や悩みはない | 29.9% | 27.0% | 26.8% | 30.0% | 8.3% |

## 5－5. 現在、なやみや困りごとがありますか



## 5－6. 悩みや困ったことがあった場合誰に相談しますか？（MA）

困ったときの相談相手は地区全体で「夫または妻、家族、親戚」の 76.5%、「友人・知人」の 33.2%が多く、全地区で同様の結果となっている。

地区別に、「夫または妻、家族、親戚」「友人・知人」以外の困ったときの相談相手を多い順にならべると、以下のようになる。

校区全体　「利用している施設や病院・診療所」14.8%　＞「市役所」10.0%　＞「専門の相談機関」9.4%

清水町　「利用している施設や病院・診療所」18.6%　＞「専門の相談機関」12.1%　＞　「市役所」10.6%

緑ヶ丘町　「利用している施設や病院・診療所」18.8%　＞「民生委員・児童委員」12.5%　＞「専門の相談機関」6.3%

若松町　「利用している施設や病院・診療所」12.0%　＞「市役所」11.0%　＞「近所の人」「専門の相談機関」8.4%

若松町東　「市役所」「利用している施設や病院・診療所」14.3%

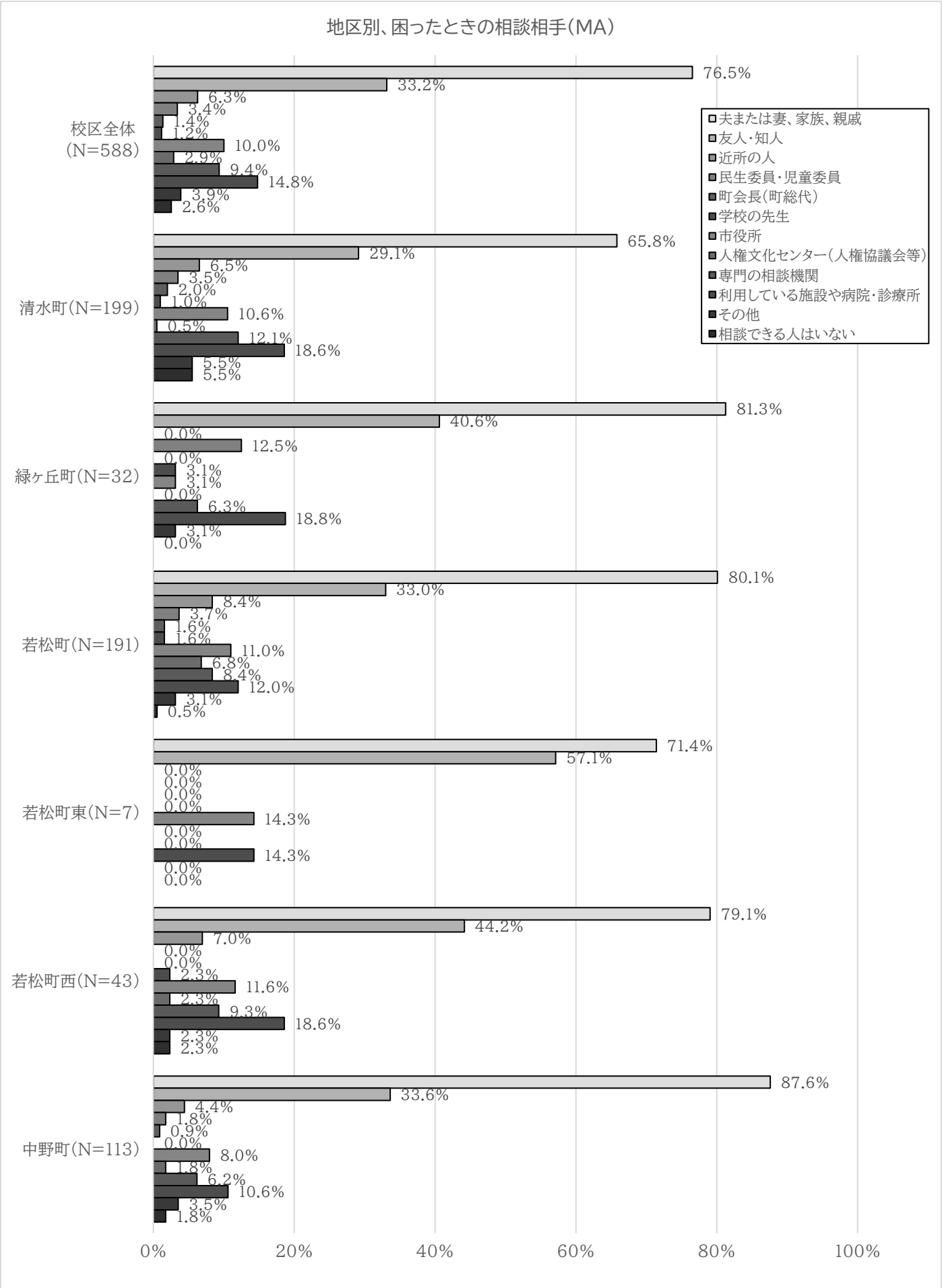
若松町西　「利用している施設や病院・診療所」18.6%　＞「市役所」11.6%　＞「専門の相談機関」9.3%

中野町　「利用している施設や病院・診療所」10.6%　＞「市役所」8.0%　＞「専門の相談機関」6.2%

地区別、困ったときの相談相手（MA）

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 夫または妻、家族、親戚 | 450 | 131 | 26 | 153 | 5 | 34 | 99 |
| 友人・知人 | 195 | 58 | 13 | 63 | 4 | 19 | 38 |
| 近所の人 | 37 | 13 | 0 | 16 | 0 | 3 | 5 |
| 民生委員・児童委員 | 20 | 7 | 4 | 7 | 0 | 0 | 2 |
| 町会長（町総代） | 8 | 4 | 0 | 3 | 0 | 0 | 1 |
| 学校の先生 | 7 | 2 | 1 | 3 | 0 | 1 | 0 |
| 市役所 | 59 | 21 | 1 | 21 | 1 | 5 | 9 |
| 人権文化センター（人権協議会等） | 17 | 1 | 0 | 13 | 0 | 1 | 2 |
| 専門の相談機関 | 55 | 24 | 2 | 16 | 0 | 4 | 7 |
| 利用している施設や病院・診療所 | 87 | 37 | 6 | 23 | 1 | 8 | 12 |
| その他 | 23 | 11 | 1 | 6 | 0 | 1 | 4 |
| 相談できる人はいない | 15 | 11 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 |

| | 校区全体（N=588） | 清水町（N=199） | 緑ヶ丘町（N=32） | 若松町（N=191） | 若松町東（N=7） | 若松町西（N=43） | 中野町（N=113） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 夫または妻、家族、親戚 | 76.5% | 65.8% | 81.3% | 80.1% | 71.4% | 79.1% | 87.6% |
| 友人・知人 | 33.2% | 29.1% | 40.6% | 33.0% | 57.1% | 44.2% | 33.6% |
| 近所の人 | 6.3% | 6.5% | 0.0% | 8.4% | 0.0% | 7.0% | 4.4% |
| 民生委員・児童委員 | 3.4% | 3.5% | 12.5% | 3.7% | 0.0% | 0.0% | 1.8% |
| 町会長（町総代） | 1.4% | 2.0% | 0.0% | 1.6% | 0.0% | 0.0% | 0.9% |
| 学校の先生 | 1.2% | 1.0% | 3.1% | 1.6% | 0.0% | 2.3% | 0.0% |
| 市役所 | 10.0% | 10.6% | 3.1% | 11.0% | 14.3% | 11.6% | 8.0% |
| 人権文化センター（人権協議会等） | 2.9% | 0.5% | 0.0% | 6.8% | 0.0% | 2.3% | 1.8% |
| 専門の相談機関 | 9.4% | 12.1% | 6.3% | 8.4% | 0.0% | 9.3% | 6.2% |
| 利用している施設や病院・診療所 | 14.8% | 18.6% | 18.8% | 12.0% | 14.3% | 18.6% | 10.6% |
| その他 | 3.9% | 5.5% | 3.1% | 3.1% | 0.0% | 2.3% | 3.5% |
| 相談できる人はいない | 2.6% | 5.5% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 2.3% | 1.8% |


地区別、困ったときの相談相手（MA）
校区全体（N=588）
76.5%
33.2%
6.3%
3.4%
1.4%
1.2%
10.0%
2.9%
9.4%
14.8%
3.9%
2.6%
清水町（N=199）
65.8%
29.1%
6.5%
3.5%
2.0%
1.0%
10.6%
0.5%
12.1%
18.6%
5.5%
5.5%
緑ヶ丘町（N=32）
81.3%
40.6%
0.0%
12.5%
0.0%
3.1%
3.1%
0.0%
6.3%
18.8%
3.1%
0.0%
若松町（N=191）
80.1%
33.0%
8.4%
3.7%
1.6%
1.6%
11.0%
6.8%
8.4%
12.0%
3.1%
0.5%
若松町東（N=7）
71.4%
57.1%
0.0%
0.0%
0.0%
0.0%
14.3%
0.0%
0.0%
14.3%
0.0%
0.0%
若松町西（N=43）
79.1%
44.2%
7.0%
0.0%
0.0%
2.3%
11.6%
2.3%
9.3%
18.6%
2.3%
2.3%
中野町（N=113）
87.6%
33.6%
4.4%
1.8%
0.9%
0.0%
8.0%
1.8%
6.2%
10.6%
3.5%
1.8%
夫または妻、家族、親戚
友人・知人
近所の人
民生委員・児童委員
町会長（町総代）
学校の先生
市役所
人権文化センター（人権協議会等）
専門の相談機関
利用している施設や病院・診療所
その他
相談できる人はいない
0%
20%
40%
60%
80%
100%

## 6. 子どもの未来について

### 6－1. こども食堂「ほっとスペースとんだばやし」を知っていますか

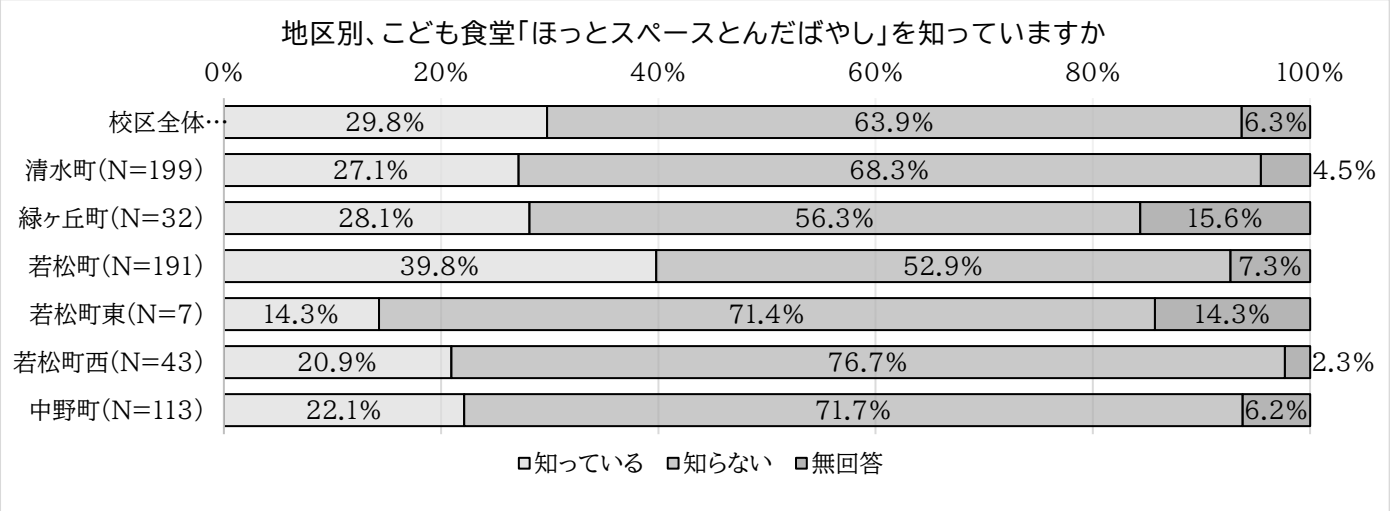
こども食堂「ほっとスペースとんだばやし」の認知度は校区全体では 29.8%となっている。

地区別では「若松町」の認知度が最も高く 39.8%、次いで「緑ヶ丘町」28.1%、「清水町」27.1%の順になっている。

地区別、こども食堂「ほっとスペースとんだばやし」を知っていますか

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 知っている | 175 | 54 | 9 | 76 | 1 | 9 | 25 |
| 知らない | 376 | 136 | 18 | 101 | 5 | 33 | 81 |
| 無回答 | 37 | 9 | 5 | 14 | 1 | 1 | 7 |
| 計 | 588 | 199 | 32 | 191 | 7 | 43 | 113 |

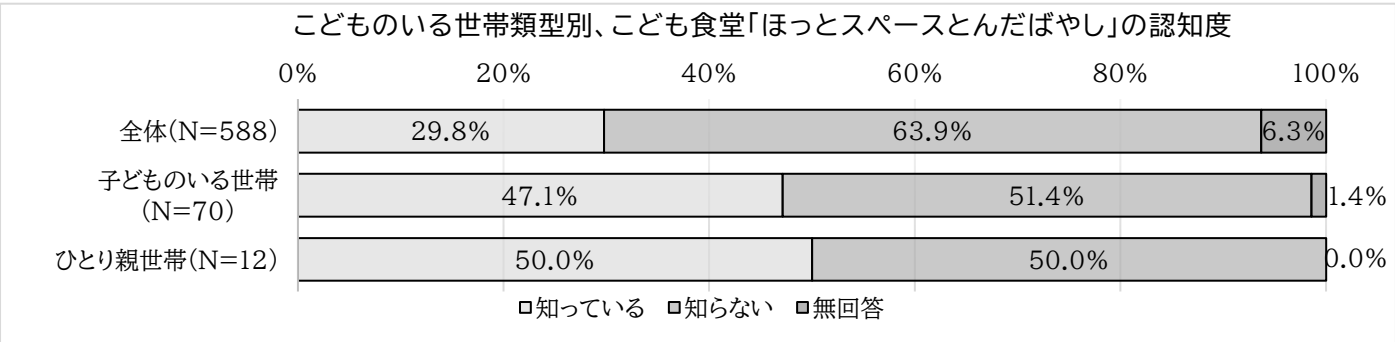
| | 校区全体（N=588） | 清水町（N=199） | 緑ヶ丘町（N=32） | 若松町（N=191） | 若松町東（N=7） | 若松町西（N=43） | 中野町（N=113） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 知っている | 29.8% | 27.1% | 28.1% | 39.8% | 14.3% | 20.9% | 22.1% |
| 知らない | 63.9% | 68.3% | 56.3% | 52.9% | 71.4% | 76.7% | 71.7% |
| 無回答 | 6.3% | 4.5% | 15.6% | 7.3% | 14.3% | 2.3% | 6.2% |
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |




「子どものいる世帯」のこども食堂「ほっとスペースとんだばやし」の認知度は 47.1%、「ひとり親世帯」では 50.0%と、他の世帯より認知度が高い。

こどものいる世帯類型別、こども食堂「ほっとスペースとんだばやし」の認知度

| | 子どものいる世帯 | ひとり親世帯 | 子どものいる世帯（N=70） | ひとり親世帯（N=12） |
|---|---|---|---|---|
| 知っている | 33 | 6 | 47.1% | 50.0% |
| 知らない | 36 | 6 | 51.4% | 50.0% |
| 無回答 | 1 | 0 | 1.4% | 0.0% |
| 計 | 70 | 12 | 100.0% | 100.0% |

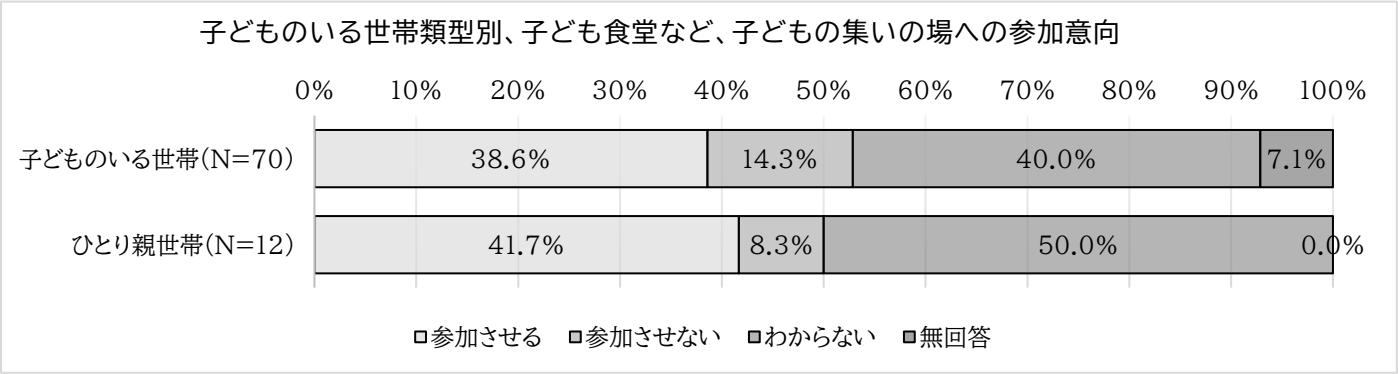


## 6－2. 子ども食堂など、新堂小学校区内に子どもの集いの場への参加意向

子ども食堂など、子どもの集いの場に参加意向のある「子どものいる世帯」は 38.6%、「ひとり親世帯」は 41.7%となっている。

子どものいる世帯類型別、子ども食堂など、子どもの集いの場への参加意向

| | 子どものいる世帯 | ひとり親世帯 | 子どものいる世帯(N=70) | ひとり親世帯(N=12) |
|---|---|---|---|---|
| 参加させる | 27 | 5 | 38.6% | 41.7% |
| 参加させない | 10 | 1 | 14.3% | 8.3% |
| わからない | 28 | 6 | 40.0% | 50.0% |
| 無回答 | 5 | 0 | 7.1% | 0.0% |
| 計 | 70 | 12 | 100.0% | 100.0% |

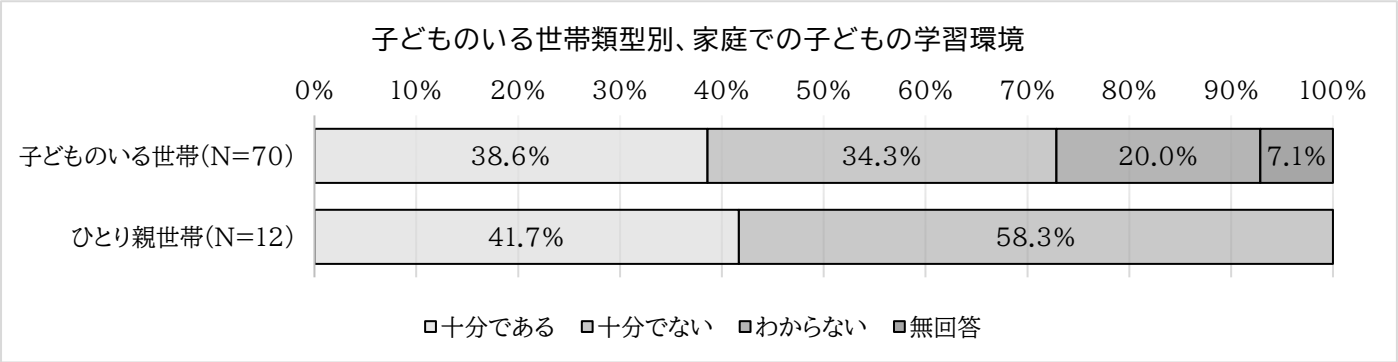



## 6－3. 家庭での子どもの学習環境

家庭での子どもの学習環境は「十分である」と回答した「子どものいる世帯」は 38.6%、「ひとり親世帯」は 41.7%となっている。

子どものいる世帯類型別、家庭での子どもの学習環境

| | 子どものいる世帯 | ひとり親世帯 | 子どものいる世帯(N=70) | ひとり親世帯(N=12) |
|---|---|---|---|---|
| 十分である | 27 | 5 | 38.6% | 41.7% |
| 十分でない | 24 | 7 | 34.3% | 58.3% |
| わからない | 14 | 0 | 20.0% | 0.0% |
| 無回答 | 5 | 0 | 7.1% | 0.0% |
| 計 | 70 | 12 | 100.0% | 100.0% |



## 6－4. 子どもの集いの場として必要だと思うもの（MA）

子どものいる世帯類型別に、子どもの集いの場として必要だと思うものを多い順に並べると、以下のようになる。

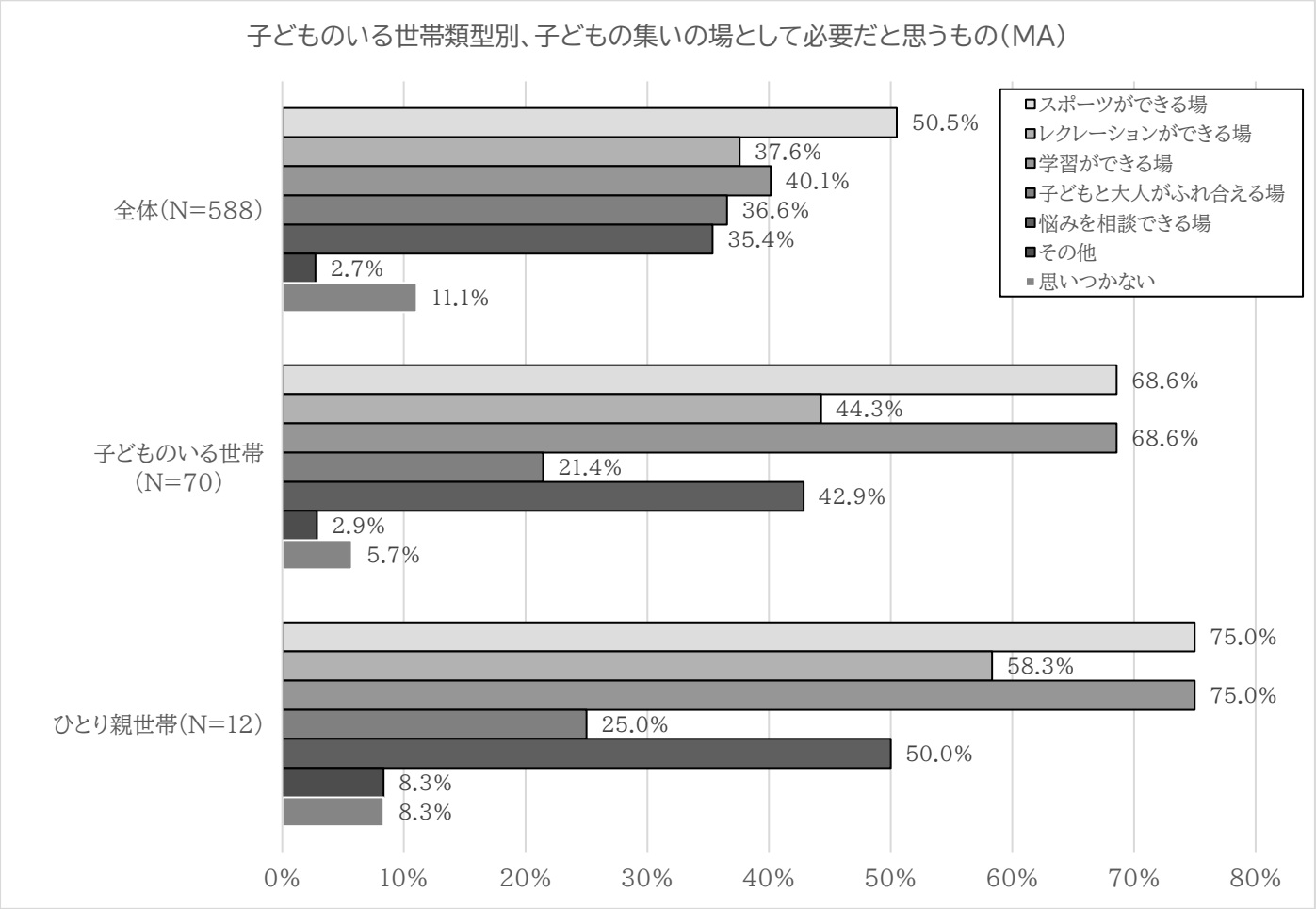
全体　「スポーツができる場」50.5%　＞「学習ができる場」40.1%
＞「レクレーションができる場」37.6%

子どものいる世帯　「スポーツができる場」「学習ができる場」68.6%　＞「レクレーションができる場」44.3%

ひとり親世帯　「スポーツができる場」「学習ができる場」75.0%　＞「レクレーションができる場」58.3%

子どものいる世帯類型別、子どもの集いの場として必要だと思うもの（MA）

| | 全体 | 子どものいる世帯 | ひとり親世帯 | 全体（N=588） | 子どものいる世帯（N=70） | ひとり親世帯（N=12） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| スポーツができる場 | 297 | 48 | 9 | 50.5% | 68.6% | 75.0% |
| レクレーションができる場 | 221 | 31 | 7 | 37.6% | 44.3% | 58.3% |
| 学習ができる場 | 236 | 48 | 9 | 40.1% | 68.6% | 75.0% |
| 子どもと大人がふれ合える場 | 215 | 15 | 3 | 36.6% | 21.4% | 25.0% |
| 悩みを相談できる場 | 208 | 30 | 6 | 35.4% | 42.9% | 50.0% |
| その他 | 16 | 2 | 1 | 2.7% | 2.9% | 8.3% |
| 思いつかない | 65 | 4 | 1 | 11.1% | 5.7% | 8.3% |



## 6－5. 新堂小学校区で、子どもに残していきたいもの（MA）

新堂小学校区で、子どもに残していきたいものを多い順に並べると。以下のようになる。

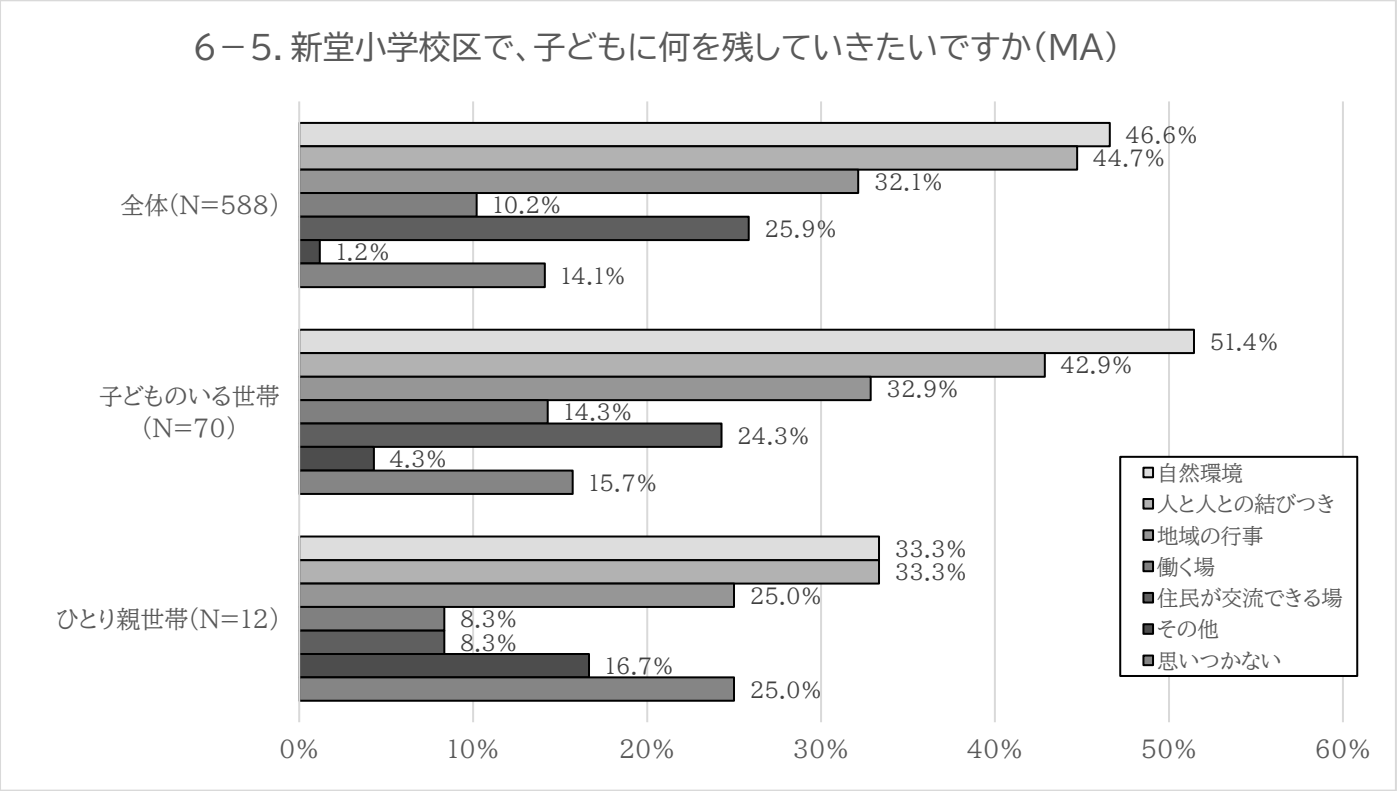
全体　「自然環境」46.6%　＞　「人と人との結びつき」44.7%　＞　「地域の行事」32.1%

子どものいる世帯　「自然環境」51.4%　＞　「人と人との結びつき」42.9%　＞　「地域の行事」32.9%

ひとり親世帯　「自然環境」「人と人との結びつき」33.3%　＞　「地域の行事」25.0%

子どものいる世帯類型別、新堂小学校区で、子どもに残していきたいもの

| | 全体 | 子どものいる世帯 | ひとり親世帯 | 全体（N=588） | 子どものいる世帯(N=70) | ひとり親世帯（N=12） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 自然環境 | 274 | 36 | 4 | 46.6% | 51.4% | 33.3% |
| 人と人との結びつき | 263 | 30 | 4 | 44.7% | 42.9% | 33.3% |
| 地域の行事 | 189 | 23 | 3 | 32.1% | 32.9% | 25.0% |
| 働く場 | 60 | 10 | 1 | 10.2% | 14.3% | 8.3% |
| 住民が交流できる場 | 152 | 17 | 1 | 25.9% | 24.3% | 8.3% |
| その他 | 7 | 3 | 2 | 1.2% | 4.3% | 16.7% |
| 思いつかない | 83 | 11 | 3 | 14.1% | 15.7% | 25.0% |



## 7. これからの新堂小学校区について

### 7－1. 新堂小学校区のいいところ・好きなところ（MA）

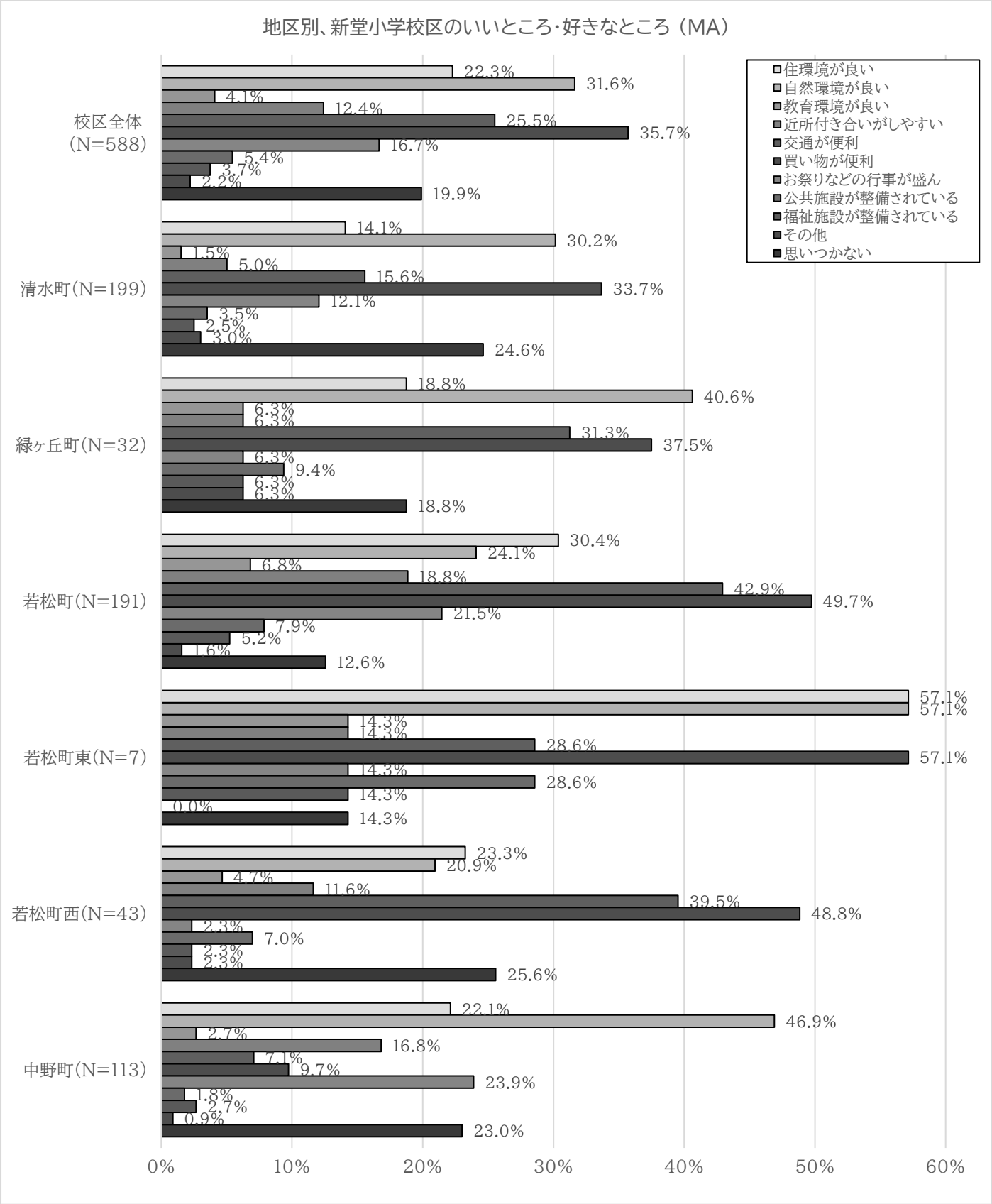
新堂小学校区のいいところ・好きなところを多い順に並べると、以下のようになる。

校区全体　「買い物が便利」35.7%　＞「自然環境が良い」31.6%　＞「交通が便利」25.5%
清水町　「買い物が便利」33.7%　＞「自然環境が良い」30.2%　＞「交通が便利」15.6%
緑ヶ丘町　「自然環境が良い」40.6%　＞「買い物が便利」37.5%　＞「交通が便利」31.3%
若松町　「買い物が便利」49.7%　＞「交通が便利」42.9%　＞「住環境が良い」30.4%
若松町東　「買い物が便利」「住環境が良い」「自然環境が良い」57.1%
若松町西　「買い物が便利」48.8%　＞「交通が便利」39.5%　＞「住環境が良い」23.3%
中野町　「自然環境が良い」46.9%　＞「お祭りなどの行事が盛ん」23.9%　＞「住環境が良い」22.1%

地区別、新堂小学校区のいいところ・好きなところ（MA）

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 住環境が良い | 131 | 28 | 6 | 58 | 4 | 10 | 25 |
| 自然環境が良い | 186 | 60 | 13 | 46 | 4 | 9 | 53 |
| 教育環境が良い | 24 | 3 | 2 | 13 | 1 | 2 | 3 |
| 近所付き合いがしやすい | 73 | 10 | 2 | 36 | 1 | 5 | 19 |
| 交通が便利 | 150 | 31 | 10 | 82 | 2 | 17 | 8 |
| 買い物が便利 | 210 | 67 | 12 | 95 | 4 | 21 | 11 |
| お祭りなどの行事が盛ん | 98 | 24 | 2 | 41 | 1 | 1 | 27 |
| 公共施設が整備されている | 32 | 7 | 3 | 15 | 2 | 3 | 2 |
| 福祉施設が整備されている | 22 | 5 | 2 | 10 | 1 | 1 | 3 |
| その他 | 13 | 6 | 2 | 3 | 0 | 1 | 1 |
| 思いつかない | 117 | 49 | 6 | 24 | 1 | 11 | 26 |

| | 校区全体（N=588） | 清水町（N=199） | 緑ヶ丘町（N=32） | 若松町（N=191） | 若松町東（N=7） | 若松町西（N=43） | 中野町（N=113） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 住環境が良い | 22.3% | 14.1% | 18.8% | 30.4% | 57.1% | 23.3% | 22.1% |
| 自然環境が良い | 31.6% | 30.2% | 40.6% | 24.1% | 57.1% | 20.9% | 46.9% |
| 教育環境が良い | 4.1% | 1.5% | 6.3% | 6.8% | 14.3% | 4.7% | 2.7% |
| 近所付き合いがしやすい | 12.4% | 5.0% | 6.3% | 18.8% | 14.3% | 11.6% | 16.8% |
| 交通が便利 | 25.5% | 15.6% | 31.3% | 42.9% | 28.6% | 39.5% | 7.1% |
| 買い物が便利 | 35.7% | 33.7% | 37.5% | 49.7% | 57.1% | 48.8% | 9.7% |
| お祭りなどの行事が盛ん | 16.7% | 12.1% | 6.3% | 21.5% | 14.3% | 2.3% | 23.9% |
| 公共施設が整備されている | 5.4% | 3.5% | 9.4% | 7.9% | 28.6% | 7.0% | 1.8% |
| 福祉施設が整備されている | 3.7% | 2.5% | 6.3% | 5.2% | 14.3% | 2.3% | 2.7% |
| その他 | 2.2% | 3.0% | 6.3% | 1.6% | 0.0% | 2.3% | 0.9% |
| 思いつかない | 19.9% | 24.6% | 18.8% | 12.6% | 14.3% | 25.6% | 23.0% |


地区別、新堂小学校区のいいところ・好きなところ（MA）
住環境が良い
自然環境が良い
教育環境が良い
近所付き合いがしやすい
交通が便利
買い物が便利
お祭りなどの行事が盛ん
公共施設が整備されている
福祉施設が整備されている
その他
思いつかない
校区全体（N=588）
22.3%
31.6%
4.1%
12.4%
25.5%
35.7%
16.7%
5.4%
3.7%
2.2%
19.9%
清水町（N=199）
14.1%
30.2%
1.5%
5.0%
15.6%
33.7%
12.1%
3.5%
2.5%
3.0%
24.6%
緑ヶ丘町（N=32）
18.8%
40.6%
6.3%
6.3%
31.3%
37.5%
6.3%
9.4%
6.3%
6.3%
18.8%
若松町（N=191）
30.4%
24.1%
6.8%
18.8%
42.9%
49.7%
21.5%
7.9%
5.2%
1.6%
12.6%
若松町東（N=7）
57.1%
57.1%
14.3%
14.3%
28.6%
57.1%
14.3%
28.6%
14.3%
0.0%
14.3%
若松町西（N=43）
23.3%
20.9%
4.7%
11.6%
39.5%
48.8%
2.3%
7.0%
2.3%
2.3%
25.6%
中野町（N=113）
22.1%
46.9%
2.7%
16.8%
7.1%
9.7%
23.9%
1.8%
2.7%
0.9%
23.0%
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%

## 7－2. これからも新堂小学校区に住み続けたいですか

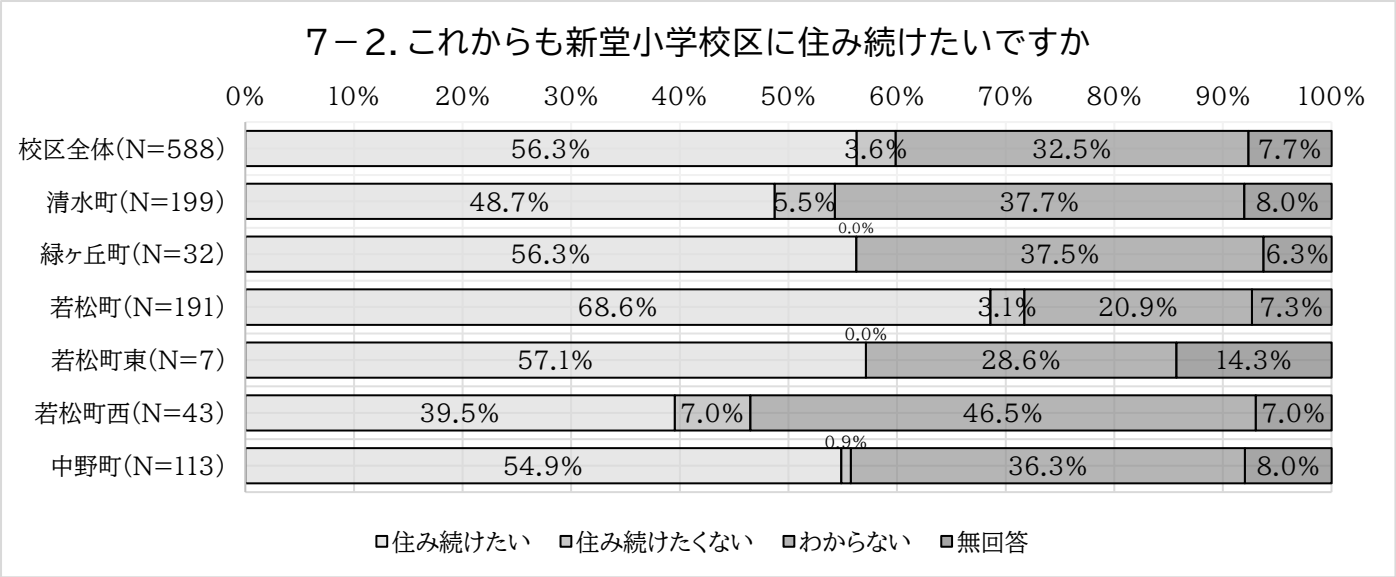
今後も「住み続けたい」と回答した人は、「校区全体」では 56.3%となっている。

今後も「住み続けたい」と回答した人を地区別にみると、「若松町」68.6%、「若松町東」57.1%、「緑ヶ丘町」56.3%、「中野町」54.9%、「清水町」48.7%、「若松町西」39.5%の順になっている。

地区別、今後の居住意向

| | 校区全体 | 清水町 | 緑ヶ丘町 | 若松町 | 若松町東 | 若松町西 | 中野町 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 住み続けたい | 331 | 97 | 18 | 131 | 4 | 17 | 62 |
| 住み続けたくない | 21 | 11 | 0 | 6 | 0 | 3 | 1 |
| わからない | 191 | 75 | 12 | 40 | 2 | 20 | 41 |
| 無回答 | 45 | 16 | 2 | 14 | 1 | 3 | 9 |
| 計 | 588 | 199 | 32 | 191 | 7 | 43 | 113 |

| | 校区全体（N=588） | 清水町（N=199） | 緑ヶ丘町（N=32） | 若松町（N=191） | 若松町東（N=7） | 若松町西（N=43） | 中野町（N=113） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 住み続けたい | 56.3% | 48.7% | 56.3% | 68.6% | 57.1% | 39.5% | 54.9% |
| 住み続けたくない | 3.6% | 5.5% | 0.0% | 3.1% | 0.0% | 7.0% | 0.9% |
| わからない | 32.5% | 37.7% | 37.5% | 20.9% | 28.6% | 46.5% | 36.3% |
| 無回答 | 7.7% | 8.0% | 6.3% | 7.3% | 14.3% | 7.0% | 8.0% |
| 計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |



# 「I♥（アイラブ）新小校区福祉プロジェクト」ってなに？

## 休眠預金助成対象事業です

休眠預金助成金とは、10 年以上取引のない預金等（休眠預金）を社会課題の解決や民間活動促進のために活用するために作られた助成金です。（申請団体：（一社）富田林市人権協議会）
この助成金を活用し、2020 年度から 2022 年度まで 3 年にわたり実施します。

## 新堂小学校区を対象とした福祉プロジェクトです

当プロジェクトは、公営住宅、古くからの住宅、新興住宅、工業団地など様々な特徴ある地域が集まる新堂小学校区を対象に福祉のまちづくりを進めるための事業です。

プロジェクトの実行委員会は、（一社）富田林市人権協議会、民生・児童委員協議会新堂地区委員会、（社福）富田林市社会福祉協議会、（医）新堂診療所で構成され、富田林市、新堂小学校区交流会議と連携協力して事業を進めます。

## 地域住民みんなで取り組むプロジェクトです

当プロジェクトは、新堂小学校区の住民それぞれが主人公になって、各々のできることを活かしながら、よりよい地域を作り上げていく福祉プロジェクトです。

## ３つの取り組みを柱にしています。

当プロジェクトは、
①身近な集いの場づくり
②誰もが参加できるボランティア活動の仕組みづくり
③子どもを対象とした学習支援と居場所づくり
の３つの取り組みを柱にしています。

## 助成事業終了後もずっと引き継いでいきます。

当プロジェクトは、３年間で得た成果をその後も引き継ぎ、発展させます。
この事業を通じて、ずっと住み続けられるまちを目指していきます。

**発行：I♥新小校区福祉プロジェクト実行委員会**
問い合わせ先（事務局）：（一社）富田林市人権協議会　担当／長橋
電話 24-3700　FAX 25-5952
E-mail wakaichi@luck.ocn.ne.jp

I ♡ 新小校区福祉プロジェクト

# 新小校区まち歩きスタンプラリー

コロナに負けずつながろう！新小校区の交流と町の魅力を感じよう！

～新小校区にお住まいの方は誰でも参加できます～
健康のため歩いて参加してください

スタートはどのポイントからでもOK!
校区を歩いてスタンプを集めよう！

スタンプポイントでクイズに答えて
参加賞をゲット！
さらにスタンプ４箇所以上で、
素敵な景品もプレゼント！

## 6月27日（日）

10時ー12時半　雨天決行
（注意報が出ている場合は中止）

### 密にならないウォークラリー！

- コロナの感染対策を徹底して開催します
- 熱中症予防のために帽子・日傘などの使用、水分補給できるご用意もお願いします
- 体調の優れない方は、無理のない範囲でのご参加をお願いします
- マスクの着用でご参加ください
- コロナ感染が拡大している場合は、中止する場合があります
- 交通には十分お気をつけてご参加ください

４カ所以上集めたら、
6/28（月）から7/2（金）に
人権文化センターに持ってきてね！
ちょっと豪華な景品をお渡しします。

詳しくは福祉プロジェクト
ホームページにて

## スタンプラリー　チェックポイント

1 若松町1丁目 人権文化センター
2 関西スーパー 富田林駅前店
3 緑ケ丘 府営住宅集会所
4 若松町連合町会 老人憩いの家
5 清水町 府営住宅第一集会所
6 サンプラザ 富田林店

問い合わせ先：事務局（一社）富田林市人権協議会
電話　0721-24-3700　FAX 25-5952　E-mail wakaichi@luck.ocn.ne.jp

# I♡新小校区福祉プロジェクト 中間報告

I♡新小校区福祉プロジェクトは、休眠預金助成対象の事業で、2020 年度から 22 年度まで行われます。

## 目的！

**新堂小校区**で、

①身近な集いの場づくり
②誰もが参加できるボランティアの仕組みづくり
③こどもの学習支援と居場所づくり

を柱に、**福祉のまちづくり**を目指しています。

I♡新小校区福祉プロジェクト HP

## プロジェクトはこんなことをしてきました

これまで、校区内町会、社会福祉協議会、新堂地区民生児童委員会、地元企業・商店・スーパーと連携し、住民意識調査、スタンプラリー、ボランティア説明会、LINE 講習会などを実施してきました。

ボランティア説明会

## コロナ下でもスタンプラリーが盛り上がりました

新型コロナ感染が拡大する中での活動は大変でしたが、その中でもコロナ下で展開できる活動として、スタンプラリーにのべ 833 人が参加し、とても盛り上がりました。

## 新堂小校区交流会議とも連携しています

この活動は、富田林市が進めている校区交流会議とも連携しながら進めていますが、助成終了後もプロジェクトの成果を校区交流会議の活動に活かしていきます。

## あと1年でこんなことをしていきます

当プロジェクトの助成期間はあと 1 年になりましたが、次のような活動を実施する予定です。

- 分野別ボランティアオリエンテーションと地域ボランティアの登録、マネジメント
- コロナ下での活動持続のための、町会・福祉委員会等向けの LINE 講習会、活動支援
- 第 2 回スタンプラリー
- 第 2 回住民意識調査
- 活動報告会

ボランティアに参加したら、スタンプを押してもらってください。スタンプ10個で、関西スーパー富田林駅前店又はサンプラザ富田林店の商品券500円分と交換・またはスタンプ20個で北モンヤ商品券1000円分と交換します。　※再発行はしません

| 回数 | 日付 | 内　容 | スタンプ | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |

有効期限：　　年　　月　　日まで

発行：I♡新小校区福祉プロジェクト実行委員会
事務局・商品券交換（一社）富田林市人権協議会　24-3700

ボランティアに参加したら、スタンプを押してもらってください。スタンプ10個で、関西スーパー富田林駅前店又はサンプラザ富田林店の商品券500円分と交換・またはスタンプ20個で北モンヤ商品券1000円分と交換します。　※再発行はしません

| 回数 | 日付 | 内　容 | スタンプ | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |

有効期限：　　年　　月　　日まで

発行：I♡新小校区福祉プロジェクト実行委員会
事務局・商品券交換（一社）富田林市人権協議会　24-3700

I♡新小校区福祉プロジェクト・新堂校区交流会議共催

# 第2回新小校区まち歩きスタンプラリー

## みんなでつながってまちの良さを大発見！

～新小校区にお住まいの方は誰でも参加できます～
健康のため歩いて参加してください

どのポイントからスタートしてもOK!
校区を歩いてスタンプを集めよう！

スタンプポイントでクイズに答えたり
ゲームに参加して賞品をゲット！
さらにスタンプ3箇所以上で、
素敵な景品もプレゼント！
※賞品を入れるエコバックを持参ください

**11月27日(日)**
**10時ー12時半**
**雨天決行**
（注意報が出ている場合は中止）

### 密にならないウォークラリー！

- コロナの感染対策を徹底して開催します
- 体調の優れない方は、無理のない範囲でのご参加をお願いします
- コロナ感染が拡大している場合は、中止する場合があります
- 交通には十分お気をつけてご参加ください

3カ所以上集めたら、
11/28(火)から12/6(火)に
人権文化センターに持ってきてね！
ちょっと豪華な景品をお渡しします。

詳しくは福祉プロジェクト
ホームページにて

## スタンプラリー チェックポイント

1 若松町1丁目人権文化センター前

2 緑ケ丘府営住宅集会所

3 清水町府営住宅北集会所

4 新堂小学校体育館前

5 中野町コミュニティ会館前

6 関西スーパー富田林駅前店

7 サンプラザ富田林店

8 ウェルシア富田林若松店


問い合わせ先：事務局
（一社）富田林市人権協議会
電話 0721-24-3700 FAX 25-5952
E-mail wakaichi@luck.ocn.ne.jp

# I♡新小校区福祉プロジェクト

# 事業報告会

## 2月17日(金) 午後7時ー9時

**会場：富田林市立人権文化センター複合施設**　富田林市若松町 1-9-12

**①I♡新小校区福祉プロジェクト事業の成果と課題**

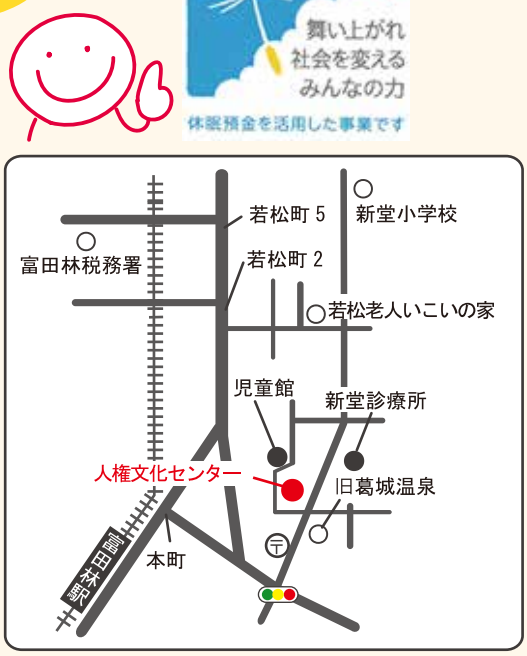
（一社）富田林市人権協議会事務局長　長橋淳美

**②I♡新小校区福祉プロジェクトの活動と増進型地域福祉**

桃山学院大学教授　小野達也さん

桃山学院大学社会学部ソーシャルデザイン学科教授
博士（社会福祉学）　専門は地域福祉論。
大阪府社会福祉審議会委員長や富田林市地域福祉計画策定委員長などを務める。現在最も力を入れているのは、増進型地域福祉の研究。近著に、『増進型地域福祉への展開』小野達也・朝倉美江編著、同時代社、2022年

舞い上がれ
社会を変える
みんなの力
休眠預金を活用した事業です




駐車場に限りがございますので、なるべく公共交通機関にてお越しください


問い合わせ・申し込み：（一社）富田林市人権協議会
TEL: 0721-24-3700　FAX：0721-25-5952
メール：　wakaichi@luck.ocn.ne.jp
ホームページ：https://tjinken.jimdofree.com/


**<主催> I♡新小校区福祉プロジェクト実行委員会**

# I❤新小校区福祉プロジェクト
# 報告書

## オープンなつながりで
## コミュニティを紡ぎなおす

休眠預金等活用事業

2023年2月

I♥新小校区福祉プロジェクト実行委員会
一般社団法人富田林市人権協議会

# 目 次

1. I❤新小校区福祉プロジェクトとは..... 1
2. 新堂小学校区の元気・参加・未来のためのアンケート..... 2
3. こんなことを行ってきました（事業報告）..... 11
（1） 集いの場・居場所づくり..... 11
① SNS を活用した新たなつながりづくり ..... 11
② 第1回新小校区まち歩きスタンプラリー （2021 年 6 月 27 日）.....12
③ 第 2 回新小校区まち歩きスタンプラリー（2022年 11 月 27 日）.....14
④ 公式輪投げ競技による交流・健康づくり .....17
（2） 地域有償ボランティアシステムづくり .....18
① 地域ボランティア オリエンテーションを開催し、ボランティアへの参加募集を行いました.....18
② こども食堂ボランティア活動.....19
③ 高齢者配食ボランティア活動 .....20
④ 通学見守りボランティア活動.....20
（3） こどもを対象とした学習支援と居場所づくり.....21
① 小学生学習支援ボランティア .....21
② 中学生学習支援活動「陽だまり」ボランティア .....22
4. I❤新小校区福祉プロジェクトのふりかえり .....23
（1） 新堂小学校区のつながりと交流の広がり.....23
（2） 子ども食堂ボランティア参加者によるワークショップ.....24
（3） 子ども食堂ボランティア・アンケート .....26
（4） 高齢者配食ボランティア参加者によるワークショップ .....28
（5） 高齢者配食ボランティア・アンケート.....30
（6） 新堂小学校区交流会議参加者のふりかえり .....32
（7） 新堂小学校区交流会議参加者のアンケート.....33
5. I❤新小校区福祉プロジェクトのこれから .....35
（1） 新堂小学校区交流会議との連携協働 .....35
（2） 新小校区まち歩きスタンプラリーを地域ぐるみのイベントに育てる.....35
（3） 「お金」「人」「思いやり」が循環する“おたがいさまのまちづくり”.....35

# 1. I❤新小校区福祉プロジェクトとは

富田林市新堂小学校区は、市街の中心にあり、中世からの古い町、同和地区、大規模公営住宅、新しいマンション群、中小企業団地などが混在する多様な特徴を持つ地域です。これまで、古い町を中心に強い絆で結ばれていた地域が、新しい住民の流入、経済格差の拡大、高齢者世帯等の孤立等により絆がほころびつつあります。この状況を課題に応じた新しいネットワークで紡ぎなおそうとするのがこのプロジェクトです。

福祉的な困難状況を抱えた同和地区の市営住宅や府営住宅を含む様々な特徴を持つ町が集まる新堂小学校区において、これまで培ってきた地域の絆と資源を活かし、各関係機関・団体・企業が連携して、

**① 身近な集いの場づくり**
**② 誰もが参加できるボランティア活動の仕組みづくり**
**③ こどもを対象とした学習支援と居場所づくり**

を通じ、住民主体による支え、支え合える地域づくりを目的に、**休眠預金等活用事業**の助成を受け、**I❤新小校区福祉プロジェクト**に取り組んできました。

**I❤新小校区福祉プロジェクト実行員委会**は、(一社)富田林市人権協議会、民生・児童委員協議会新堂地区委員会、(社福)富田林市社会福祉市協議会、(医)新堂診療所で構成され、3年間、ほぼ毎月1回確実に開催し富田林市、新堂小学校区交流会議と連携・協力して事業を進めてきました。

## 2. 新堂小学校区の元気・参加・未来のためのアンケート

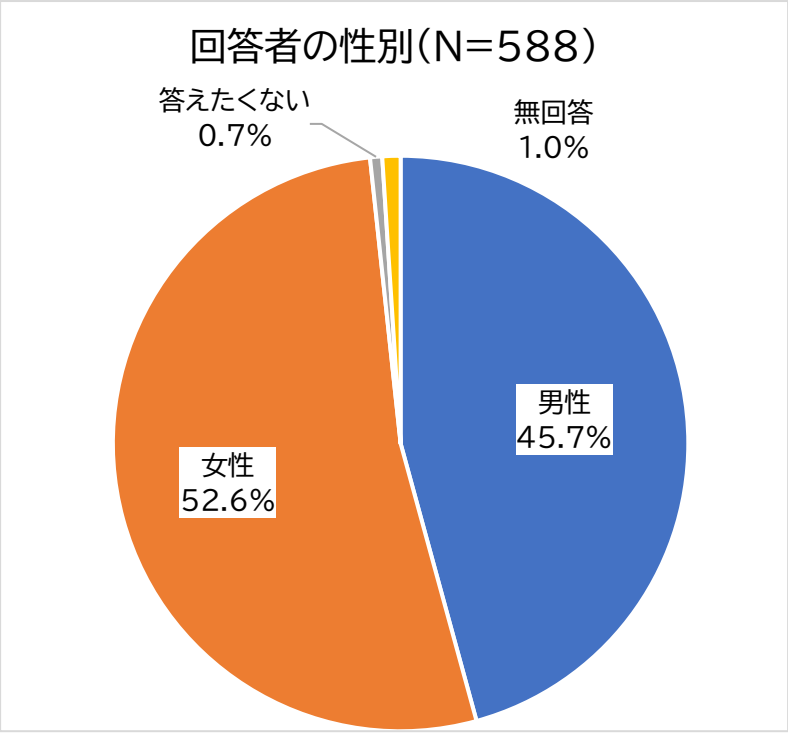
「I❤新小校区福祉プロジェクト」に取り組むにあたって、住民の皆さんにご協力いただき「新堂小学校区の元気・参加・未来のためのアンケート」を実施し、校区内各町会、公共施設、スーパー等の地元商店にアンケート回収 BOX を設置してもらい、アンケート回収に、ご協力いただきました。

| | |
|---|---|
| 調査期間 | 2020 年 11 月 1 日～11 月 30 日 |
| 調査対象 | 新堂小学校区住民(5,224 世帯) |
| 有効回答数 | 588(回収率 11.0%) |

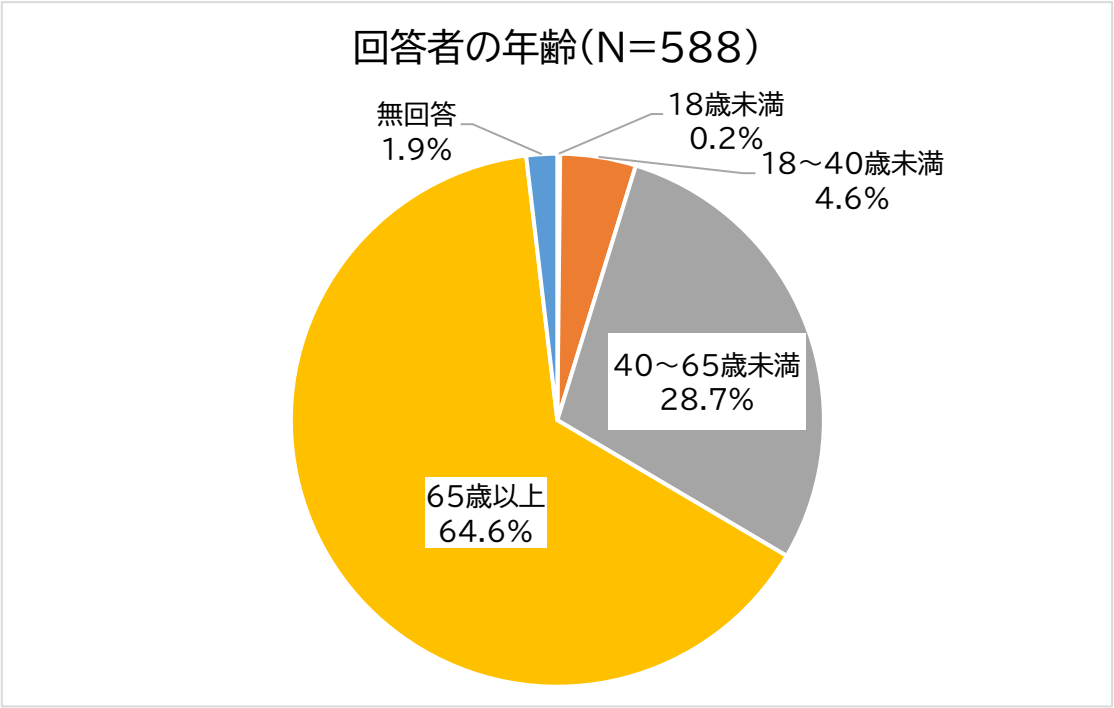
**《アンケートの結果(抜粋)》**

**回答者の属性**

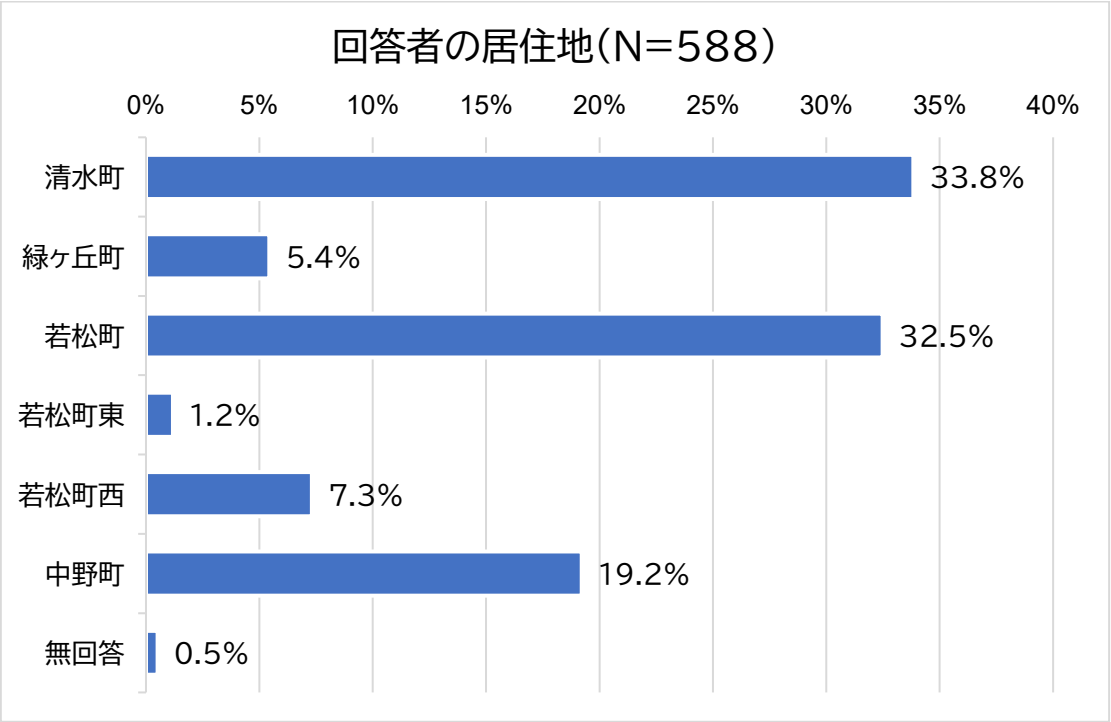
回答者の性別は、588 名の内、「男性」が 45.7%、「女性」が 52.6%でした。



回答者の年齢は、588 名の内、「65 歳以上」が 64.6%と高齢者の回答が多く見られました。「40～65 歳未満」は 28.7%、「18～40 歳未満」は 4.6%、「18 歳未満」は 0.2%となっています。

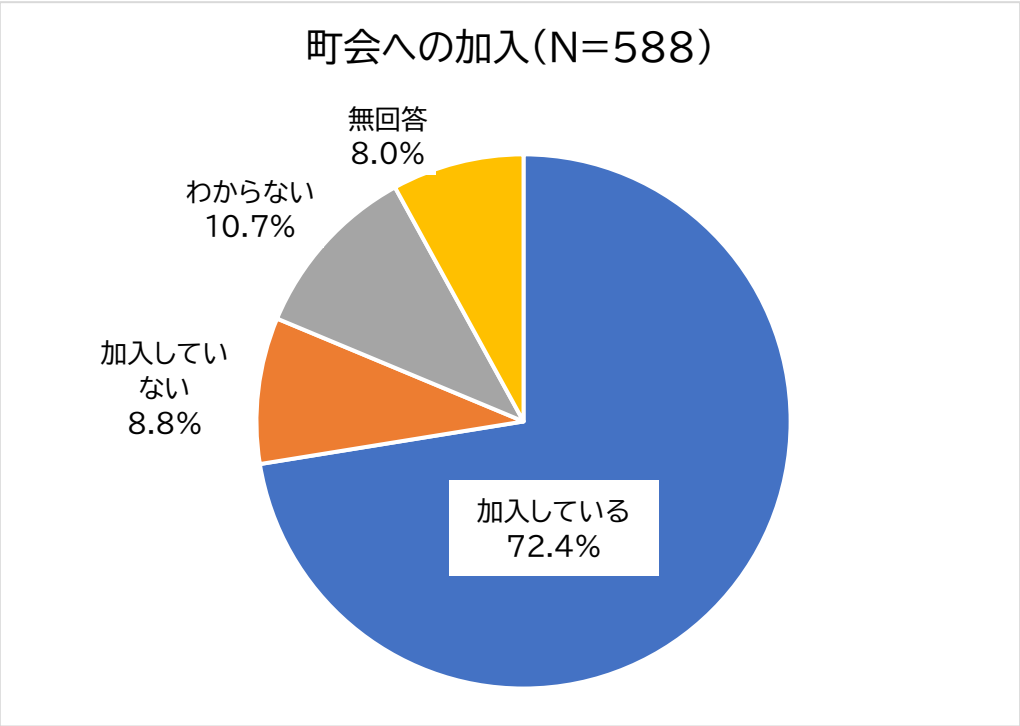


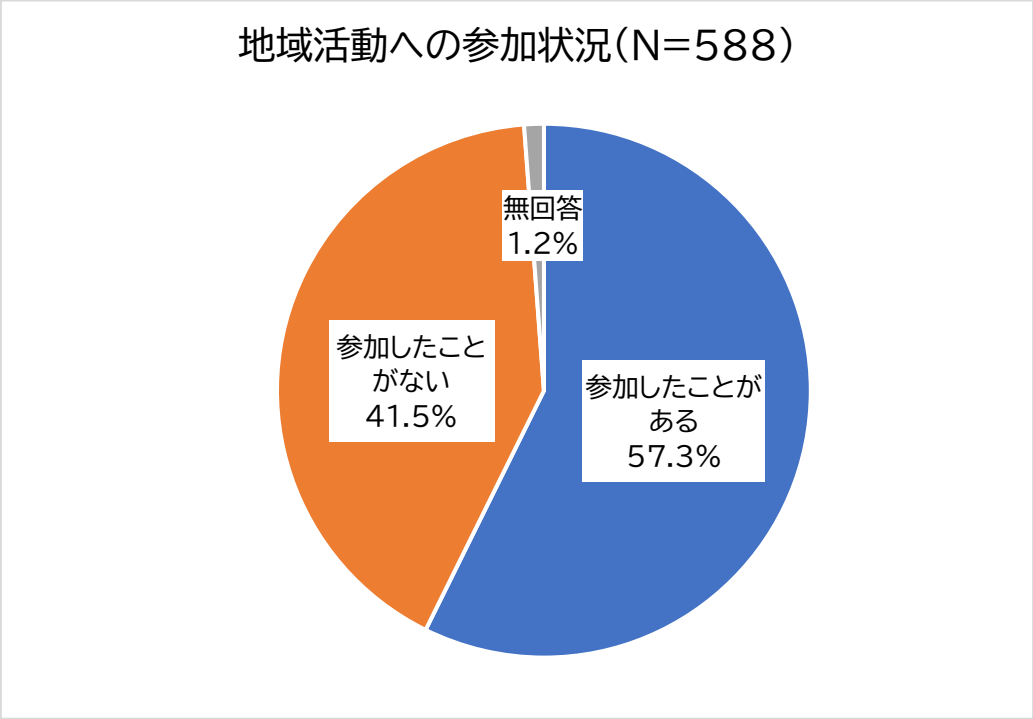

回答者の居住地は、「清水町」が 33.8%もっとも多く、次いで「若松町」が 32.5%、「中野町」が 19.2%と多くなっています。



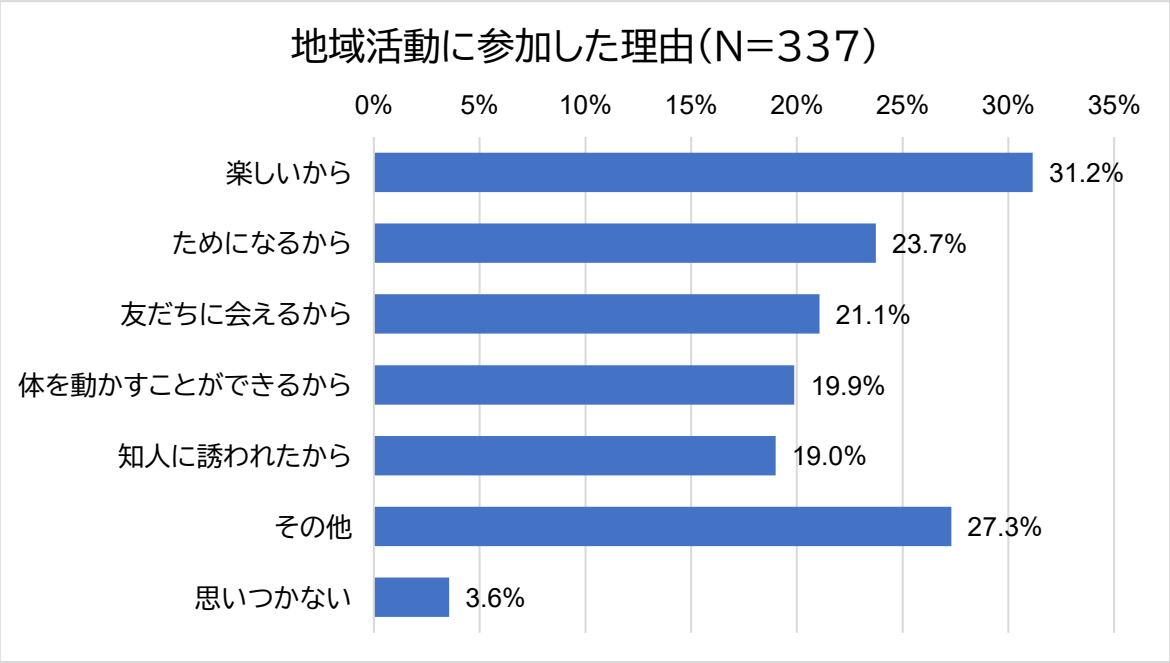
**楽しく、学べて、たくさんの人と交流したいから、地域活動に参加したい!!**

町会に「加入している」と回答した人は 72.4%で、町会・老人会・福祉委員会・青年団など地域で行われている取組に「参加したことがある」と回答した人は 57.3%でした。

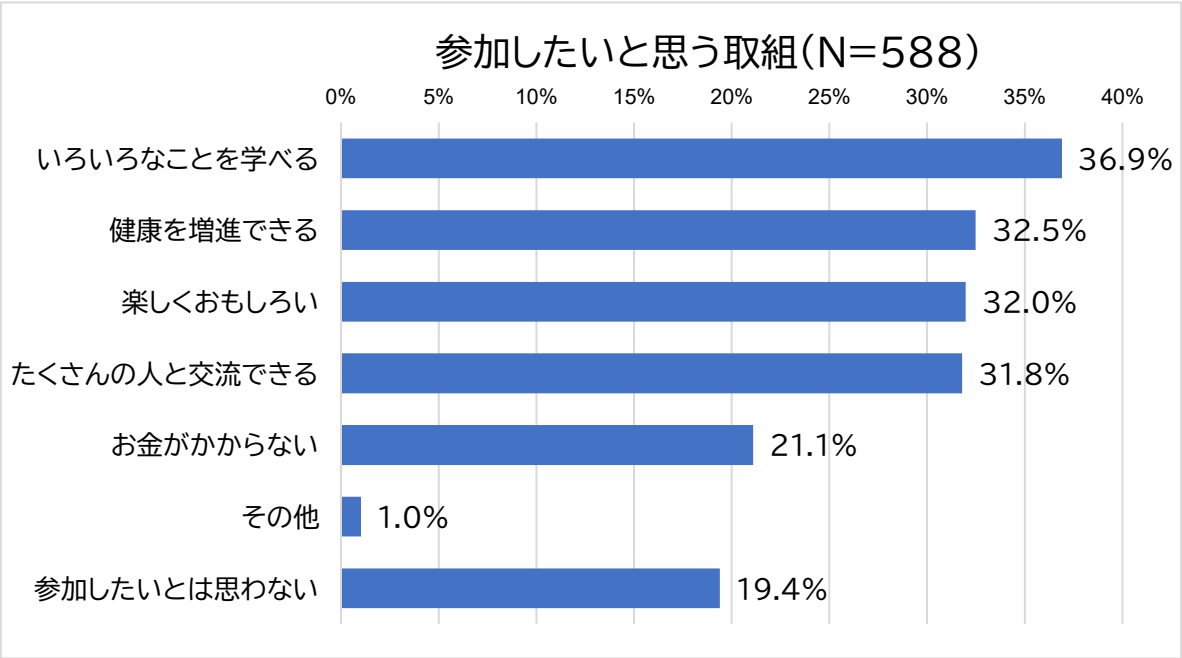


「参加したことがある」と回答した 337 人の内、「参加した理由」は 31.2%が「楽しいから」、23.7%が「ためになるから」、21.1%が「友だちに会えるから」と回答しています。



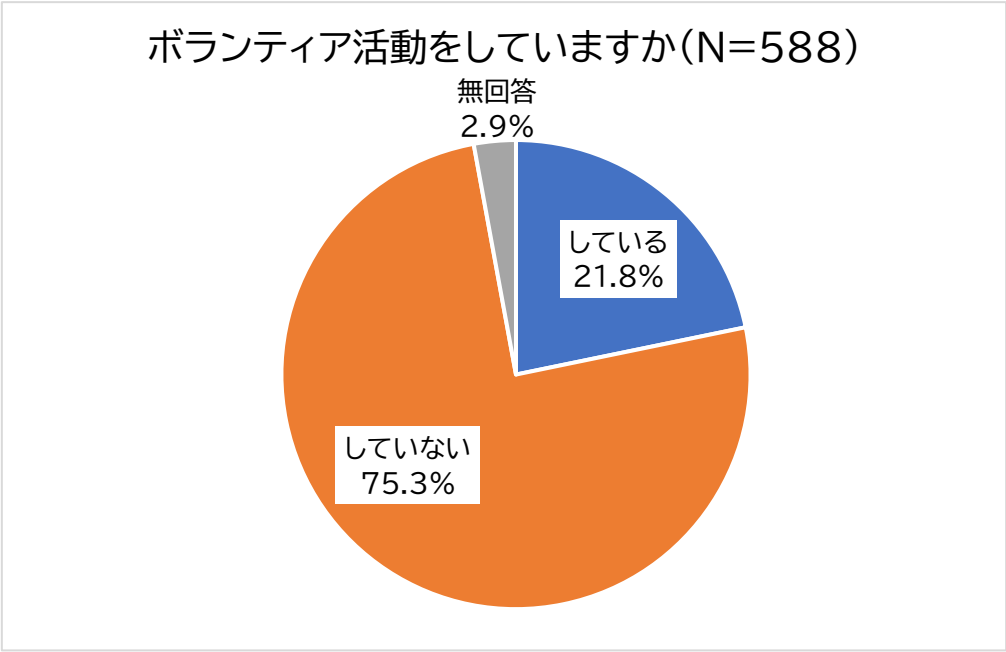

また、「参加したい」と思う取組は「いろいろなことを学べる」が 36.9%、「健康を増進できる」が 32.5%、「楽しくおもしろい」が 32.0%、「たくさんの人と交流できる」が 31.8%となっています。



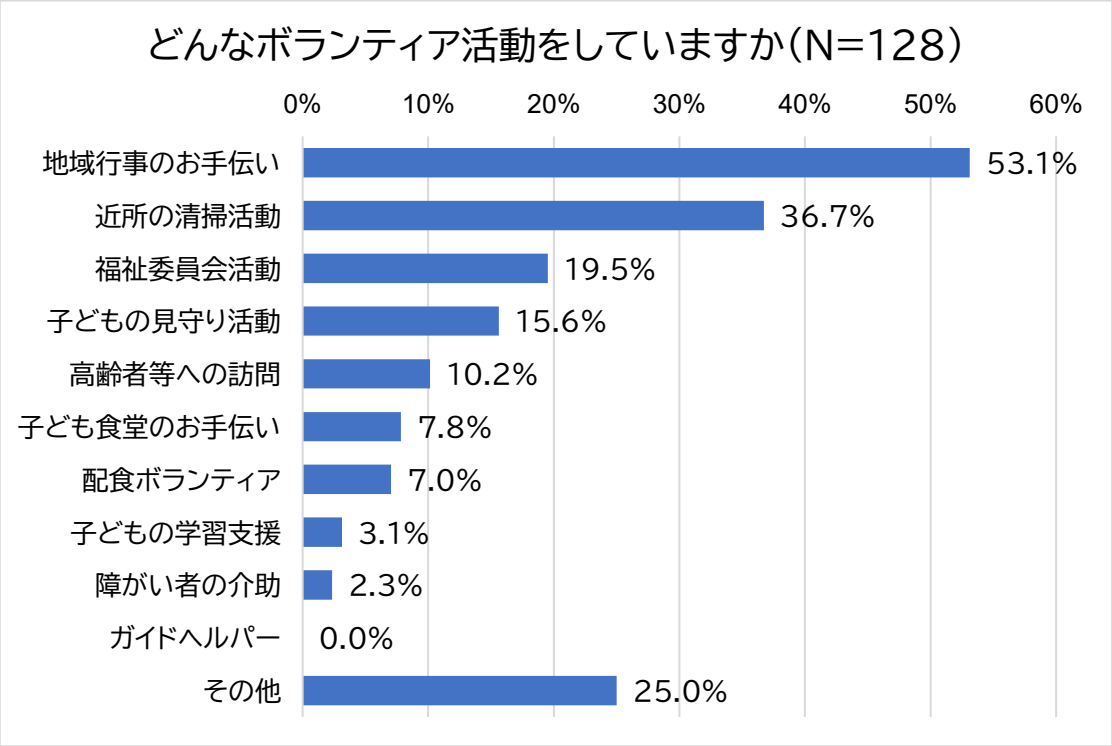

以上のことから、地域活動を活発にしていくためには、**楽しく、学べて、たくさんの人と交流できる取組**を行っていくことが重要であることが分かりました。

**ボランティア活動を行っている住民は 2 割強でも、行っても良いと思っている住民は 7 割もいる!?**

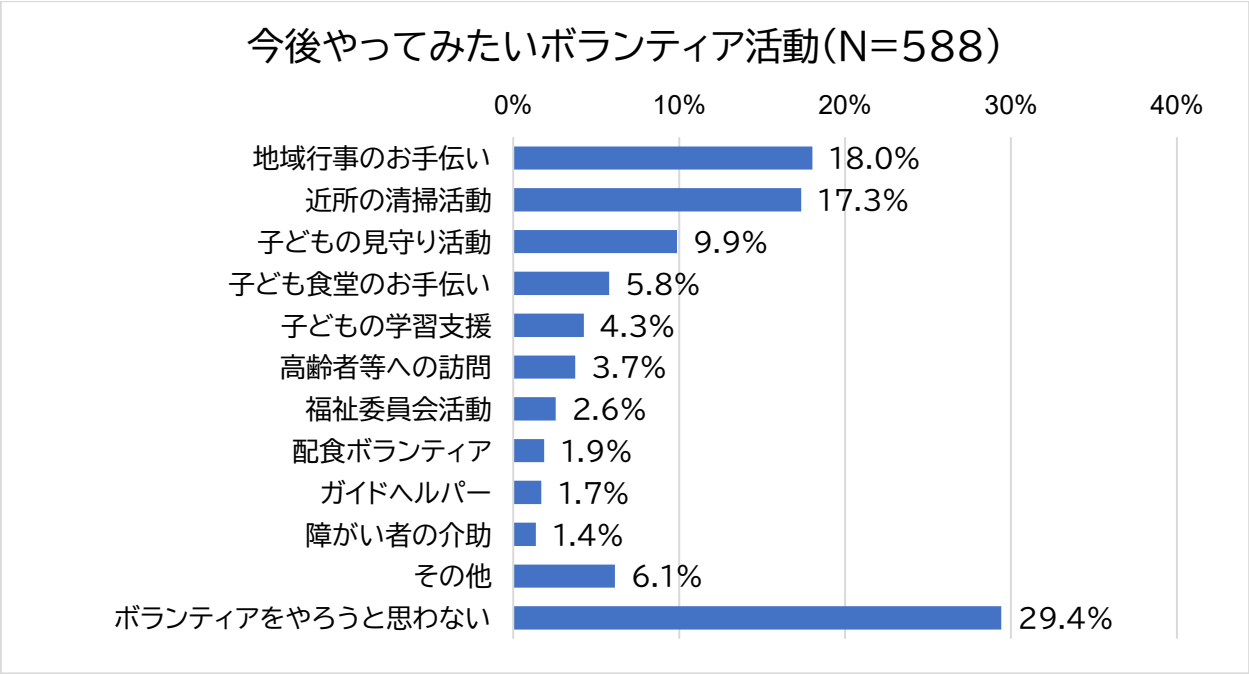
現在、ボランティア活動をしている住民は 21.8%でした。



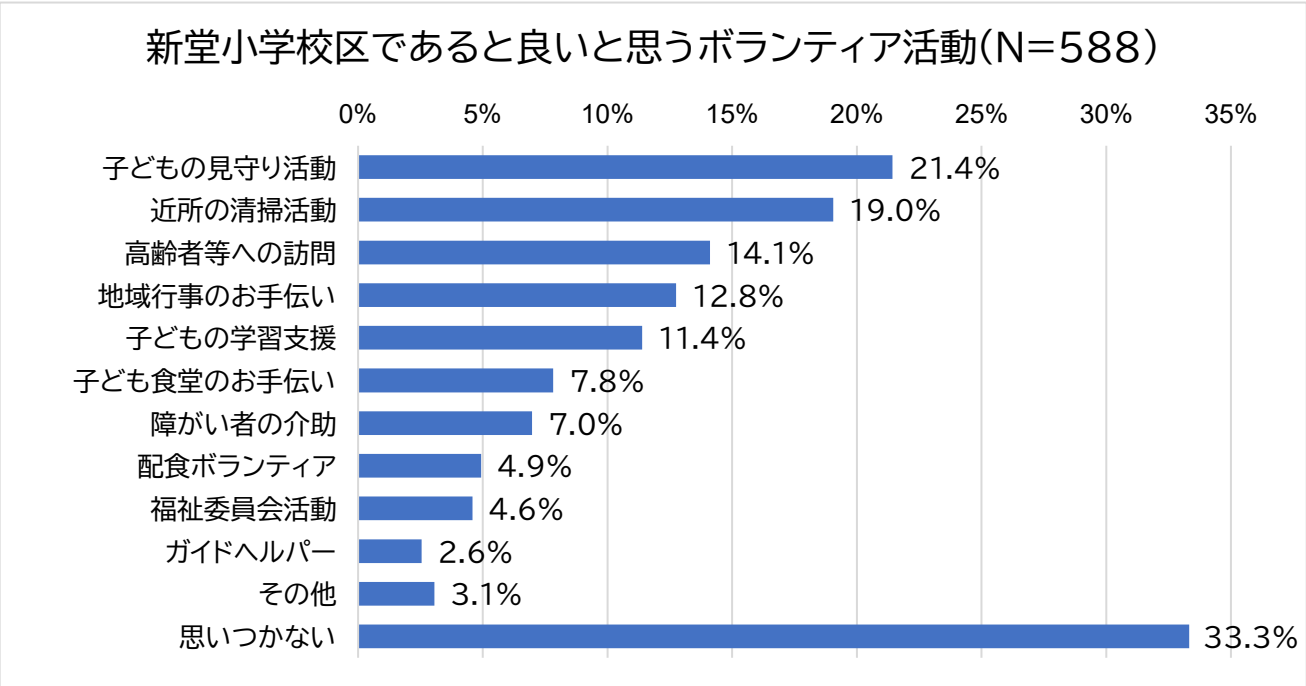

ボランティア活動を「している」と回答した 128 人の内、行っているボランティア活動は「地域行事のお手伝い」が 53.1%でもっとも多く、次いで「近所の清掃活動」が 36.7%、「福祉委員会活動」が 19.5%、「子どもの見守り活動」が 15.6%の順となっています。



今後やってみたいボランティア活動では「地域行事のお手伝い」が 18.0%でもっとも多く、次いで「近所の清掃活動」が 17.3%、「子どもの見守り活動」が 9.9%となっていました。また「ボランティアをやろうと思わない」が 29.4%となっており、残る 7 割程度の住民は機会があればボランティア活動を行っても良いと考えている可能性がある思とわれます。

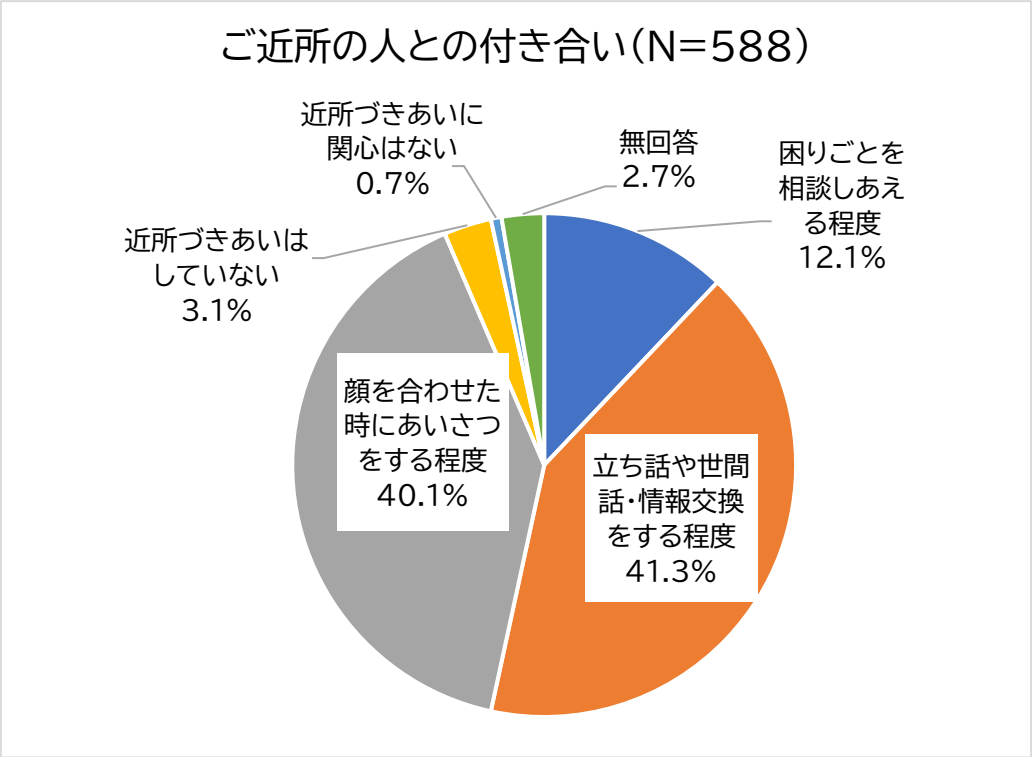



新堂小学校区であると良いと思うボランティア活動は、「子どもの見守り活動」が 21.4%でもっとも多く、次いで「近所の清掃活動」が 19.0%、「高齢者等への訪問」が 14.1%、「地域行事のお手伝い」が 12.8%、「子どもの学習支援」が 11.4%の順になっていました。

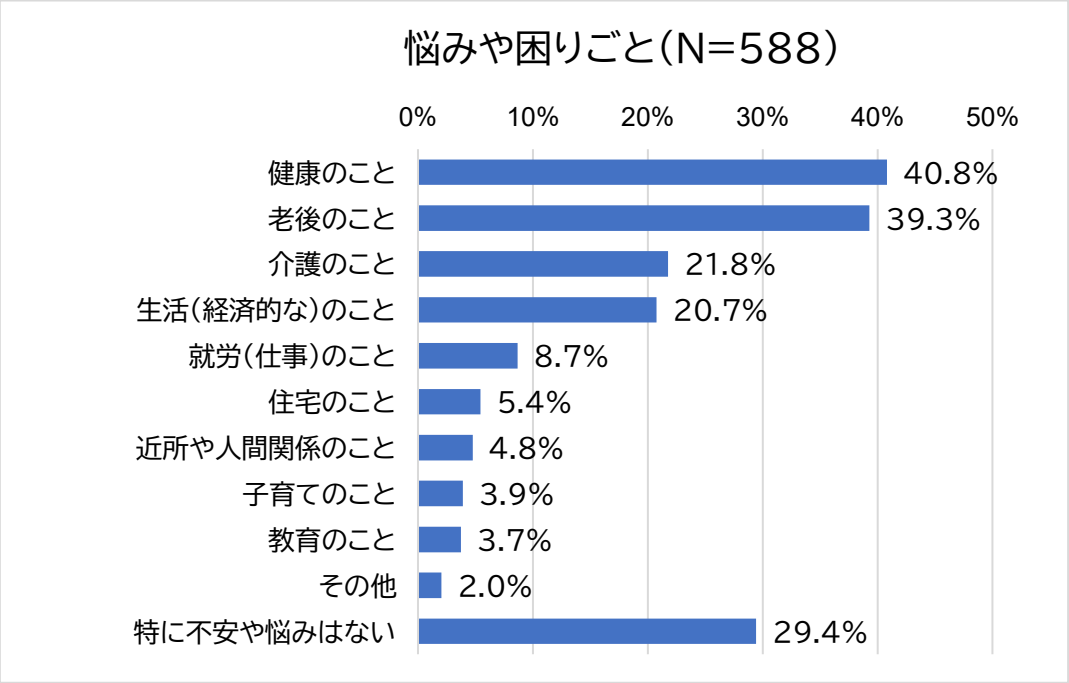


## 近所づきあいと困りごと

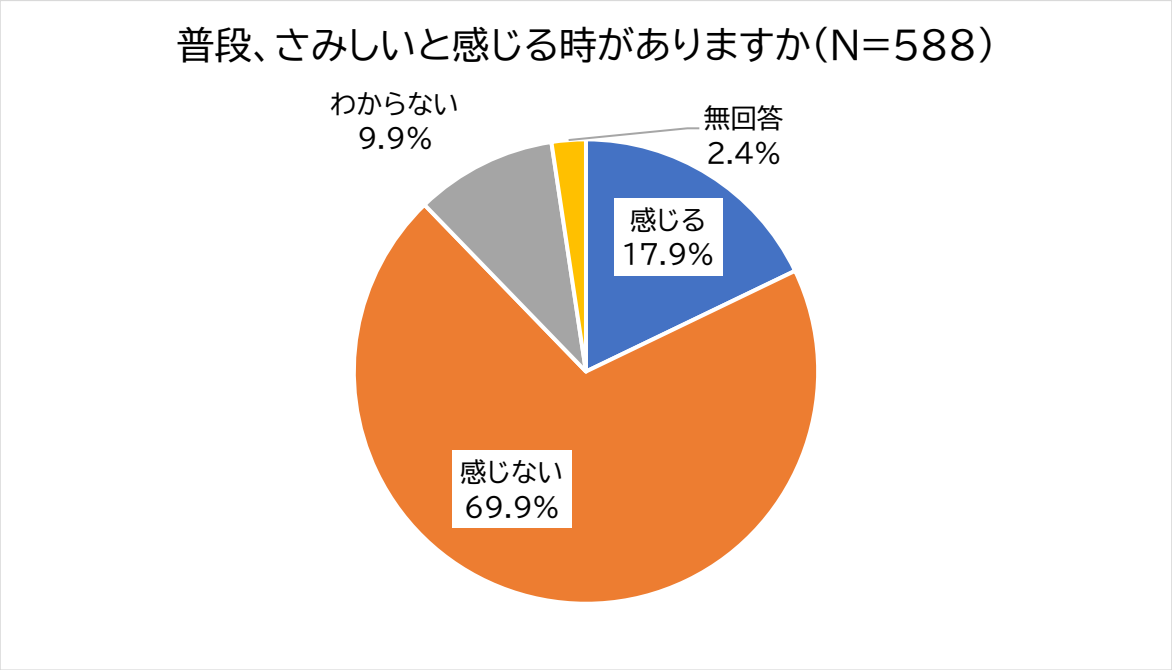
近所づきあいでは、「立ち話や世間話・情報交換をする程度」が 41.3%、「顔を合わせた時にあいさつをする程度」が 40.1%で、「困りごとを相談しあえる程度」は 12.1%になっています。

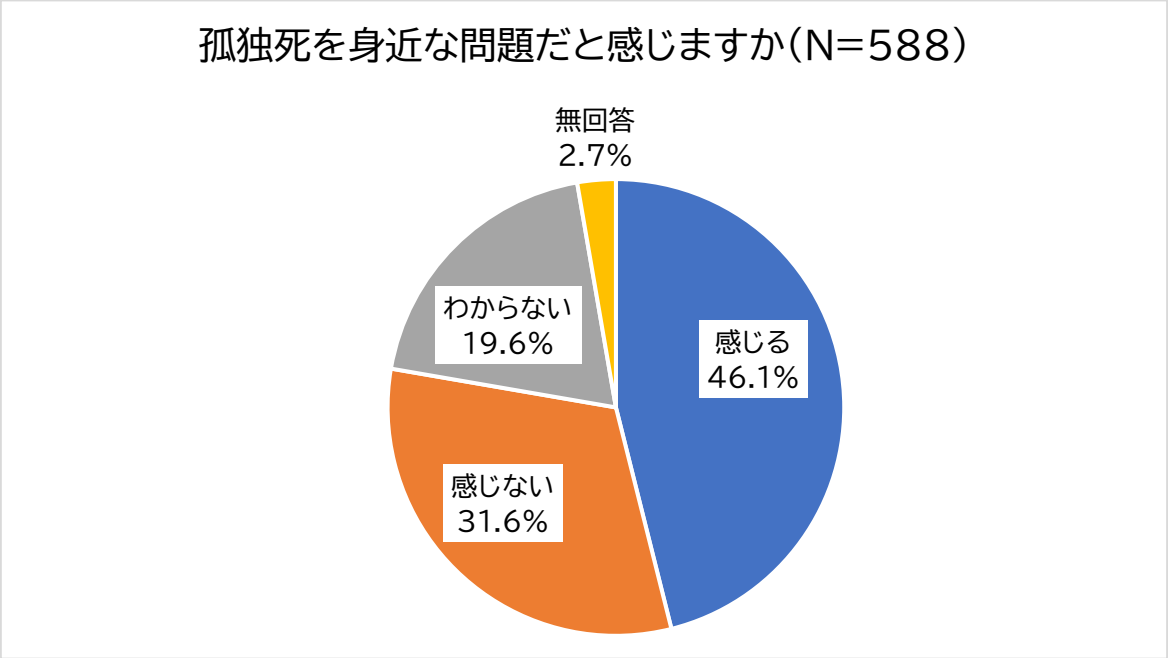



悩みや困りごとでは、「健康のこと」が 40.8%でもっとも多く、ついで「老後のこと」が 39.3%、「介護のこと」が 21.8%、「生活(経済的な)のこと」が 20.7%の順になっています。



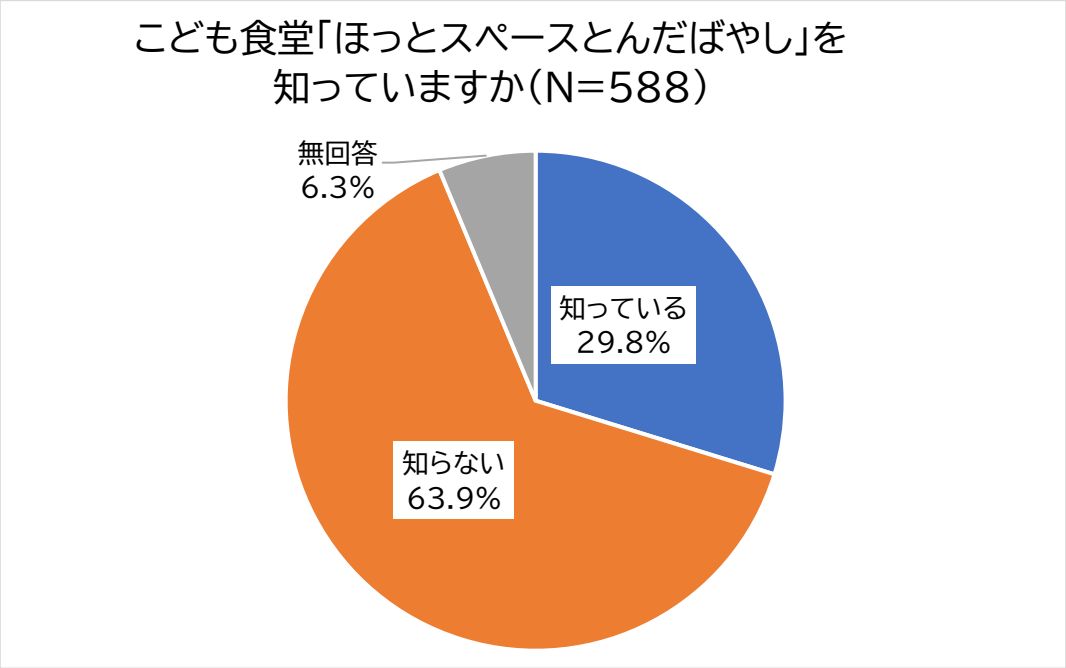
普段、さみしいと感じている住民は 17.9％、孤独死を身近な問題だと感じている住民は46.1%に上っています。

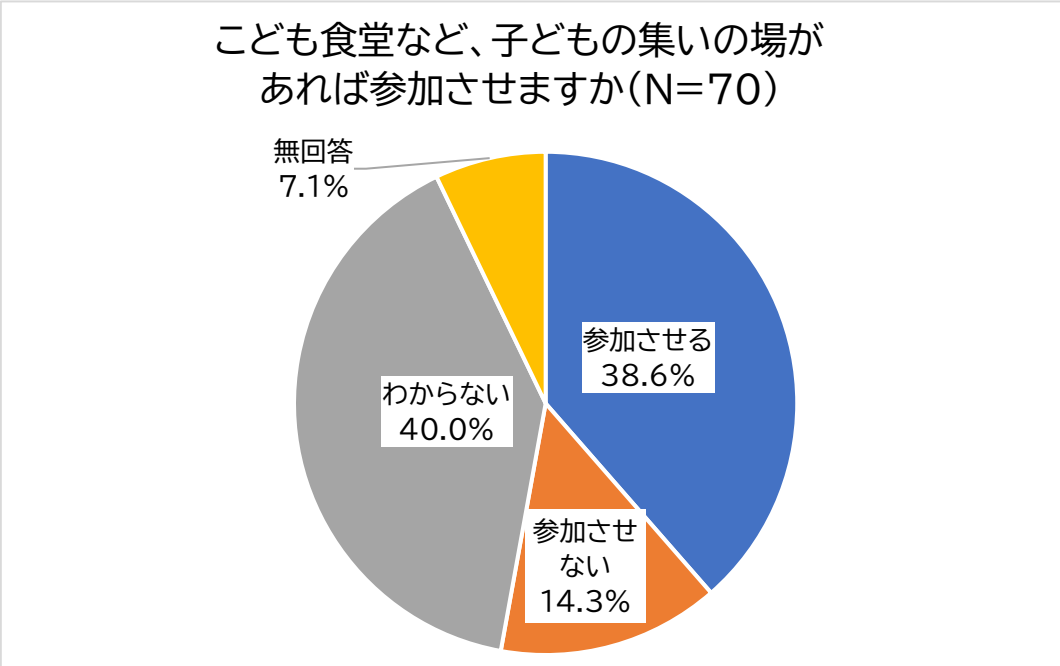


### 子どものいる家庭の 38.6％がこども食堂など、集いの場に参加させたい

こども食堂「ほっとスペースとんだばやし」を知っている人は 29.8％で、18歳未満の子どものいる家庭の 38.6％がこども食堂など、集いの場に参加させたいと回答しています。




### 新堂小学校児童にもアンケートを実施

新堂小学校の協力を得て、2020 年度在学の小学生 1 年生～5 年生にもアンケートを実施しました。子どもたちも地域活動に協力したい旨の回答が多く得られました。

## 3. こんなことを行ってきました（事業報告）

### （1） 集いの場・居場所づくり

当初、各町会集会所を活用して、地域住民の集いの場・居場所づくりに取り組む計画でしたが、コロナ禍による外出自粛の影響で、祭りなど、地域イベントの中止や、町会活動が停滞を余儀なくされる中、各町会集会所等を活用した集いの場・居場所づくりにほとんど取り組めませんでした。

こうした状況の中で、SNS を活用した新たなつながりづくりや新小校区まち歩きスタンプラリーを開催し、校区住民が集い、交流する取組を実施しました。

**① SNS を活用した新たなつながりづくり**

新型コロナ感染症による外出自粛の影響により集いの場が作れない中、SNS を活用した新たなつながりづくりをめざし、NPO 法人きんきうぇぶと連携し、緑が丘町会、清水町町会、清水町老人会、新堂地区民生児童委員会で、スマホ教室、LINE 活用教室を実施しました。

そして、**I❤新小校区福祉プロジェクト公式 LINE アカウント**を開設し、新たなつながりによる地域活動が始まりました。

| |
|---|
| I❤新小校区福祉プロジェクト公式 LINE アカウント登録数 119 名（2023 年 1 月末現在） |

## ② 第1回新小校区まち歩きスタンプラリー（2021年6月27日）

スタンプラリーへの参加を呼びかけるチラシを町会にご協力いただき「広報とんだばやし」への折り込み配布を行い、マンションへのポスティング、新堂小学校生徒には全員は全員配布するなど、新小校区住民への周知を図りました。（配布数　5,000枚）

当日は、I❤新小校区福祉プロジェクト実行委員会、民生委員、社会福祉協議会、コミュニティソーシャルワーカー、富田林市人権協議会、新堂診療所、地元町会役員、富田林市人権文化センターの皆さんにご協力いただき、延べ833人の参加を得ました。

### 第1回新小校区まち歩きスタンプラリー

■ スタンプポイント訪問数

| | |
|---|---|
| スタンプポイント１ 人権文化センター | 175 人 |
| スタンプポイント２ 関西スーパー富田林駅前店 | 172 人 |
| スタンプポイント３ 緑ヶ丘府営住宅集会所 | 80 人 |
| スタンプポイント４ 若松連合町会老人憩いの家 | 96 人 |
| スタンプポイント５ 府営住宅清水住宅第１集会所 | 151 人 |
| スタンプポイント６ サンプラザ富田林支店 | 159 人 |

■ 景品交換

| | |
|---|---|
| スタンプ6個 | 65人 |
| スタンプ5個 | 26人 |
| スタンプ4個 | 35人 |
| スタンプ計 | 126 人 |

■ LINE アカウント登録者 46人

■ 参加者の感想

- スタンプラリー、クイズもあり楽しかったです。また、開催してほしいです。
- 1日4000歩ノルマを歩いています。当日は7000歩を越えました。
- 当日は移動支援の仕事で利用させていただきました。とても楽しかったです。ありがとうございました。
- 子どもが新堂小学校5年生です。・・・かなり歩いています。いい運動になってますね。
- 委員会の皆様ありがとうございます。
- スタンプラリー楽しかったです！ありがとうございます。
- お疲れさまでした。皆さん優しい方たちばかりで、参加できてよかったです。お天気も。
- 暑くもなく、雨にも降られず、良い1日が過ごせました。・・・次回も期待してま～す。

■ 振り返り（2021年7月16日実行委員会）

- 小さなお子さんから、家族連れ、高齢者まで多くの層が参加できる企画だった。
- ほとんどの人が歩いて参加してくれていて、健康づくりや知らないポイントに行くなど、町発見につながった。
- チェックポイントの場所がわかりにくかった➔近所に矢印など、誘導できるものを貼ってはどうか。
- 障がい者や体の不自由な高齢者など、普段外に出にくい人が付き添いと一緒に参加できないか。
- お菓子配布は、ごみを出さないためにエコバックを景品にしてはどうか。
- 緑ヶ丘町では地域の行事（七夕まつり）と同時開催し参加者が増えた。
- 狭い道には実行委員が立つなど、交通安全の配慮が必要。
- 景品交換は当日渡したほうが良い。
- 府営住宅内のアナウンス（放送）が有効だった。

### ③ 第 2 回新小校区まち歩きスタンプラリー（2022年 11 月 27 日）

第1回スタンプラリーが大好評だったため、2022 年 11 月 27 日に第 2 回新小校区まち歩きスタンプラリーを開催しました。スタンプラリーには前回を大幅に上回る、のべ 1442 人が参加し、準備作業や当日スタッフ等多くのボランティアも参加しました。スタンプポイントも 6 か所から 8 か所になり、それぞれのポイントでは地元、企業の特徴あるクイズやゲームを楽しみました。

8 か所のスタンプポイントを回るのはかなりハードなのですが、85 人もの人が全ポイントをコンプリートしました。

## 第 2 回新小校区まち歩きスタンプラリー

景品の仕分け作業中

新堂小学校に消防車が来てくれました

清水町での輪投げ体験

■ スタンプポイント訪問数

| | 訪問数 | ボランティア |
|---|---|---|
| スタンプポイント１ 人権文化センター | 191 人 | 5 人 |
| スタンプポイント２ 緑ヶ丘府営住宅集会所 | 96 人 | 10 人 |
| スタンプポイント３ 府営住宅清水住宅北集会所 | 175 人 | 8 人 |
| スタンプポイント４ 新堂小学校 | 193 人 | 10 人 |
| スタンプポイント５ 中野町コミュニティ会館 | 144 人 | 10 人 |
| スタンプポイント６ 関西スーパー富田林駅前店 | 228 人 | 6 人 |
| スタンプポイント７ サンプラザ富田林支店 | 212 人 | 4 人 |
| スタンプポイント８ ウェルシア富田林若松店 | 183 人 | 4 人 |

■ 景品交換

| | |
|---|---|
| スタンプ 8 個 | 85 人 |
| スタンプ 7 個 | 19 人 |
| スタンプ6個 | 21 人 |
| スタンプ5個 | 14 人 |
| スタンプ4個 | 18 人 |
| スタンプ3個 | 13 人 |
| スタンプ計 | 170 人 |

■ LINE アカウント新規登録者　10 人

■ 参加者の感想

- 昨日はありがとうございました。私は 84 歳のじいじです。頑張って 8 か所回ってきました。歩くのが大変でした。2 時間 25 分かかりました。あと 5 分で時間切れのところでした。また、来年もがんばって歩けるように体に気を付け、毎日過ごすつもりです。皆様ありがとうございました。
- スタンプラリー楽しかったです。ありがとうございました。
- 景品たくさんありがとうございました。
- お疲れさまでした。素晴らしい企画でした。有難うございます。

■ ボランティアの感想

- 備品の中にマジックを入れておいていただけたら。
- 募金をしないと参加できないと思う人もいたので（赤い羽根）募金はしない方が良いのでは（誤解を与えてしまう）。
- 参加しやすそう。当日声掛けした方もいました。
- 家族で参加。高齢者の参加も多かったです。
- みなさん喜ばれていました。
- あっという間の 2 時間半でした
- 同級生に久しぶりに会えてうれしかった。
- 若葉保育園の園長先生が参加してくれていたので、教え子の家族さんが買い物に来られて声掛けしてもらえて良かったです。
- 多くの人が来られ活気があってよかった。
- 昨年より人気があり、活気があってよかった。
- 親子で参加してくれる方も多く、楽しい会話もできた。
- 関スーのキャラクターの名前を知っている人もけっこういいました。
- クイズの答えが飾られているのでわかりやすく良かったです。
- 呼び込みもあり人数が多かった。高齢者の歩くのが大変という意見もありました。ギリギリに来た場合、時間の延長もありかな？
- ウェルシアではエリアマネージャーの方がボランティアに参加してくれた。

### ④ 公式輪投げ競技による交流・健康づくり

清水町の老人会が活動に公式輪投げを取り入れ、講習会の開催・公式輪投げセットの購入を企画していたので、福祉プロジェクトとしてそれを援助しました。公式輪投げ競技は誰にもでき、高齢者の健康づくり、世代間交流など様々な効果があることから、新堂小学校区全体に広げようという方針で、若松町1丁目、緑が丘町でも輪投げセットを購入し、講習会を開催しました。さらに、これを広げ新堂小学校区での町会対抗輪投げ大会を目指しています。さらに、富田林市の SC（老人クラブ連合会）でもニュースポーツとして公式輪投げを広げる動きもあり、将来的には全市的な取り組みに広げ、府大会、全国大会も視野に入れ活動を進めています。

清水町会集いの場
（公式わなげ講習会風景）

若松町１丁目福祉委員会輪投げ講習会

## （2） 地域有償ボランティアシステムづくり

### ① 地域ボランティア オリエンテーションを開催し、ボランティアへの参加募集を行いました

**2021年3月 11 日 「こども食堂ボランティア」オリエンテーション**

| | |
|---|---|
| ナビゲーター | こども食堂「ほっとスペースとんだばやし」 古川さん<br>富田林市こども未来室 丹生谷さん |
| 参加者 | 13 名 |

**2021年3月16日 「こども学習支援ボランティア」オリエンテーション**

| | |
|---|---|
| ナビゲーター | 法華寺住職・スクールカウンセラー 庄司さん<br>新堂小学校 教員 |
| 参加者 | 12 名 |

**2021年3月23日 「高齢者配食ボランティア」オリエンテーション**

| | |
|---|---|
| ナビゲーター | 昼食配食サービス「たんぽぽ」辰巳さん<br>富田林市高齢介護課 山本さん |
| 参加者 | 11 名 |

**2021年3月30日 「通学見守りボランティア」オリエンテーション**

| | |
|---|---|
| ナビゲーター | 新堂地区民生児童委員会委員長 川喜田さん<br>新堂小 PTA 会長 木下さん<br>新堂小学校 教員 |
| 参加者 | 14 名 |

**2021年4月6日 「買い物等同行支援ボランティア」オリエンテーション**

| | |
|---|---|
| ナビゲーター | 富田林市社会福祉協議会 松尾さん |
| 参加者 | 8 名 |

**「わくわくボランティアカード」に 80 人以上のボランティアが登録してくれました**

《わくわくボランティアカードとは》

- 2021 年 4 月 1 日にスタート。
- ボランティア参加 1 回につき 1 個のスタンプを押し、スタンプの回数によって、商品券と交換でき、ボランティアの皆さんに好評をいただいています。
- 500 円の商品券(スタンプ 10 個)
  《使用可能店》
  関西スーパー富田林駅前店
  サンプラザ富田林店
- 1000 円の商品券(スタンプ 20 個)
  《使用可能店》
  北モンヤ

### ② こども食堂ボランティア活動

毎週木曜の夕食にこども食堂を実施していますが、2020 年のコロナまん延からは弁当方式にしています。コロナ以前は 70～100 食、弁当方式では 60～70 食出ています。調理のボランティアは午後 2 時ごろから下ごしらえをはじめ、午後 5 時に子どもたちが来るまでに弁当に詰め込んで用意します。他に、受付のボランティアがあり、受付業務、弁当代受け取り(1 食 100 円)、子どもたちへの声掛け、図書の貸出し等をしていて、中学生 2 人も参加してくれています。

### ③ 高齢者配食ボランティア活動

ひとり暮らし高齢者や、からだが不自由な校区内の高齢者向けに毎日昼食を届けています。「若一給食サービス」の職員が調理を行っていますが、配達はボランティアです。お弁当を届けるとともに必ず声をかけて安否確認や、必要に応じて関係機関へのつなぎを行っています。

### ④ 通学見守りボランティア活動

小学生の登校・下校時、通学路の危険な場所に立ち交通安全指導・見守りを行っています。主体は、町会、民生児童委員、PTA、個人など様々な形で参加しています。

## （3） こどもを対象とした学習支援と居場所づくり

### ① 小学生学習支援ボランティア

こども食堂申込者の内、希望者に対し学習支援を実施しています。宿題のお手伝いを中心に学習のお手伝いをし、後半はレクレーションの時間を取って子どもたちが楽しむと同時に様々な社会体験ができるような内容にしています。

支援ボランティアには、地元住民、元教師、大学生など多様な人々が参加し、それぞれの職業や特技をレクレーションに活かしています。

ボランティアは定期的に会議を開き、子どもの様子を情報交換し、指導方法について話し合います。また、新堂小学校とは緊密に連携し、必要なこどもには先生から誘っていただいたりしています。

バーチャル海外旅行－入国審査体験

小学生学習支援ボランティア会議

### ② 中学生学習支援活動「陽だまり」ボランティア

中学生を対象に学習支援を行い、教師を中心に地元青年、大学生が学習のお手伝いをしています。また、時々レクレーションなどの交流事業をしています。

## 《ボランティア活動の実績》

| ボランティア活動 | ボランティア登録数 | 参加回数 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ボランティアカード | 有償ボランティア | 計 |
| 高齢者配食 | 21 人 | 741 回 | – | 741 回 |
| こども食堂 | 17 人 | 291 回 | – | 291 回 |
| 通学見守り | 21 人 | 203 回 | – | 203 回 |
| 小学生学習支援 | 41 人 | 12 回 | 213 回 | 225 回 |
| 中学生学習支援 | | – | 134 回 | 134 回 |
| ラジオ体操 | – | 30 回 | – | 30 回 |
| その他 | 7 人 | 13 回 | – | 13 回 |
| 計 | 107 人 | 1,290 回 | 347 回 | 1,637 回 |

※ ボランティア登録者数は 2023 年 1 月末現在の延べ登録数

※ 参加回数は 2021 年 4 月 1 日～2023年1月18日現在の延べ参加者数

※ 一人で複数のボランティアに登録している場合もあります

# 4. I❤新小校区福祉プロジェクトのふりかえり

## （1） 新堂小学校区のつながりと交流の広がり

新堂小学校区には同和地区と府営住宅があり、これらの地域では高齢化が進み、生活保護受給世帯や、ひとり親世帯が多いなどの地域課題を抱えています。また、同和地区とその他の地域との間には、まだまだ心の垣根が存在し、府営住宅住民と旧地区住民との交流もあまり進んでいない状態が存在しています。

また、旧同和対策で設置された人権文化センターや児童館などの公共施設も、新堂小学校区住民には、まだまだ活用されていない状況が見られました。

I❤新小校区福祉プロジェクトは「オープンなつながりで、コミュニティを紡ぎなおす」ことをめざし、校区内の多くの団体、個人の参加を得た「I❤新小校区福祉プロジェクト実行委員会」で取り組んできました。

- 「新堂小学校区の元気・参加・未来のためのアンケート」では各町会の役員さんたちにご尽力いただき、校区全域を対象にしたアンケート調査を実施することができました。
- 「新小校区まち歩きスタンプラリー」には子どもから高齢者まで、多くの住民の方々にご参加いただき、校区内の知らなかったことの再発見・気づきがありました。また、スタンプポイントの設置・運営にあたっても、多くのボランティアの方々ご協力いただき、校区の一体感を体感できる取組になりました。
- これまで、富田林市人権協議会が中心になって取り組んできたボランティア活動も、新たに「わくわくボランティアカード」を取り入れ、校区住民の皆さんに広く参加を呼びかけた結果、多くの賛同を得ることができました。

このように、3 年足らずの取組ではありましたが、新堂小学校区のつながりと交流は着実に広がってきたといえます。

実行委員会の様子

## （2）こども食堂ボランティア参加者によるワークショップ

| | |
|---|---|
| 実施日 | 2022月12月 15 日 |
| 参加者 | 8 人（全員女性） |

**地域の人と関わるのが楽しかった**

**子どもが主人公の取組、でけへんかなぁ!?**
**大人は口を出さず、子どもの夢をかなえるために汗をかく!!**

## ボランティアも運動も楽しいことせんとねぇ!!

スタンプラリーやったやんね。知らない子どもさんもいっしょにいたりしてね、すごく良かったんよ。ああいう催しをもっとできたら良いかな。

スタンプラリーでも地元の子、なかなか参加せえへん。やんちゃな子って、遊びやったら、“わーっ”となるやん。そういう子らを集めて、楽しくやる。そんな子らが大きくなって、地域を支えてくれるようになんちゃうかなぁ。

ボランティアのオリエンテーションやったけど、あれってすごく良かった。自分のやりたいと思っている、関わりたいと思っているボランティアの説明を聞いて、「できへんかな」「できるかな」って、考えることができて良かった。

もうこの歳になると、しんどいときはもう、「やめとこう」っていう気になるけど、この子ら見ていたらものすごく嬉しいのよ。

まさか、80 になってこんな仕事させてもらえると、思いませんでした。楽しく、からだが続く限り、やらせてもらいたいなぁと。娘に「また、お母さん、さっきも同じこと、言ってたよ」って、いつも偉そうに言われるんやけど、ここでは、トンチンカンなこと、同じことを何べん聞いても、みなさん、優しく言うてくださるでしょ。みんな和気あいあいと楽しくさせてもらっています。迷惑でない限り、続けさせてもらいたいなぁ。

最初、めっちゃ、緊張してたんですけど、いろんな人と仲良くなって、中学生になってもボランティアに誘ってもらえて、自分の居場所ができたって、それがすごく嬉しくて。子どもたちにも、ここが自分の居場所になってほしいなと思います。

小学生のときは、なんとなく友達がいるから、こども食堂に来てた感じやねんけど、中学生になって、友達に誘われて来てみたら、なんか懐かしくて、楽しいんやなって感じるようになりました。

## （3） こども食堂ボランティア・アンケート

| |
|---|
| 実施日　2022月12月 15 日<br>回答者　8 人（全員女性） |

1. I❤新小校区プロジェクトについては知っていましたか

| | |
|---|---|
| 知っていた | 6 人 |
| 知らなかった | 2 人 |

2. どのような内容のボランティアをしていますか

| | |
|---|---|
| 子ども食堂の調理 | 6 人 |
| 子ども食堂の受付 | 2 人 |
| その他 | 0 人 |

3. 月にどのくらいこのボランティにア参加していますか

| | |
|---|---|
| I❤新小校区福祉プロジェクトのオリエンテーションやチラシで知った | 0 人 |
| 人権協議会の職員から声をかけてもらった | 7 人 |
| 友人や知人から聞いた | 1 人 |
| その他 | 0 人 |

4. 月にどのくらいこのボランティにア参加していますか

| | |
|---|---|
| 月1回くらい | 1 人 |
| 月2回～3回くらい | 1 人 |
| 月4回（毎週） | 6 人 |

5. このボランティアを今後も継続してみようと思いますか

| | |
|---|---|
| 思う | 8 人 |
| 思わない | 0 人 |
| わからない | 0 人 |

6. 他にやってみたいボランティア活動はありますか

| | |
|---|---|
| ある | 3 人 |
| ない | 5 人 |

7. あると答えた方、やってみたいボランティアの内容を教えてください
   - 買い物の同行、代行。喫茶事業
   - 月1回ぐらい集まって楽しいことをする。お茶、歌を歌う、どこかへ遊びにいく

8. わくわくボランティアカードで商品券をもらったことがありますか

| | |
|---|---|
| ある | 8 人 |
| ない | 0 人 |

9. わくわくボランティアカードはあった方が良いと思いますか

| | |
|---|---|
| あった方がいい | 6 人 |
| ない方がいい | 0 人 |
| その他 | 2 人 |

10. 上の答えの理由を教えてください

- もらった商品券は大切に残している。
- 励みになる。いつのまにかいっぱいになった時にうれしさと頑張った後自分をほめることができる。
- 気持ちがうれしいと思います。もらう方は張り合いが出ると思う。
- 楽しい感がある
- すべてのスタンプがたまった時の達成感があってすごい楽しいから
- あてにはしていないが、努力が認められ報われた気がする

11. I❤新小校区福祉プロジェクトで地域の助け合いや交流の輪が広がったと思いますか

| | |
|---|---|
| 思う | 8 人 |
| 思わない | 0 人 |

12. I♡新小校区福祉プロジェクトの活動についてご意見をお聞かせください

- 楠風台の住人からみるととてもうらやましいです。
- この活動によって様々な人との関わりもできて、その人達の「やったる」という気持ちの基本になっていると思う。かけがえのないプロジェクトになっている。
- 地域のいろいろな方が力を出し合い、行事を通じて顔見知りになり地域を上げた福祉の取組が前進した。たくさんのボランティアを育成できた。

## （4） 高齢者配食ボランティア参加者によるワークショップ

| | |
|---|---|
| 実施日 | 2022月12月 15 日 |
| 参加者 | 8 人(女性6人、男性2人) |

**I♡新小校区福祉プロジェクトの凄い人を見つけました!!**

**抗がん剤治療でほとんど動けなかった A さんが、配食ボランティアを始めました!!**

元々、社協の配食ボランティアをやっていました。がんを患って、抗がん剤の副作用で手足が痺れるので、車に乗れない、社協のボランティアもできない状態でした。

ここのプロジェクトを知って、「私でもできることはありますか？」と声をかけて、参加させてもらうことになりました。

それでも、やっぱり足元が危ないし、自転車も乗れないので、不安だらけでしたが、自宅に弁当持ってきてもらって、自分の配れる範囲から配食のお手伝いを始めました。

最初は階段も手すりを持ちながらの伝い歩きだったのが、だんだん歩けるようになって、今では週 3 回ボランティアをさせていただけるまでになりました。

最初、歩いている姿を見たら、本当に危なっかしかったのに、今では元気に歩けるようになって、凄いですよね

A さん。昨年 12 月から、とうとう民生委員を引き受けるまでになったんですよ。

**一同、すご～い!!**

## プロジェクトの LINE や、わくわくボランティアカードを始めました

この前、初めてスタンプラリーの時ね、LINE でもらいました。何かあったら、LINE もらえたら、お手伝いするよ。

ボランティアカードで商品券もらえるのはうれしいよね。楽しみになるわ。

配食ボランティアでスタンプももらえるけど、お弁当ももらえるから、どっちがイイかなぁ？

帰って、そのまま食べられるし、お弁当の方がイイかなぁ。

配食ボランティアに行った後、お弁当を食べて、ひまわりさん（まちかどデイサービス）で過ごす。ひまわりさんは自由やから、イイよね。

## 人と人とのつながりや地域の再発見が楽しい!!

お弁当配りに行ったときに、「お茶飲んでいき」とか言ってくれる、そういうつながりが楽しいよね。

配食ボランティアで、地域のことがよくわかる。私のことも知ってもらって、向こうのことも知れる。そういう出会い、つながりが楽しい。

今回のスタンプラリーで、こんな遠くまでが新小校区なの？って、再発見が楽しい。

おじいちゃん、おばあちゃんと接して、感謝されたりとかするし、やっぱり、そういうのは良かったと思う。

## （5） 高齢者配食ボランティア・アンケート

| | |
|---|---|
| 実施日　2022月12月 20 日<br>回答者　8 人（女性6人、男性2人） | |

1. I❤新小校区プロジェクトについては知っていましたか

| | |
|---|---|
| 知っていた | 6 人 |
| 知らなかった | 2 人 |

2. どのような内容のボランティアをしていますか

| | |
|---|---|
| お弁当の調理 | 1 人 |
| お弁当の配達 | 7 人 |
| その他 | 0 人 |

3. このボランティアに参加したきっかけは何ですか

| | |
|---|---|
| I❤新小校区福祉プロジェクトのオリエンテーションやチラシで知った | 0 人 |
| 人権協議会の職員から声をかけてもらった | 6 人 |
| 友人や知人から聞いた | 2 人 |

4. 月にどのくらいこのボランティにア参加していますか

| | |
|---|---|
| 月1回くらい | 5 人 |
| 月2回～3回くらい | 2 人 |
| 月4回（毎週） | 1 人 |

5. このボランティアを今後も継続してみようと思いますか

| | |
|---|---|
| 思う | 7 人 |
| 思わない | 0 人 |
| わからない | 1 人 |

6. 他にやってみたいボランティア活動はありますか

| | |
|---|---|
| ある | 3 人 |
| ない | 5 人 |

7. あると答えた方、やってみたいボランティアの内容を教えてください

- 買い物付き添い、ゴミ出し

8. わくわくボランティアカードで商品券をもらったことがありますか

| | |
|---|---|
| ある | 6 人 |
| ない | 2 人 |

9. わくわくボランティアカードはあった方が良いと思いますか

| | |
|---|---|
| あった方がいい | 7 人 |
| ない方がいい | 0 人 |
| その他 | 1 人 |

10. 上の答えの理由を教えてください

- うれしい、楽しみで続けられる。
- 気持ちの問題
- お買い物できて助かる
- ボランティアさんのはげみになる
- 積み上げを実感する
- 回数が分かりやすいので

11. I❤新小校区福祉プロジェクトで地域の助け合いや交流の輪が広がったと思いますか

| | |
|---|---|
| 思う | 7 人 |
| 思わない | 0 人 |
| 分からない | 1 人 |

12. I❤新小校区福祉プロジェクトの活動についてご意見をお聞かせください

- 色々楽しめている
- 人と人とがつながり、お年よりたちの会話につながり良いと思う
- すばらしい活動だと思います

## （6） 新堂小学校区交流会議参加者のふりかえり

| | |
|---|---|
| 実施日 | 2022月12月 21 日 |
| テーマ | 第 2 回新小校区まち歩きスタンプラリーに参加して |

- 町会がよく動いてくれた
- クイズもよかった
- それぞれのブースに地元の人があまり来ていなかったのではないか
- 小さい子連れの若いお母さんが多かったという印象
- 緑ヶ丘で飲み物やお菓子を出してくれて休憩できたのが良かった
- それぞれのブースの＋αがよかった
- 地域のつながりを感じた
- 小学生の参加では、低学年が多く高学年は少なかった。高学年も参加してもらえるような工夫が必要では
- 地図が少しわかりにくい。目印を入れておくとか、近所に誘導員を配置するなども考えられる
- 時間内での全ポイント制覇は難しい。時間を 30 分伸ばしてもよいのではないか

## （7） 新堂小学校区交流会議参加者のアンケート

| |
|---|
| 実施日　2022月12月 21 日<br>回答者　8 人（女性 3 人、男性 4 人、不明 1 名） |

1. I❤新小校区プロジェクトについては知っていましたか

| | |
|---|---|
| 知っていた | 8 人 |
| 知らなかった | 0 人 |

2. I❤新小校区福祉プロジェクトの事業に参加したことがありますか

| | |
|---|---|
| ある | 7 人 |
| ない | 1 人 |

3. 「ある」と答えた方、I❤新小校区福祉プロジェクトの事業に参加したきっかけは何ですか

| | |
|---|---|
| I❤新小校区福祉プロジェクトのオリエンテーションやチラシで知った | 2 人 |
| 人権協議会の職員から声をかけてもらった | 5 人 |
| 友人や知人から聞いた<br>その他 | 1 人<br>3 人 |

4. 参加したことのある方、どんな事業に参加しましたか（複数回答）

| | |
|---|---|
| まち歩きスタンプラリー | 3 人 |
| こども食堂・高齢者配食サービス等のボランティア | 3 人 |
| こどもの学習支援<br>その他（ボランティアオリエンテーション） | 0 人<br>1 人 |

5. I❤新小校区福祉プロジェクトで地域の助け合いや交流の輪が広がったと思いますか

| | |
|---|---|
| 思う | 8 人 |
| 思わない | 0 人 |
| わからない | 0 人 |

6. I❤新小校区福祉プロジェクトの活動についてご意見をお聞かせください
   - 地域のボランティアを広め、増進を具体化しているのでぜひ広めてほしい
   - 今回のまち歩きスタンプラリーには参加できなかったですが、来年参加できたらと思います。景品等必要でしたら用意します

7. 校区交流会議がI❤新小校区福祉プロジェクトの事業を引き継ぐことについてどう思いますか

| | |
|---|---|
| よいと思う | 7 人 |
| しない方が良いと思う | 0 人 |
| わからない | 1 人 |

8. その理由を教えてください

- 携わってる方の話を伺ってそういう感想を持ちました
- 地域に散在する人を結び付けることが大事だと思います
- プロジェクトと交流会議の両方に参加しているメンバーが多いと思うから

## 5. I❤新小校区福祉プロジェクトのこれから

### （1）新堂小学校区交流会議との連携協働

I❤新小校区福祉プロジェクトは、休眠預金等活用事業を活用して取り組んできましたが、2022 年度で助成期間が終了するため、今後は新堂小学校区交流会議との連携協働した取組として、継承発展させていきたいと考えています。

I❤新小校区福祉プロジェクト実行委員会は、新堂小学校区交流会議とほぼ同じ構成メンバーで運営されてきましたが、新堂小学校区交流会議との連携協働した取組として、継承発展させることによって、よりいっそう新堂小学校区ぐるみの取組へと発展させていくことをめざします。

校区交流会議とは

校区交流会議は、増進型地域福祉を実現するために、市内 16 小学校区ごとの地域が主体となって開催されており、新堂小学校区交流会議は「新堂校区を愛し知ってもらおう❤」を活動のテーマにしています。

《新堂小学校区交流会議の参加者》

町総代・民生委員児童委員協議会・地区福祉委員会・地域住民・新堂小学校・新堂幼稚園・みどり保育園・若葉保育園・新堂診療所・在宅介護支援センター・地域包括支援センター・人権文化センター・人権協議会・児童館・NPO 法人南河内つくろう会・NPO 法人あい・bon キッズ富田林・コミュニティソーシャルワーカー・市校区担当職員・富田林市社会福祉協議会等

### （2）新小校区まち歩きスタンプラリーを地域ぐるみのイベントに育てる

2 回にわたって開催した新小校区まち歩きスタンプラリーは大好評でした。住民の皆さんからは「楽しかった」「これからもずっと続けてほしい」と、たくさんの声をいただています。

今後も、新堂小学校区交流会議と連携協働した地域ぐるみのイベントとして、住民のみなさんと共に大きく育てていきたいと思います。

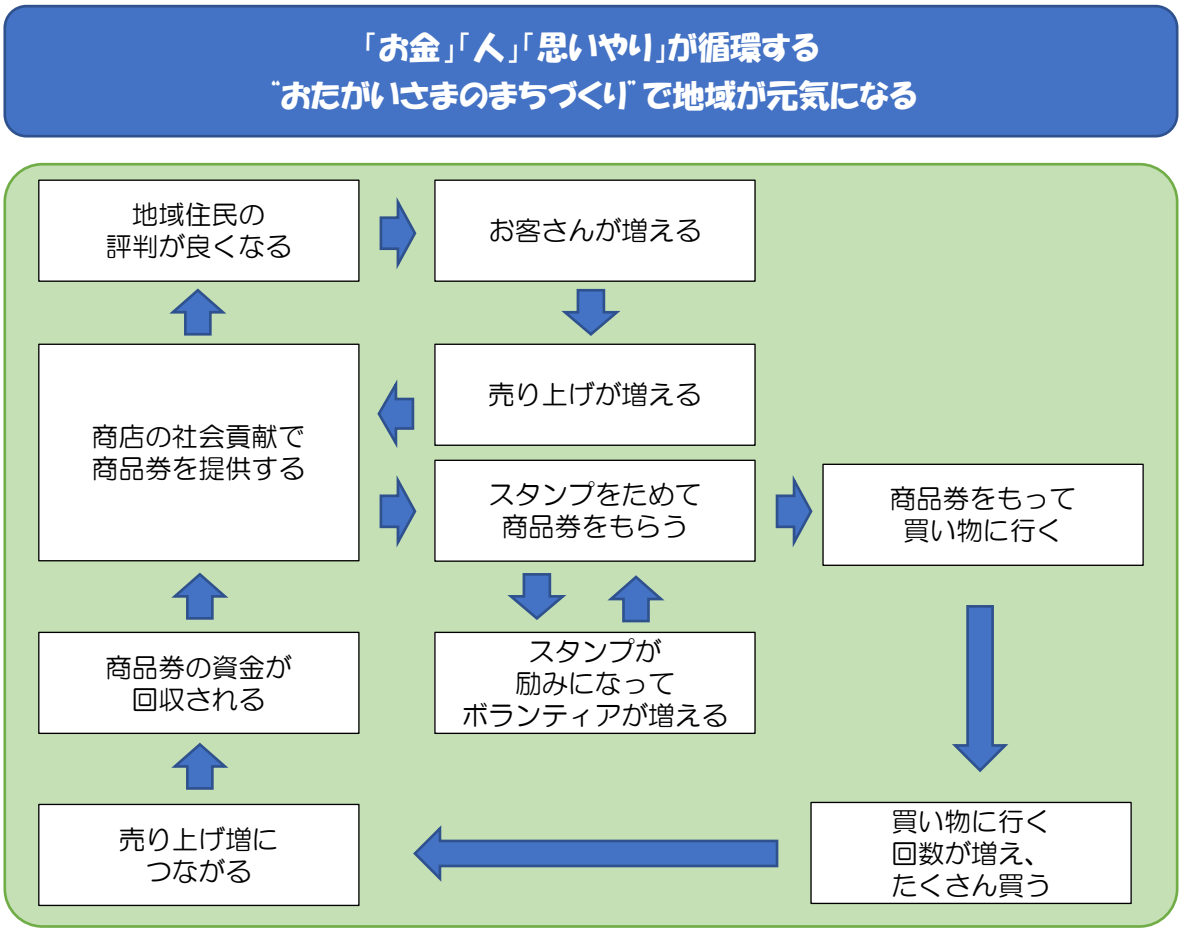
### （3）「お金」「人」「思いやり」が循環する“おたがいさまのまちづくり”

有償ボランティアシステムづくりに取り組んで、いろんな気づきがありました。

ボランティアに参加した人たちは口をそろえて、「人とのふれあいが楽しい」「誰かの役に立っていると感じることがやりがいになる」「利用者のみなさんに元気をもらった」「スタンプがたまっていくのが励みになる」とおっしゃっています。

休眠預金等活用事業の助成金は今年度で終了します。来年度からは「財源ゼロ」からの再スタートです。

例えば、商店、ボランティア、利用者、住民、地域のみんながWin Win になる「**お金**」「**人**」「**思いやり**」が循環する"**おたがいさまのまちづくり**"が進められないでしょうか。




また、住民や地域団体のそれぞれが、自分のできる範囲で**活・財・知**を少しずつ提供し合う地域貢献の仕組みができないでしょうか。

**活…地域活動やボランティアに参加する**
**財…活動資金を寄付する**
**知…知恵やアイデアを出し合う**

そして、「支える」「支えられる」という関係ではなく、例えば「高齢者が支え合う」「子ども同士でさえ合う」など、「支え、支えられる」というような住民のつながりを創り出し、"みんなで支え合う、お互いさまのまちづくり"を進めていきたいと思います。

I❤新小校区福祉プロジェクト　報告書

発行　一般社団法人富田林市人権協議会

住所　大阪府富田林市若松町 1-9-12

富田林市人権文化センター内

電話　0721-24-3700

## 介護予防・自立支援5ヶ年計画に取り組んでいます！

高齢者が住み慣れた地域で元気に暮らしていくためには、介護予防の意識を高め、やりがいや生きがいとなる活動、役割をもち意欲的に取り組むことが大切です。そのため、市では令和２年度に「介護予防・自立支援５ヶ年計画」を策定し、段階的、継続的に進めています。

５ヶ年計画は、**「医療」「介護」「地域」**の３つの分野にわかれており、計画と５年後の目標を掲げています。今回は、「介護」の内容を紹介します。

なお、５ヶ年計画の詳細は、市ウェブサイトで確認できます（右 QR コードからも確認できます）。

### 介護予防がめざすもの

心身機能の改善 → 生活機能の改善 → 自己実現 生きがい

言いかえると、

体づくり → 生活が楽になる → したいことができる

「外出できる体」を作ることから、
「外出して、したいことができる体」を作ることへ。

### みんなで重度化予防に取り組もう！

介護予防の取り組みは、いつ始めても自分らしい生活へとつながります。**「年をとれば介護されて当然」という意識ではなく**、「できるだけその時を遅らせる」「介護が必要な状態になっても、それ以上悪化させない」という気持ちが大切です。

運動や人との交流を楽しめる様々な「集いの場」を整理し、情報発信していきます。また、医療、介護、福祉における専門職自身の介護予防への意識を高めていきます。

### 地域に開かれた介護施設を目指そう！

地域の特性や介護事業所の強みを活かし、地域と介護事業所が一緒になって介護予防について進めていきます。

みなさんは地域にどんな事業所があるかご存じですか？「こんなことを一緒にできるかも」「施設のことをもっと知りたい」など、市高齢介護課までご意見よろしくお願いいたします。

## ひとりで悩まないで

さまざまな悩みを抱えてお困りのとき、生きることが辛く感じられるときは、ひとりで悩まず、ぜひお電話ください。

◆ こころの健康相談（富田林保健所）0721-23-2684
　9:00～17:45/月～金（祝日・年末年始を除く）

◆ こころの健康相談統一ダイヤル 0570-064-556
　●9:30～17:00/月～金（祝日・年末年始を除く）
　●18:30～22:30（受付は 22:00）/月～金
　（祝日・年末年始を除く）

# ほんわか新聞

令和４年３月号
発行者 富田林市高齢介護課
ほんわかセンター
富田林市常盤町 1-1
0721-25-1000

## あわてず対応、消費者問題！

消費者問題とは、商品を購入するときや、サービスを利用するときに起こる様々なトラブルのことです。最近、インターネット販売や定期購入によるトラブルが増加しています。

### 架空請求

利用した覚えのない業者からいきなり料金の支払いを求められます。「本日中に連絡が無い場合は、法的手続きを取ります」などと書かれていますが、連絡を取ることで相手に個人情報を知らせることにつながります。

**<対策>「連絡を取らず無視する」**が基本的な対応です。気になる人は、下記の相談窓口へ相談しましょう。

### 定期購入に関するトラブル

「今なら 100 円でお試しいただけます！」など、低額な呼び込みで契約を結び、その後定期的に商品が届いて高額な請求がされます。また、解約をしようとしても、途中解約ができないことがあります。

**<対策>**普段と違う買い物をする時は、お試しだからと**簡単に購入せず、周囲に相談**しましょう。

### 家の修理に関するトラブル

トイレが詰まるなどのトラブルがあり、インターネットで価格が安い業者を調べて依頼すると、必要か不要か判らない内容で高額の請求がされます。

**<対策>契約を急がず、周囲に相談**したり、**別の業者に見積もり**を依頼したりしましょう。

### STOP！特殊詐欺

**本市でも還付金詐欺が増えています。**市職員や金融機関職員、警察官などを名乗り「医療費の還付がある。今日中に手続きをしないとできなくなってしまう」などと ATM に誘導し、現金を振り込ませます。**ATM での還付金の手続きは絶対にありません！**

他には、警察や金融機関職員を名乗り、「キャッシュカードが犯罪に利用された可能性があるため調査をする」などと言い、キャッシュカードをだまし取る詐欺も出てきています。

**<対策>**相手の話を鵜呑みにせず、**一度電話を切って下記の相談窓口へ連絡**し、内容を確認しましょう。少しの手間で被害を防ぐことができます。

**相談窓口**　消費者ホットライン☎188
富田林市消費生活センター☎25-1000　富田林警察署☎25-1234

## 第8回 認知症の本を読もう！MEET★富田林コンクール表彰

認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市内の小中学生に、認知症関連の本を読んで感じたことを表現した感想文や絵を募集しました。選考の結果、７人が受賞、令和３年 11 月の表彰式には６人が参加しました。式の様子や受賞作品は、市ウェブサイトをご覧ください（右ＱＲコードからウェブサイトへアクセスできます）。

# 「Withコロナ・Afterコロナ」での地域活動

コロナ禍で地域の集会所や老人いこいの家などが休館となり、数多くの団体が活動の自粛を余儀なくされました。活動を再開する団体からは、

今までと同じような活動は、**今後できないのでは**ないか？

三密を避けるため、**どのように活動すれば**良いか？

という声がある一方で、

このような状況下だからこそ、**住民同士の見守りや助け合いが必要**

という声もあり、これまでのつながりを活かした取り組みや、新しくオンラインを活かした取り組みを行う団体が出てきています。

また、他の団体ではどのような活動をしているのか？　といった声も数多くいただきました。

本市では、**高齢者の社会参加**及び**生活支援・介護予防の充実**を目的として、市内の民間企業やNPO、ボランティア、住民をはじめとした地域のみなさんが協力しながら、「富田林市生活支援等サービス体制整備協議体」を定期的に開催しています。10月の当協議体では、**「コロナ禍でもできる地域活動」**を話し合いました。

今回、その中で話題に上がった活動を紹介します。

## 買い物支援で生まれる交流の場

### 南寿美ヶ丘で始まった移動スーパー「とくし丸」！

移動スーパー「とくし丸」が南寿美ヶ丘（東板持町）でも動き出しました。南寿美ヶ丘は高台の地域にあり、買い物や外出に困難を感じる人がたくさんいます。コロナ禍で人との交流が減る中、移動スーパーを利用し、何かできないものかと思い立ったのが老人クラブ「すみれ会」です。

すみれ会では、3か所の停車地があれば、地域の人がまんべんなく集まれる機会になると考えました。第２ほんわかセンターの職員や移動スーパーの事業者と一緒に検討を重ね、町会の協力を得て、移動スーパーについて全戸に周知しました。

現在、毎週火・金曜日の週２回、移動スーパーの各拠点には約25人が集まります。自分の手や目で商品を確認して買い物ができるようになり、買い物が困難な人への支援が可能になりました。

また、地域の人の顔を見る機会が増え、必然と新たな交流が生まれました。**買い物支援だけでなく、新しい交流の場**となる移動スーパーは、コロナ禍だからこそ改めて地域のつながりの大切さを感じる取り組みです。



## 新たな試みでイベント開催

### 新堂小学校区「まち歩きスタンプラリー」盛大に開催！

「I♡（あいらぶ）新小校区福祉プロジェクト」の一環として取り組んだ「まち歩きスタンプラリー」は、参加者のべ833人、スタッフ約40人で、6月27日、盛大に開催されました。校区内に6か所のスタンプポイントを設け、準備には人権協議会、町会役員、民生児童委員、社会福祉協議会、コミュニティーソーシャルワーカー、新堂診療所など多くの人が参加し、地元商店やスーパーも協力しました。

参加者からは、「クイズもあり楽しかった」「いい運動になった」「次回も期待している」といった声が聞かれました。

スタンプラリーは、**コロナ禍でもできる屋外イベント**として、同地区で今後も開催を検討中です。

**<I♡（あいらぶ）新小校区福祉プロジェクトとは？>**

公営住宅、古くからの住宅、新興住宅、工業団地など様々な特徴ある地域が集まる新堂小学校区を対象に、福祉のまちづくりを進めるための事業です。

I♡新小校区福祉プロジェクト
ロゴマーク

## LINEで情報発信スタート

### 金剛地区周辺を中心にLINEで情報発信中！

「ちいきつくりたい（隊）」は、金剛地区周辺を中心に、商業施設や公民館、集会所などで介護や福祉などの相談に応じる「にこにこ出張相談所」を開催しています。また、「ちいきつくりたい(隊)だより」を春と秋に発行し、福祉機関の紹介や地域情報などを発信しています。

外出自粛を求められ、人との交流が難しくなったコロナ禍では、地域の情報を届けにくくなりました。そこで、地域内の高齢者を対象にアンケートを実施し、情報収集手段や地域のお役立ち情報を集めました。

そして、令和３年12月から、主に高齢者を対象とした**地域のお役立ち情報**（買い物や集いの場の情報など）や**地域のイベント情報**などを**LINEで発信**しています。

興味のある人は、下記のQRコードからLINEで「ちいきつくり（隊）」を友だち登録してみてはいかがでしょうか。

**LINEの友達登録の方法**

① LINEホーム画面右上の　をおす。

② 「QRコード」マークをおす。

③ 最後に　追加　をおす。

# Ⅰ ♥新小校区福祉プロジェクトの振り返り

桃山学院大学　小野達也

## １．はじめに

Ⅰ ♥新小校区福祉プロジェクト（以下、本プロジェクト）の 3 年間の取り組みを振り返る。その際に、プログラム評価の考え方を取り入れ、かつ増進型地域福祉の視点も参照する。本プロジェクトは、対象となる地域や人々のより良い状態の実現を目指す社会的介入プログラムである。この場合のプログラムとはある社会的目的を果たすための一連の活動群を含む取り組みの全体を指している。その評価をおこなうのがプログラム評価であり、これには次のような特徴があるとされている（源由理子 2020）。

・ある社会目的の達成に向けた社会的介入プログラムの評価
・体系的に調査を行い、根拠となるデータを収集する
・データを何らかの基準と比較しながらプログラムの有効性を明らかにする
・評価の方法は政策的・組織的文脈に合わせて選択
・プログラムの成果のみならず、プログラム構造・理論・プロセス・効率性も評価に含まれる
・評価は社会を改善するための情報源として活用

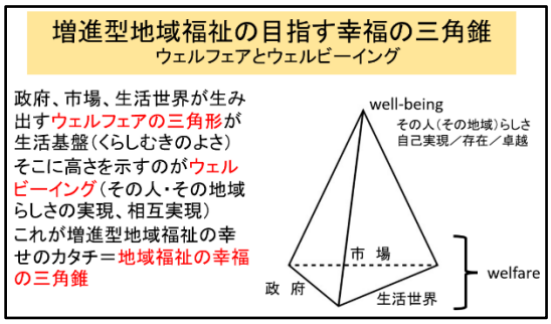
この中の何らかの基準に当たるものが増進型地域福祉となる。つまり増進型地域福祉という基準と比較してプログラムの有効性を検討する。そのために、増進型地域福祉を簡単に説明しておきたい。

増進型地域福祉とは、幸福としての福祉の実現を目指すものである。一般的には、生活に困難を抱えたマイナスの状態をその困難を解決し、ゼロの状態に戻すことが福祉と考えられているかもしれない。しかし、増進型の考え方はそこにとどまるものではなく、こうなったらいいなあという理想の状態を当事者本人とともに描き出し、共同の実践によってその実現を目指すものである。その結果として一人ひとりの幸せと地域の幸せをともに生み出す地域福祉である。増進型地域福祉にかかわることによってその人の、その地域の可能性が開いていく。

増進型地域福祉には二つの理念がある。一つ目は、増進型地域福祉は幸福の実現を目指す、というものである。これは増進型の目的に関わる理念である。二つ目は、増進型地域福祉は対話を基本に進める、というものである。地域福祉の実践にかかわる全ての人々が話し合い、合意形成をして、共同の実践に取り組む。これは、増進型の進め方に関する理念である。この理念もとに次の 5 つの特性がある。

①増進型地域福祉が目指すのは理想、幸福という高いレベル
②増進型地域福祉は問題解決型ではなく目的実現型のアプローチ
③増進型地域福祉は対話、コミュニケーションをもとに進めていく
④増進型地域福祉はプロセスを大切にする
⑤増進型地域福祉は個人の幸せと地域の幸せをともに目指す

この増進型地域福祉をカタチにしたものが「地域福祉の幸福の三角錐」である。＊図の挿入これは、福祉をウェルフェアとウェルビーイングで把握している。ウェルフェアとは生活のくらしむきの良さを示すものである。生活のくらし向きは、三つの要素から生まれる。一つは市場によるもので、さまざまな消費財やサービスが市場から提供される。二つ目は政府によるもので、ハード、ソフトの社会生活の基盤や福祉サービス等が政府から提供される。第三が生活世界であり、家族、地域、社



会、自然等との関係からさまざまな生活資源、困難な時の支援等が提供される。これらの三つの要素の状況で、暮らし向きがどのような状態なのかが形成されていく。これに対して、その人らしさ、その地域らしさを示しているのがウェルビーイングである。ウェルビーイングはその人（その地域）がその持つ可能性を開花させながら、いきいきと生活・存在できているかを表す。ただし、利己主義的な自分だけよくあればいいというものではなく、互いが互いを生かし合う相互実現を目指すものである。ウェルフェアの部分が豊かに大きくなり、ウェルビーイングがより高くなっていく状態を目指すのが増進型地域福祉のカタチを示す地域福祉の幸福の三角錐である。

## ２　Ｉ ♥新小校区福祉プロジェクトのプログラム評価

プログラムの基本的な構成要素として、準備段階のインプット、そして実際の活動（アクティビティ）、その結果（アウトプット）、さらにそこから生まれた成果（アウトカム）がある。インプットには、活動に必要なヒト・モノ・カネ、そして計画などが入る。活動は実際のプログラム、取り組みである。結果（アウトプット）は活動回数や参加者数であり、成果（アウトカム）は人や地域の変化となる。以下では、本プロジェクトを振り返るために三つの段階に分ける。一つ目が準備段階で、ここにはニーズ評価やセオリー評価が入る。二つ目は活動段階で、ここにはプロセス評価が位置づく。三番目は結果・成果の段階で、ここに入るのがアウトプット評価、アウトカム評価である。

### （１）準備（インプット）について　ニーズ評価・セオリー評価

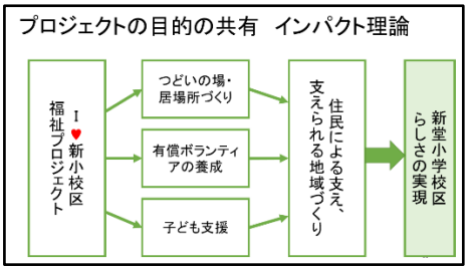
まず基本的な内容を確認する。本プロジェクトの目的は「住民による支え、支えられる地域づくり」であり、これは明確に掲げられている。

進め方として、実行委員会という方法を取っている。つまり本プロジェクトにかかわる組織や人々である。実行委員会は、富田林市人権協議会、民生・児童委員協議会新堂地区委員会、富田林市社会福祉市協議会、新堂診療所で構成されており、地域の生活や福祉に関わる主要な組織が入っている。また新堂小学校区交流会議とも連携している。校区交流会議とは増進型地域福祉の実現を掲げる富田林市の地域福祉計画に位置づけられている、各小学校区で理想の地域福祉活動の創造を目指す話し合いの場である。

また、プロジェクトの最初に、アンケート調査を住民対象に実施している。

活動に関しては、3 つの柱を立てている。１）つどいの場・居場所づくり、２）有償ボランティア、３）子ども支援である。

以上のことから、インパクト理論を構成してみると＊図(図の挿入)のようになる。




これを増進型のポイントを入れて振り返ると次のようになる。

①関係する人はすべて参加できたか？

実行委員会の内容を見れば、地域の主要な組織が参加していることがわかる。この点は評価できる。ただし、個人参加が増えることや当事者の参加があればさらに多様な声が聞けそうである。

②話し合いはしっかりできたか？すでに決まっているのではなく、何をしたいかを出せたか。

話し合いとしては、自由な話し合いが進められた様子がある。基本の目的から話せるのか、具体的な活動から話すのかでも整理が求められそうである。

③納得する合意形成ができたか？まず活動ありきではなく、話し合いと了解。

活動がまずあって、そのあとで考えればよいというのではなく、目的や方法に合意して参加できているかということになる。この部分については、今後さらに工夫があるとよい。

④理想の目的を意識したか？

ある程度できていたのではないか。

⑤幸福としての福祉というイメージを持ったか？

幸福としての福祉というメージを持つには大きな転換が必要であり、今後の課題といえる。

活動を始めるに先立ってアンケートを実施した点は、高く評価できる。住民の声を聞く機会として貴重である。ここからは、町会への加入割合や地域活動の参加割合の高さ、一定の近所付き合いの状況、悩みや困りごと、参加したい活動等が把握できた。その一方で、回収率の少なさ（約 1 割)、回答者の年齢層の偏り（65 歳以上が約 3 分の 2)、地域の偏り（ここは地域別の人数がわからないので偏りの程度は不明確だが）といった課題があげられる。これらは調査方法の工夫が求められる点である。さらに、活動後の状況についても地域対象のアンケート調査が行えればなお良かった。

（２）活動について　プロセス評価

活動の３つの柱１）つどいの場・居場所づくり、２）有償ボランティア、３）子ども支援に対する具体的な内容については次のように評価できる。

１）つどいの場・居場所づくり

①ＳＮＳを活用したつながりづくり

コロナによって特に地域での活動は直接対面が難しい中で、新たな繋がり方法を模索しており、工夫された取り組みである。

②まち歩きスタンプラリー　その１（833 人)，その２（1442 人）

準備から実施まで、多くの人を巻き込む大掛かりな取り組みとなった。地域住民の周知だけでなく、小学校にもチラシの配布ができたことは特長である。1 回目の盛り上がりを受けて、2 回目も実施しており、さらに多くの参加者を得ている。事業が発展していったことで、地域に対するインパクトも大きかったと考えられる。参加者やボランティアの感想からは、楽しい雰囲気や肯定的評価が確認できる。

③公式輪投げ競技による交流・健康づくり

当初の企画にはなかったが、活動の中で生まれてきた企画である。本プロジェクトの存在が、活動を広げる効果を生みだしたことがわかる。

２）有償ボランティア

①地域ボランティアオリエンテーション

活動種類別に５回のオリエンテーションが実施された。どの回にも 10 名前後の参加者が集まっており、一定の効果があったことがわかる。それぞれの活動が、こうした支援を得ることでエンパワメントされたのではないか。わくわくボランティアカードに 80 人以上のボランティアが登録したという結果も、地域の今後の活動を支えていくうえで重要である。

②子ども食堂ボランティア活動

③高齢者配食ボランティア活動

④通学見守りボランティア活動

②～④の活動が、着実に進んでいることが了解できる。今後は地域のニーズに合わせて、活動をど

こまで展開するのか、目標が分かるとよい。

３）子ども支援

①小学生学習支援

子ども食堂と連携した取り組みとなっていることは重要である。かかわっている人や定期的な会議という工夫がある。その一方でボランティアの登録数や参加回数はわかるが小学生の参加数や支援自体の開催回数、そこでの学習内容のといった質的な面も把握できるとよい。

②中学生学習支援

学習支援と同時に交流事業もしているのは重要と考える。小学生支援と同様支援の量や質について、分かるようになるとよい。

（３）結果・成果につて　アウトプット・アウトカム評価

数値的な結果については確認でき、一定の成果があったことがわかる。ただし数値的に把握が難しいことにも目を向ける必要があり、特にボランティアの関りがどうだったのかが重要となる。増進型地域福祉からすると、活動がワクワクしたものか、面白かったか、主体的に参加できたかどうかといった点である。活動報告書やかかわった人たちへのヒアリングからは、活動自体のワクワク感や面白さがあることがわかった。地域活動は、強制や義務、また金銭的な利潤追求で行うものではない。やりたいという気持ちが生まれるようなワクワク感、楽しみ、主体性を引き出せるような取り組みが重要であり、今回の取り組みには一定の意義が認められる。

３　まとめ

本プロジェクトは三年間の取り組みであり、時期的には開始当初からコロナの影響が大きなものがあった。それでもその中でやれることを模索して進めてきたと見ることができる。活動に関わった人たちからは、活動によってかかわりが生まれてきたり、雰囲気が変わってきたという声が上がっている。活動としては、今回はくつかの種まきをした段階といえる。それを育てていき、地域への影響を生みでしていくのが今後の課題と言えよう。ただし、それは将来のために今を犠牲に知るという取り組みではない。いま取り組むことの楽しさ、喜びを関わりある人たちがともに享受することが重要である。いま、ここでの取り組みに価値があるのである。その楽しさ、喜びが周りに伝わっていくことで変化が生まれることを期待したい。

最後に、増進型地域福祉の二つの理念を再び確認しておきたい。一つ目の理念は増進型地域福祉は幸福の実現を目指す、であった。本プロジェクトがまいた種が幸福の実現へとつながっていることを意識したい。二つ目の理念が増進型地域福祉は対話を基本に進める、である。プロジェクトを進める中で、かかわる人たちが対象化されたり、客体として利用されることなく、活動に主体的に関わるためにコミュニケーション、対話が基本であることを共有したい。

この二つの理念を踏まえることで、さらに発展するプロジェクトが生まれていくことになるだろう。